

2025年度 看護学部 看護学科 シラバス

■目次

学修成果(到達目標)、カリキュラムマップ	4
カリキュラムツリー	6
1年生 年間予定表	10
1年生 シラバス	13

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	13	栄養学	31
英語Ⅰ	14	病理学	32
英語Ⅱ	15	病態治療学Ⅰ	33
情報処理Ⅰ	16	病態治療学Ⅱ	34
情報処理Ⅱ	17	病態治療学Ⅲ	35
生命倫理学	18	看護薬理学	36
心理学	19	看護学概論	37
宗教と民族	20	看護倫理	38
人間関係論	21	看護過程論	39
社会学	22	基礎看護技術Ⅰ	40
社会保障論	23	基礎看護技術Ⅱ	41
物理学	24	基礎看護技術Ⅲ	43
生物学	25	基礎看護技術Ⅳ	44
人体構造と機能Ⅰ	26	成人看護学概論	46
人体構造と機能Ⅱ	27	スタートアップセミナー	47
人体構造と機能Ⅲ	28	基礎看護学実習Ⅰ	48
生化学	29	基礎看護学実習Ⅱ	49
微生物学	30		

2年生 年間予定表	52
2年生 シラバス	55

開講科目	頁	開講科目	頁
ICT活用技術	55	老年看護学援助方法	75
法学入門	56	小児看護学概論	77
経済と政策	57	小児看護学援助論	78
自然環境と災害	58	小児看護学援助方法	79
統計学入門	59	母性看護学概論	80
健康スポーツⅠ	60	母性看護学援助論	81
健康スポーツⅡ	61	母性看護学援助方法	82
病態治療学Ⅳ	62	精神看護学概論	84
公衆衛生学	63	精神看護学援助論	85
疫学	64	精神看護学援助方法	86
保健情報論	65	看護過程展開方法	88
保健医療福祉行政論	66	家族支援論	89
チームアプローチ入門	67	周術期看護論	90
地域・在宅看護学概論Ⅰ	68	緩和ケア論	92
地域・在宅看護学概論Ⅱ	69	キャリアデザインセミナー	93
成人看護学援助論	70	地域・在宅看護学実習Ⅰ	94
成人看護学援助方法	71	領域横断看護実習	95
老年看護学概論	73	公衆衛生看護学概論	96
老年看護学援助論	74		

ナンバリング	98
教員一覧	100
実務経験を有する教員一覧	101
オフィスアワー・成績評価	102

看護学部 看護学科

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー

看護学部看護学科 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3 【専門実践力】

科学的根拠・理論的知識を身につけ、安全かつ計画的に看護を実践する力

4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、看護学を学術的に探究できる力

5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分			授業科目の名称	単位数		授業 回数	学修成果					履修年次							
				必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年	
												前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	1		15	●						○							
		英語Ⅰ	1		8	●						○							
		英語Ⅱ	1		15	●							○						
		英語Ⅲ		1	15	●			●										○
		情報処理Ⅰ	1		15	●						○							
		情報処理Ⅱ	1		15	●							○						
				1	15	●			●				○						
	人文科学系	哲学	1		8	●			●							○			
		生命倫理学	1		8	●	●		●			○					○		
		心理学	1		8	●	●		●				○						
		教育心理学		1	8	●			●							○			
		宗教と民族		1	8	●						○							
		人間関係論		1	8	●	●		●			○							
	社会科学系	法学入門	1		8	●									○				
		日本国憲法		2	15	●													○
		経済と政策	1		8	●									○				
		教育学概論		1	8	●			●								○		
		社会学		1	8	●			●			○							
		社会保障論	1		8	●			●				○						
	自然科学系	物理学	1		8	●		●	●			○							
		生物学	1		8	●		●	●			○							
		自然環境と災害	1		8	●				●					○				
		統計学入門	1		8	●			●					○					
		健康スポーツⅠ		1	8	●								○					
		健康スポーツⅡ		1	15	●									○				
	専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	2		15			●				○						
			人体構造と機能Ⅱ	2		15			●				○						
			人体構造と機能Ⅲ	2		15			●					○					
生化学			1		8			●				○							
微生物学			1		8			●				○							
栄養学			1		8			●						○					
疾病の成り立ちと回復の促進				1	15	●								○					
		病理学	1		8			●					○						
		病態治療学Ⅰ	2		15			●					○						
		病態治療学Ⅱ	2		15			●					○						
		病態治療学Ⅲ	2		15			●					○						
		病態治療学Ⅳ	2		15			●						○					
		看護薬理学	2		15			●						○					
健康支援と社会保障制度		公衆衛生学	1		8		●	●		●				○					
		疫学＊		1	8			●		●				○					
		保健情報論＊		2	15			●		●					○				
		保健医療福祉行政論	2		15		●	●	●						○				
		チームアプローチ入門	1		15		●	●	●						○				

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次							
						1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年	
											前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	基礎看護学	看護学概論	2		15	●		●			○							
		看護倫理	1		8	●		●				○						
		看護過程論	2		15			●	●	●		○						
		基礎看護技術Ⅰ	1		8			●			○							
		基礎看護技術Ⅱ	2		30			●			○							
		基礎看護技術Ⅲ	1		15			●		●		○						
		基礎看護技術Ⅳ	2		30			●		●		○						
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論Ⅰ	1		8	●		●					○					
		地域・在宅看護学概論Ⅱ	1		8	●	●	●					○					
		地域・在宅看護学援助論	2		15		●	●		●						○		
		地域・在宅看護学援助方法	1		15			●		●						○		
		地域包括ケア論	1		8		●	●		●						○		
	成人看護学	成人看護学概論	1		8	●		●				○						
		成人看護学援助論	2		15			●		●			○					
		成人看護学援助方法	2		30			●		●				○				
	老年看護学	老年看護学概論	1		8	●		●					○					
		老年看護学援助論	2		15			●		●			○					
		老年看護学援助方法	1		15			●		●				○				
	小児看護学	小児看護学概論	1		8	●		●					○					
		小児看護学援助論	2		15			●		●			○					
		小児看護学援助方法	1		15			●		●				○				
	母性看護学	母性看護学概論	1		8	●		●					○					
		母性看護学援助論	2		15			●		●			○					
		母性看護学援助方法	1		15			●		●				○				
	精神看護学	精神看護学概論	1		8	●		●					○					
		精神看護学援助論	2		15			●		●			○					
		精神看護学援助方法	1		15			●		●				○				
	看護の基盤と応用	看護過程展開方法	1		15			●	●	●			○					
		家族支援論	1		8	●		●					○					
		救急救命学		2	15			●								○		
		クリティカルケア看護学		1	8	●		●		●							○	
		周術期看護論		2	15	●		●		●			○					
		リハビリテーション論		2	15		●	●		●							○	
		緩和ケア論	1		8	●		●		●			○					
	看護の統合と実践	医療安全管理論	1		8	●		●		●							○	
		災害看護論	2		15			●		●						○		
		看護管理論	1		8		●	●		●							○	
		国際看護論		1	8			●		●							○	
		スタートアップセミナー	1		15	●	●		●			○						
		キャリアデザインセミナー	1		8				●					○				
		看護研究Ⅰ	1		8	●		●	●	●						○		
		看護研究Ⅱ	1		15			●		●								○
		看護学総合講義	2		15			●	●	●								○
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		40h	●	●	●	●	●	○							
		基礎看護学実習Ⅱ	2		80h	●	●	●	●	●		○						
		地域・在宅看護学実習Ⅰ	1		40h	●	●	●	●	●			○					
		地域・在宅看護学実習Ⅱ	1		40h	●	●	●	●	●							○	
		領域横断看護実習	3		120h	●	●	●	●	●			○					
		成人看護学実習	3		120h	●	●	●	●	●					○			
		老年看護学実習	3		120h	●	●	●	●	●					○			
		小児看護学実習	2		80h	●	●	●	●	●					○			
		母性看護学実習	2		80h	●	●	●	●	●					○			
		精神看護学実習	2		80h	●	●	●	●	●					○			
		統合実習	3		120h	●	●	●	●	●							○	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論 ※看護師課程選択可 *		1	8	●		●		●				○				
		公衆衛生看護学援助論Ⅰ *		2	15		●	●		●					○			
		公衆衛生看護学援助論Ⅱ *		2	15		●	●		●						○		
		公衆衛生看護学援助方法 *		1	15			●		●							○	
		公衆衛生看護管理論 *		2	15			●		●						○		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ *		1	40h	●	●	●	●	●					○			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ *		3	120h	●	●	●	●	●								○

卒業要件単位数 124単位以上（保健師課程 135単位以上）

*の科目は保健師課程を選択した場合、必修科目として履修

仙台青葉学院大学看護学部看護学科 カリキュラム・ツリー

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅲ(選)
	生命倫理学 宗教と民族(選) 人間関係論(選)	心理学		哲学 教育心理学(選)			
	社会学(選)	社会保障論		法学入門 経済と政策	教育学概論(選)		日本国憲法(選)
	物理学 生物学		統計学入門 健康スポーツⅠ(選)	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)			
人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ 人体構造と機能Ⅱ 生化学 微生物学	人体構造と機能Ⅲ 栄養学					
	疾病の成り立ちと回復の促進		病理学 病態治療学Ⅰ 病態治療学Ⅱ 病態治療学Ⅲ 看護薬理学	病態治療学Ⅳ			
健康支援と社会保障制度			公衆衛生学 疫学(選)	保健情報論(選) 保健医療福祉行政論 チームアプローチ入門			
教 養 科 目				専 門 基 礎 科 目			

基礎看護学	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	看護倫理 看護過程論 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ							
地域・在宅看護学			地域・在宅看護学概論Ⅰ 地域・在宅看護学概論Ⅱ	地域・在宅看護学援助論 地域包括ケア論					
成人看護学		成人看護学概論	成人看護学援助論	成人看護学援助方法					
老年看護学			老年看護学概論 老年看護学援助論	老年看護学援助方法					
小児看護学			小児看護学概論 小児看護学援助論	小児看護学援助方法					
母性看護学			母性看護学概論 母性看護学援助論	母性看護学援助方法					
精神看護学			精神看護学概論 精神看護学援助論	精神看護学援助方法					
看護の基盤と応用			看護過程展開方法 家族支援論 周期期看護論 緩和ケア論		救急救命学(選) クリティカルケア看護学(選) リハビリテーション論(選)				
看護の統合と実践	スタートアップセミナー			キャリアデザインセミナー			災害看護論 看護研究Ⅰ	医療安全管理論 看護管理論 国際看護論(選) 看護研究Ⅱ	看護学総合講義
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	地域・在宅看護学実習Ⅰ 領域横断看護実習	成人看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習				地域・在宅看護学実習Ⅱ 統合実習	
公衆衛生看護学				公衆衛生看護学概論(選)	公衆衛生看護学援助論Ⅰ(選※) 公衆衛生看護学援助論Ⅱ(選※) 公衆衛生看護学管理論(選※) 公衆衛生看護学実習Ⅰ(選※)			公衆衛生看護学援助方法(選※) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(選※)	

(選) …選択科目、下線科目…保健師課程必修科目、(選※) …保健師課程の学生のみ履修可能な選択科目

専門科目

看護学部 看護学科

1 年生

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 看護学科1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3 入学式	4 オリエンテーション	5
	6	7 オリエンテーション	8 1	9 健康診断 1	10 1	11 1	12
	13	14 1	15 2	16 2	17 2	18 2	19
	20	21 2	22 3	23 3	24 3	25 3	26
	27	28 3	29	30 4	1 4	2 4	3
5月	4	5	6	7 5	8 5	9 5	10
	11	12 4	13 4	14 6	15 6	16 6	17
	18	19 5	20 5	21 7	22 7	23 7	24
	25	26 6	27 6	28 8	29 8	30 8	31
6月	1	2 7	3 7	4 9	5 9	6 9	7
	8	9 8	10 8	11 10	12 10	13 10	14
	15	16 9	17 9	18 11	19 11	20 11	21
	22	23 10	24 10	25 12	26 12	27 12	28
	29	30 11	1 11	2 12	3 13	4 13	5
7月	6	7 基礎看護学実習Ⅰ	8 基礎看護学実習Ⅰ	9 基礎看護学実習Ⅰ	10 基礎看護学実習Ⅰ	11 基礎看護学実習Ⅰ	12
	13	14 12	15 12	16 13	17 14	18 14	19
	20	21	22 13	23 14	24 15	25 15	26
	27	28 定期試験	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2
8月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 不合格者発表	19	20	21	22	23
	24	25 再試験	26 再試験	27 再試験	28 再試験	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
9月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22 オリエンテーション	23	24 1	25 1	26 1	27
	28	29 1	30 1				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 看護学科1年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1	2	2	2	3	2	4	
	5		6	2	7	2	8	3	9	3	10	3	11	(保護者会)
	12		13		14	3	15	4	16	4	17	4	18	
	19		20	3	21	4	22	5	23	5	24	5 せいや祭準備	25	せいや祭
	26		27	4	28	5	29	6	30	6	31	6	1	
11月	2		3		4	6	5	7	6	7	7	7	8	
	9		10	5	11	7	12	8	13	8	14	8	15	
	16		17	6	18	8	19	9	20	9	21	9	22	
	23		24		25	9	26	10	27	10	28	10	29	
	30		1	7	2	10	3	11	4	11	5	11	6	
12月	7		8	8	9	11	10	12	11	12	12	12	13	
	14		15	9	16	12	17	13	18	13	19	13	20	
	21		22	10	23	13	24	14	25	14	26	14	27	
	28		29		30		31		1		2		3	
1月	4		5	11	6	14	7	15	8	15	9	15	10	
	11		12		13	15	14	月12	15	月13	16	月14	17	
	18		19	定期試験	20	定期試験	21	定期試験	22	定期試験	23	定期試験	24	
	25		26		27		28		29		30		31	
2月	1		2	基礎看護学実習Ⅱ	3	基礎看護学実習Ⅱ	4	基礎看護学実習Ⅱ	5	基礎看護学実習Ⅱ	6	基礎看護学実習Ⅱ	7	
	8		9	基礎看護学実習Ⅱ	10	基礎看護学実習Ⅱ	11		12	基礎看護学実習Ⅱ	13	基礎看護学実習Ⅱ	14	
	15		16	基礎看護学実習Ⅱ 不合格者発表	17		18		19		20		21	
	22		23		24	再試験	25	再試験	26	再試験	27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	(卒業式)	18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa01				
	●									
科目名	日本語表現法				単位認定者	後藤 和也		評価の方法	授業内課題等	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。									
到達目標	他者の話を聴く・他者に話をするなど、言語的なコミュニケーションの基本を実践できる。プレゼンテーションの基本を理解し、他者に対して自分の考えを言葉で表現することができる。文書作成の基本を理解し、レポートを作成できる。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読すること。また、授業後にテキストを復習すること。授業内のグループワーク等には積極的な参加を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンスと日本語表現法の導入					事前にシラバスを熟読すること				
2	他者との言語的コミュニケーションの基礎					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
3	「話す」コミュニケーション（適切な敬語表現）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
4	「聴く」コミュニケーション・言語的コミュニケーションの実技（授業内課題1）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
5	レポート作成の基本（レポートとは・引用の方法）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
6	レポート作成の基本（参考文献リスト・レポートの種類）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
7	レポート作成の基礎能力（レポート作成のための発想法・読解の基礎）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
8	レポート作成の基礎能力（他者の主張をつかむ・論理的な表現を知る）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
9	レポート作成の実践（授業内課題2）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
10	自己紹介とコミュニケーション					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
11	プレゼンテーションの基本（コミュニケーションスキル・非言語的コミュニケーション）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
12	プレゼンテーションの基本（プレゼンテーションの構造・主張の裏付けかた・レジュメの書き方）					資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（30分）				
13	プレゼンテーション実習（授業内課題3）前半グループ					クラスメイトのプレゼンテーションの良いところや改善点をまとめ、自身のプレゼンテーションの改善を図ること（30分）				
14	プレゼンテーション実習（授業内課題3）後半グループ					クラスメイトのプレゼンテーションの良いところや改善点をまとめ、自身のプレゼンテーションの改善を図ること（30分）				
15	プレゼンテーション実習（授業内課題3）（予備時間）・授業全体のまとめ					資料集全体を概観し、授業全体の復習をすること（30分）				
教科書	指定なし									
参考文献										
備考	授業内課題は言語的コミュニケーション実技30%、小レポート30%、プレゼンテーション実習40%で評価し、適宜授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa02				
	●									
科目名	英語 I				単位 認定者	相田 明子		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。									
到達目標	1. 医療の現場で使われる基本的な英語表現について理解することができる。 2. 英語の基礎力を身につけ、適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。									
学修者への期待等	医療英語を学びながら、英語基礎力の復習をしていきます。リスニング練習、ペアワーク、授業内の発表、準備学修を含め、積極的に学ぶ姿勢が求められます。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業のIntroduction、Unit1 受診の予約、単語 (Body)					本シラバスを読んでおく				
2	Unit2 受診、Registration FormとMedical Questionnaire、単語テスト(1)Body Parts、単語 (症状)					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
3	Unit3 ①問診 (現在完了形)、単語テスト(2)症状、単語 (Department)					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
4	Unit3 ②診察 (無生物主語) 単語テスト(3) Department					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
5	Unit4 薬の服用(There is/are～)、単語(薬)、グループワーク					該当箇所の予習、宿題 (薬の単語) をする (概ね30分)				
6	Unit8 術前・術後、単語テスト(4)薬					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
7	Unit9 待合室での会話 (体調や症状を説明する表現)					該当箇所の予習、宿題をする (概ね30分)				
8	Unit10 清拭 (仮定法過去)、既習範囲のふりかえり					該当箇所の予習、宿題をする (概ね30分)				
教科書	『Introduction to Medical English (医療英語入門)』 稲富百合子他著、松柏社									
参考文献	授業内で指示する									
備考	講義内容は進度に応じて変更する場合がある。 授業内課題は小テスト等で評価し、フィードバックは返却の際に行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa03				
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。									
到達目標	基礎的な英語のListening, Reading, Speaking, Writing を流暢に行うことができる学修スキルを身に付けることができる。英語のコミュニケーションを通して自分のことを知り、教員やクラスメートと英語でコミュニケーション出来るようになる。									
学修者への期待等	英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	Unit 1を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。First Visit 初診 & 問診表 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 9-12まで予習：概ね30分。				
2	Unit 2を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。At the Examination Room 診察室での基本会話 & ノロウイルス グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 13-16まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
3	Unit 3を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Flu Symptoms インフルエンザの症状 & タミフル グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 17-20まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
4	Unit 4を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Pain Problems 痛みへの対処 & BSE (狂牛病) グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 21-24まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
5	Unit 5を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Stomachache 胃痛 & 摂食障害 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 25-28まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
6	Unit 6を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Abdominal Pain 腹痛 & ホルモン攪乱物質 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 29-32まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
7	Review 1-6					復習：概ね40分。				
8	Unit 7を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Urinalysis 尿検査 & 市販薬 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 33-36まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
9	Unit 8を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Cholesterol コレステロール & メタボリック症候群 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 37-40まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
10	Unit 9を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Anemia 貧血 & バランスのとれた食事 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 41-44まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
11	Unit 10を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Injury 怪我 & ウォーキングの効能 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 45-48まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
12	Unit 11を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Operation Period 手術の準備 & 入院手順 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 49-52まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
13	Unit 12を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Alcohol Poisoning アルコール中毒 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 53-56まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
14	Unit 13を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Ultrasound Examination 超音波検査 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp. 57-61まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
15	Review 7-13					復習：概ね40分。				
教科書	『Medical English Clinic』 Toshiaki Nishihara他著、Cengage Learning									
参考文献	各種英和辞典									
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は提出物35%、小テスト35%で評価し、返却時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						NSLa05				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●									
科目名	情報処理 I				単位認定者	杉崎 新一		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理 I では、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。 ◆Word:書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。 ◆Excel:書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。 ◆PowerPoint:プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。									
学修者への期待等	パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。 操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回するので質問して確認すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作					【事前】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度) 【事後】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。 これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身についていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)				
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word:文書の書式設定・印刷設定									
3	Word:入力方法・文書入力・ページ設定									
4	Word:書式設定									
5	Word:図・表を取り入れた文書の作成									
6	Word:課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)									
7	Excel:入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式									
8	Excel:相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定									
9	Excel:グラフ作成									
10	Excel:基本的な関数 (MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)									
11	Excel:基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数									
12	Excel:課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)									
13	PowerPoint:スライドの作成・オブジェクトの挿入									
14	PowerPoint:アニメーションの設定・スライドショーの実施									
15	PowerPoint:課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子他著、実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	すべての授業回で実技を行うため、各自のパソコンを持参して授業に臨むこと。 授業内課題は授業時に指示する提出物で評価し、適宜フィードバックする。 課題は次回講義の際に総じて解説を行うこともある。 授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。 当科目は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム (SkyClassesMng) を利用する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa06				
	●									
科目名	情報処理Ⅱ				単位認定者	氏家 留美子		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態 <td rowspan="2">演習</td> <th>授業時間数</th> <td>30 時間</td> <td></td> <td></td>	演習	授業時間数	30 時間			
	授業回数	15 回								
授業の概要	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。									
到達目標	Excelを用いて、データベースの構造を深く理解し、関数やピボットテーブルを使い蓄積されたデータの集計と分析が行えるようになる。用途に合わせて適切なグラフを選択し、データを効果的に視覚的に表現できる能力を身につける。 PowerPointを用いて、箇条書きでの表現を通じて言葉を簡潔にまとめ、情報を的確に伝える技術を身につける。図解表現を活用し、聴衆に対して情報を魅力的かつ理解しやすく伝える能力を養う。 他者のプレゼンテーションを適切に評価し、自分のプレゼンテーションを振り返り改善する力を養う。									
学修者への期待等	ExcelとPowerPointの知識を積極的に吸収し、情報の高度な活用能力を修得することを期待する。データの分析と表現において独自の洞察を発展させ、これらスキルを将来的に実践的な場面で応用できるよう自己成長に努めていただきたい。 授業は情報処理室のパソコンを使用する。作成ファイルを保存するために、USBメモリを使用する。1回目の授業のときに詳しく説明するので、2回目授業までにUSBメモリは各自準備すること。 なお、授業1回目からはExcelの教科書（教科書①）を持参すること。プレゼンテーションの教科書（教科書②）は授業後半の回から使用するため、1回目の授業から持参する必要はない。									
回	授業計画					準備学修				
1	Excel：数値を視覚化する（グラフ・スパークライン）					【予習】				
2	Excel：ルールに基づいた書式や規則を設定する（条件付き書式・入力規則）					授業では情報処理Ⅰで学んだ内容を土台として、それを応用した内容に焦点を当てる。Excelの基礎操作に不安を感じる場合は、情報処理Ⅰでの内容も振り返り、授業へ臨むこと。				
3	Excel：関数を活用する（統計関数）									
4	Excel：関数を活用する（検索関数・日付関数）					【復習】				
5	Excel：データベースの集計と分析をする（ピボットテーブル）					授業で学んだ操作は、次回まで確実に操作できるように練習すること。				
6	Excel：データベースの活用・情報の管理と整理をする（テーブル・フィルター）					授業内での作成が完了できない部分は、次回の授業までに操作して完成させておくこと。				
7	Excel：総合演習（データの視覚化・関数・集計・分析）					（予習及び復習時間は、各自のスキルにより1～2時間程度）				
8	PowerPoint：訴求力の高い資料作成（書式の工夫・表の効果的な使い方・データに合うグラフの利用・図解表現）					【予習】教科書②の第4章を読んで、授業に臨む。（1時間程度）				
9	PowerPoint：目的の明確化・聞き手の分析・情報収集方法とデータ管理					【予習】教科書②の第1・2章を読んで、授業に臨む。（1時間程度）				
10	PowerPoint（グループワーク）：ストーリー構成・本論の組み立て・設計シート作成					【予習】教科書②の第3章を読んで、授業に臨む。（1時間程度）				
11	PowerPoint（グループワーク）：発表資料や発表原稿作成									
12	PowerPoint（グループワーク）：伝える技術・聞き手を引きつける話し方					【予習】教科書②の第5章を読んで、授業に臨む。（1時間程度）				
13	PowerPoint（グループワーク）：プレゼンテーション発表①前半・評価シート作成					【事後】発表したグループに対して、評価シートを作成しておく（15回目の授業時に提出）				
14	PowerPoint（グループワーク）：プレゼンテーション発表②後半・評価シート作成									
15	PowerPoint：他者からの評価をもとに振り返り・改善（グループワーク）									
教科書	①『よくわかる Microsoft Excel 2021 応用 Office 2021/Microsoft 365対応』富士通ラーニングメディア著、FOM出版 ②『よくわかる 自信がつくプレゼンテーション』富士通ラーニングメディア著、FOM出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。									
備考	当科目は2クラスに分けて実施する。授業内容は、クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。授業内課題は「小テスト：40%」、「提出物：30%」で評価し、適宜フィードバックする。 「小テスト」は、事前に告知した上で、授業で操作した内容を実技や筆記で問う。 「提出物」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。 授業は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb02				
	●	●		●						
科目名	生命倫理学				単位 認定者	飯沼 一字		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。									
到達目標	生命とは何か、生命科学とは何か、倫理とは何かを考えに入れながら、医療従事者として業務に携わるに当たっての中心になる心構えを培う。著しい医学・科学の発展と倫理との関係を学ぶ。まだ解決されていない課題が多いが、それに対しての各人の考えをまとめていくことを努力する。									
学修者への期待等	生命に対して、人間としてのあり方を深く考えながら、受講に臨むこと。自分ならどうするかなど、事柄を他人事ではなく、自身に即した事柄としてとらえていく態度を望む。									
回	授業計画					準備学修				
1	生命倫理学総論					生命倫理とは、世の中の出来事での生命と倫理の関わりであることを理解する。（30分）				
2	医学・医療の歴史、近代科学の発展と医療倫理					近代になり特に科学が著しい発展を見せたことを理解し、それに伴って倫理的課題が生じていることを理解する。（30分）				
3	医学関連の出来事（医療事故、医療過誤を含む）					20世紀からの医学関連の出来事と医療倫理について理解する。（30分）				
4	生命科学の革命的発展と倫理					十数年前には考えられなかった医学の発展がある。倫理との兼ね合いについて理解を深める。（30分）				
5	生命倫理の歴史と現代への連携					人権がどう守られるようになったか。その思想的根拠について理解する。（30分）				
6	大災害と医療の関わり					今でもしばしば起きる大災害に際して、医学・医療がどうかかわるかを理解する。（30分）				
7	生命の始まりとつなぎ					生命誕生に係る倫理的考察、生命をいかにつなぐかの理解を深める。（30分）				
8	死の医学					生命の終わりである死について考える。（30分）				
教科書	特になし									
参考文献										
備考	授業内課題については適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb03				
	●	●		●						
科目名	心理学				単位認定者	真 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	心理学とは（心理学と自然科学）					心を科学的に扱うための工夫，心理学の対象について調べておくこと（1時間程度）				
2	感覚・知覚・認知					感覚的順応，恒常性，対比と同化について調べておくこと（1時間程度）				
3	学習・記憶					随伴性学習，短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと（1時間程度）				
4	感情					基本的感情，表情について調べておくこと（1時間程度）				
5	動機・欲求					内発的動機づけ，適応機制について調べておくこと（1時間程度）				
6	性格					類型論と特性論について調べておくこと（1時間程度）				
7	社会・集団					集団の種類，集団規範について調べておくこと（1時間程度）				
8	心理学の対象となる日常生活上の問題					心理学の近接領域について調べておくこと（1時間程度）				
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『新心理学ライブラリ 1 心理学への招待』梅本堯夫他編、サイエンス社									
備考	毎回レスポンスシートへの回答を求め，次の授業でフィードバックを行う。 第1回，第8回はペア学習を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb05				
	●									
科目名	宗教と民族				単位 認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	40 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。									
到達目標	国際化時代に相応しい他者理解の素養を身につけるとともに、自己理解を深める。									
学修者への期待等	日頃から宗教が絡む国際情勢や時事問題に関心をもち、自身で情報収集するなどして主体的な取り組みをしたうえで授業に臨むことが望ましい。									
回	授業計画					準備学修				
1	イスラエルの宗教					パレスチナ問題について調べる（30分）				
2	ユダヤ教：「遵守する」宗教					モーセについて調べる（30分）				
3	キリスト教：「信じる・愛する」宗教					パウロについて調べる（30分）				
4	イスラーム：「服従する」宗教					ムハンマドについて調べる（30分）				
5	インドの諸宗教：「祭る」宗教					カースト制について調べる（30分）				
6	仏教：「悟る」宗教					ブッダについて調べる（30分）				
7	日本仏教（13宗）					大乘仏教について調べる（30分）				
8	神道：「清める」宗教					日本神話について調べる（30分）				
教科書	使用しない									
参考文献										
備考	授業内課題はチェック・テストで評価し、次回の授業冒頭にてフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSLb06				
	●	●		●						
科目名	人間関係論				単位 認定者	真 覚 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。									
到達目標	1：看護業務における人間関係の機能について説明できる。 2：対人認知のプロセスやメカニズムについて説明できる。 3：看護職者として必要なコミュニケーション能力を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 学んだ知識を活かしたコミュニケーションができるよう実践することを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	看護における人間関係					患者と良好な人間関係を形成することの意義について調べておくこと（1時間程度）				
2	対人認知①（対人印象の形成）					暗黙のパーソナリティ理論について調べておくこと（1時間程度）				
3	対人認知②（対人魅力にかかわる要因）					自己開示について調べておくこと（1時間程度）				
4	交流分析の理解					5つの自我状態について調べておくこと（1時間程度）				
5	コミュニケーションプロセスとミスコミュニケーション					コミュニケーションプロセスについて調べておくこと（1時間程度）				
6	非言語コミュニケーションの理解					非言語コミュニケーションについて調べておくこと（1時間程度）				
7	コミュニケーションのスキル①（話を聴くスキル）					傾聴について調べておくこと（1時間程度）				
8	コミュニケーションのスキル②（アサーティブ・コミュニケーション）					アサーティブ・コミュニケーションについて調べておくこと（1時間程度）				
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『ナースのための臨床社会心理学：看護場面の人間関係のすべて』 C. アブラハム他著、北大路書房									
備考	毎回レスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。 第6～8回はペア学習を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc05				
	●			●						
科目名	社会学				単位認定者	小野寺 修		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会学的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。									
到達目標	社会とは何か。社会の変化や人々の生活を社会学的な視点から検討し、論理的に説明することができる。									
学修者への期待等	社会は日々動いています。この授業を通して、みなさんが普段暮らしている社会をじっくり見つめるきっかけにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	社会とは何か（基礎理論・用語）					【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
2	多文化共生①（多民族国家日本の姿）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
3	多文化共生②（戦後日本の外国人政策）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
4	多文化共生③（多文化社会の課題について考える） ～グループワーク～					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
5	ジェンダー①（男らしさ・女らしさ）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
6	ジェンダー②（多様な性のあり方）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
7	現代日本のすがた①（都市部と地方部）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
8	現代日本のすがた②（防災大国日本）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
教科書	特に指定しません。必要な教材はこちらで準備します。									
参考文献	『よくわかる社会学』宇都宮京子他編、ミネルヴァ書房 『大学生のための社会学入門』篠原清夫他編、光洋書房 『社会学』奥井智之著、東京大学出版会									
備考	・受講者の理解度および授業の進度によって、内容を変更することがあります。 ・課題に対する講評等は授業内またはユニバーサルパスポートにて個別もしくは全体にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc06				
	●			●						
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	15 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療を取り巻く環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。									
到達目標	社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と医療保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。									
学修者への期待等	社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連性を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 国家試験対策も併せて行うので積極的な授業参加を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について 本時の単元に関する国試問題傾向					事後学修	本時のレジュメを読み込む。 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
2	社会保障制度1【健康と公衆衛生】 1. 健康とは、2. 公衆衛生とは、3. 公衆衛生に関係する行政組織、4. 世界保健機関 (WHO)、本時の単元に関する国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
3	〔医療を取り巻く環境〕 1. 人口と少子高齢化、2. 死因の状況、3. 生活習慣と健康の状況、4. 国民の受療状況、5. 感染症の状況 〔医療供給体制〕 1. 医療法、2. 医療機関、3. 医療従事者					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
4	社会保障制度2【社会保険】 1. 社会保険とは、2. 公保険と私保険、 (1)医療保険制度、(2)労災保険制度					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
5	(3)雇用保険制度 (4)年金保険制度 (5)介護保険制度 社会保障制度3【老人保健】 高齢者の保健・医療 (後期高齢者保健医療制度) 本時の単元に関する国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
6	社会保障制度4【社会福祉】 (1)児童福祉、(2)母子・父子・寡婦福祉等 本時の単元に関する国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
7	(3)障害者福祉、(4)高齢者福祉、 〔地域包括ケアシステム〕ケアシステムのしくみ 本時の単元に関する国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
8	社会保障制度5【公的扶助】 1. 貧困とは、2. 生活保護法の実施体制、3. 生活保護の種類と内容、4. 生活保護の原理原則 本時の単元に関する国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストを再学修する 図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)			
教科書	毎時レジュメを配布する。									
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。									
備考	授業内容や順序は、単元の関連性により調整する場合がある。 国試対策も行い小テストは適宜行う。小テストの解答・解説 (フィードバック) はUNIPAに掲載するので必ず確認すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd01				
	●		●	●						
科目名	物理学				単位認定者	本田 俊夫		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。									
到達目標	日常生活や体とかかわる身近な物理的事象の基礎原理について理解し、それをわかりやすく説明し、応用することができる。医療にかかわる者として、物理学全般の基礎的な教養と知識を身につける。									
学修者への期待等	教科書に基づいて準備学修で指定された箇所を必ず予習してください。授業では人体、医療に近づけた内容で実施します。よく復習して理解を深めてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	「力のつり合い」 力のはたらき・つり合い					第1章力のつり合いp. 2～7を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)				
2	「力のつり合い」 剛体にはたらく力					授業後に復習し理解を深める。(概ね30分)				
3	運動の表し方と運動の法則					第2章p. 10～13、第3章p. 18～23を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)				
4	熱とエネルギー					第7章熱とエネルギーp. 50～55を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)				
5	波の性質① 音					第10章音p. 78～83を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)				
6	波の性質② 光					第11章音p. 87～89を読んでおくこと。(概ね30分)				
7	電磁気					第12章音p. 94～97を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)				
8	原子と放射線					第15章音p. 118～123を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)				
教科書	『基礎と演習 大学生の物理入門』高橋正雄著、共立出版									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd02				
	●		●	●						
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	10 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として生物学の教養を深め、更に専門・臨床科目の理解に必要な生物学の基礎知識を理解する。									
学修者への期待等	事前に配布する講義資料の予習を必ず行い講義に出席してほしい。講義内容で分からない点があれば、講義中に発言するか、講義中に配布する用紙(ミニッツペーパー)に記入して下さい。教師との積極的なコミュニケーションを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	生物とは？					配付する資料（生物とは？）の復習（概ね30分）				
2	細胞の構造及び細胞分裂					配布する資料（細胞の構造及び細胞分裂）の復習（概ね30分）				
3	生体膜の構造と機能					配布する資料（生体膜の構造と機能）の復習（概ね30分）				
4	生体のエネルギーと代謝					配布する資料(生体のエネルギーと代謝)の復習（概ね30分）				
5	環境応答と神経伝達					配布する資料（環境応答と神経伝達）の復習（概ね30分）				
6	免疫及び細胞分化					配布する資料（免疫及び細胞分化）の復習（概ね30分）				
7	遺伝					配布する資料（遺伝）の復習（概ね30分）				
8	遺伝情報の発現					配布する資料（遺伝情報の発現）の復習（概ね30分）				
教科書	なし									
参考文献	『サイエンスビュー 生物総合資料』長野敬他監、実教出版									
備考	授業内課題（レポート）は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体（A4レポート用紙一枚）で、期日内に提出して下さい。そのフィードバックは、最後の講義で行います。 上記レポート課題とは別に、毎回講義で課題を出します。その解答及び講義内容についての質問を配布する用紙（ミニッツペーパー）に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa01				
			●							
科目名	人体構造と機能 I				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能 I では、人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織の構造と機能が説明できる。 2. 骨格系では骨の名称、筋系では筋の名称や運動について説明できるようになる。									
学修者への期待等	・解剖学を学ぶことは自分の体を知ることにつながります。興味をもって取り組んでください。 ・解剖学の基本である、骨と筋の名称を覚えて医学用語が使えるようになります。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	解剖学総論					「解剖学」とは何か考えておく			山本 由似	
2	解剖学の基礎知識 人体の骨格					教科書 第1章 P8-27を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			山本 由似	
3	骨の形態と構造、骨組織・骨の種類、関節の構造と種類					教科書 第1章 P286-292を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			山本 由似	
4	筋の種類・骨格筋の構成・筋の機能					教科書 第1章 P292-296を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			山本 由似	
5	上肢の骨格：骨模型に触れる					骨名を予習しておくこと(1時間程度)			大和田 宏美	
6	上肢の骨と筋(上肢帯・上腕)					教科書 第1章 P306-311を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
7	上肢の骨と筋(前腕)					教科書 第1章 P312-313を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
8	上肢の骨と筋(手部)					教科書 第1章 P314-316を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
9	体幹の骨格					教科書 第1章 P296-300を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
10	体幹の筋(背部・腹部・胸部)					教科書 第1章 P300-306を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
11	下肢の骨格と動き					教科書 第1章 P320-325、329-332を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
12	下肢の骨と筋(骨盤帯)					教科書 第1章 P325-328を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
13	下肢の骨と筋(大腿・下腿・足部)					教科書 第1章 P325-328を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
14	頭頸部の骨格と筋					教科書 第1章 P332-339を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			大和田 宏美	
15	筋収縮・運動と代謝・筋の病気					教科書 第1章 P339-354を事前に読んでおくこと。(1時間程度)			山本 由似	
教科書	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』坂井建雄他著、医学書院									
参考文献	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』坂井建雄他監、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学』林正健二編、メディカ出版									
備考	第5回は2クラス編成で授業を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa02				
			●							
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位認定者	田林 暁一		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅱでは、循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 心臓の構造、機能、および主症状が説明できる。 2. 血管系の構造と機能が説明できる。 3. 気道の構造と機能が説明できる。 4. 肺の構造、機能、および主症状が説明できる。 5. 消化器系の構造、機能、および主症状が説明できる。 6. 泌尿器系の構造、機能、および主症状が説明できる。 7. 生殖器系の構造と機能が説明できる。									
学修者への期待等	第2回から第15回講義に際し、授業計画の予習、及び講義後1～2日間で復習をしてください。予習、及び復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	医学への関心度（一般的な医学に関する質問）				医学一般に関する学修					
2	心臓・血管系の構造と機能				第2回講義内容の30分間の予習					
3	循環器総論（胸痛、動悸）				第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義の30分間の復習					
4	循環器総論（ショック）				第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義の30分間の復習					
5	循環器総論（救急）				第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義の30分間の復習					
6	気道・肺の構造と機能				第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義の30分間の復習					
7	呼吸の仕組み（生理・生物学的動態）				第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義の30分間の復習					
8	呼吸器総論（喀血、咳、呼吸困難）				第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義の30分間の復習					
9	呼吸器総論（呼吸不全）				第9回講義内容の30分間の予習、及び第8回講義の30分間の復習					
10	消化器系の構造と機能				第10回講義内容の30分間の予習、及び第9回講義の30分間の復習					
11	消化器総論（悪心・嘔吐、吐血、腹痛）				第11回講義内容の30分間の予習、及び第10回講義の30分間の復習					
12	消化器総論（食欲不振、黄疸、下血、便秘）				第12回講義内容の30分間の予習、及び第11回講義の30分間の復習					
13	泌尿器系の構造と機能				第13回講義内容の30分間の予習、及び第12回講義の30分間の復習					
14	泌尿器総論（血尿、蛋白尿、頻尿）				第14回講義内容の30分間の予習、及び第13回講義の30分間の復習					
15	生殖期系の構造と機能				第15回講義内容の30分間の予習、及び第14回講義の30分間の復習					
教科書	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』坂井建雄他著、医学書院									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学』林正健二編、MCメディカ出版									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。 授業内課題は適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa03				
			●							
科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位 認定者	小野寺 健		評価の 方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅲでは、中枢神経系、末梢神経系、感覚器系、内分泌系、血液、免疫系の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 中枢神経系（大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄）の構造と機能を理解できる。 2. 末梢神経系（脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経）の構造と機能を理解できる。 3. 感覚器系（視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、内臓感覚）の構造と機能を理解できる。 4. 内分泌器官の構造とホルモン作用を理解できる。									
学修者への 期待等	分からない単語、漢字の読みは教科書、レジメに記すこと。授業後に必ず授業内容に目を通し、復習すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	神経の構造・機能					解剖学用語、生理学用語が多く出るので、復習を欠かさないこと。（約30分必要）				
2	髄膜、脳室、脳幹									
3	大脳、脳神経、末梢神経									
4	脊髄、神経叢									
5	大脳地図1（前頭葉、運動野と感覚野、ブローカ野）									
6	大脳地図2（頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系）									
7	大脳基底核、白質									
8	脳神経1（Ⅰ（嗅神経）～Ⅵ（外転神経））									
9	脳神経2（Ⅶ（顔面神経）～Ⅻ（舌下神経））									
10	画像診査									
11	皮膚と粘膜									
12	感覚系									
13	内分泌系									
14	血液1（成分と機能）									
15	血液2（血液凝固、血液型）									
教科書	『系統解剖学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』坂井建雄他著、医学書院									
参考文献	『からだが見える 人体の構造と機能』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
備考	授業内課題はレポートで評価し、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa04				
			●							
科目名	生化学				単位認定者	岩間 正典		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	生化学とは、生命の現象において、科学的に理解・解明をしようとする学問である。本科目では、生体内でのたんぱく質、アミノ酸、酵素、糖質、脂質、核酸等の性質や働き、代謝等を学ぶ。食事で得る栄養が、体内で消化されてから代謝されていくプロセスを含め、生化学的知識を学修する。									
到達目標	1. 基本的な栄養素の分類ができる。 2. 酵素の作用について説明できる。 3. 糖質・脂質・アミノ酸の代謝が説明できる。 4. 核酸について説明できる。									
学修者への期待等	「生化学」は人間の身体について理解する上での基礎となる科目です。8回の授業で広範囲の内容を学ぶことになるので、わからないところは自分で確認し、疑問点は積極的に質問して、きちんと理解するようにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	生化学とは 身体の構成成分、細胞の構造					第1章「生化学を学ぶための基礎知識」について事前に読んで理解しておくこと。（概ね30分） 「細胞の構造と機能」について復習すること。（概ね30分）				
2	酵素、補酵素、ビタミン					酵素と補酵素、主なビタミン欠乏症について復習すること。（概ね30分）				
3	糖質とは					主な糖質の種類について復習すること。（概ね30分）				
4	糖質の代謝					糖質の代謝について復習すること。（概ね30分）				
5	脂質とは、脂質の代謝					脂質及びその代謝について復習すること。（概ね30分）				
6	タンパク質・アミノ酸とは					タンパク質・アミノ酸について復習すること。（概ね30分）				
7	アミノ酸の代謝、窒素源としてのアミノ酸					アミノ酸代謝について復習すること。（概ね30分）				
8	核酸・遺伝子について					核酸・遺伝子について復習すること。（概ね30分）				
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学』畠山鎮次著、医学書院									
参考文献										
備考	授業内課題は小テストで評価し、次回の授業で返却・解説します。 第6回の授業は一部反転授業を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa05				
			●							
科目名	微生物学				単位 認定者	岩間 正典		評価の 方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	微生物学の基本知識を学ぶと共に、多くの病原微生物が宿主・環境とどのように関わり合いながら人に感染症を引き起こすのか、その過程を学修する。病原微生物の種類と特徴、感染に対する生体防御機構、微生物感染のしくみなどについて学ぶ。また、看護職として感染予防の観点からも、正しい知識と合理的な対応、対策を行うための基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 主な感染微生物について説明できる。 2. 生体防御機構の概要が説明できる。 3. 主な感染治療薬、ワクチンについて説明できる。 4. 基本的な滅菌・消毒法について説明できる。									
学修者への期待等	眼に見えない微生物の重要性を十分に理解してもらいたい。授業回数が少ないので、各自で自主的に理解を深める努力をすることを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	微生物学とは、微生物の分類					原核生物と真核生物の違いについて理解しておくこと。（概ね30分）				
2	細菌、ウイルス、真菌の性質					細菌、ウイルス、真菌の違いについて復習すること。（概ね1時間）				
3	主な細菌感染症					主な病原性のグラム陽性菌、グラム陰性菌について復習すること。（概ね1時間）				
4	主なウイルス感染症					主なDNAウイルス、RNAウイルスについて復習すること。（概ね1時間）				
5	その他の感染症（原虫、蠕虫、プリオン等）					主な病原性真菌、原虫、蠕虫およびプリオン病について復習すること。（概ね30分）				
6	生体防御反応とワクチン					生体防御の仕組みとワクチンについて復習すること。（概ね1時間）				
7	抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬					授業で取り上げた抗菌薬等について復習すること。（概ね1時間）				
8	滅菌・消毒法					滅菌と消毒について復習すること。（概ね30分）				
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』 南嶋洋一他著、医学書院									
参考文献										
備考	授業内課題は小テストで評価し、次回の授業で返却・解説します。 第4回の授業は一部反転授業を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa06				
			●							
科目名	栄養学				単位 認定者	岩間 正典 高泉 佳苗		評価の 方法	試験(筆記)	80 %
対象学部 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	栄養素の種類と働き、エネルギー代謝、食品の成分と栄養素など、栄養学の基礎を理解する。その上で、ライフステージに対応した栄養・食生活、患者の栄養状態の評価判定、栄養管理や食事療法など、看護実践に必要なとなる知識を学修する。									
到達目標	1. 栄養素の種類と働き、消化・吸収について説明できる。 2. 食事摂取基準、健康な食生活について説明できる。 3. 栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。 4. ライフステージ別、主な病態における栄養について説明できる。									
学修者への期待等	この授業を通じて、栄養学に興味・関心を持ってもらい、看護に必要な栄養学の知識を身につけてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	栄養とは 看護と栄養 栄養素の種類				教科書の第2章にある「栄養素」について予習しておくこと。(概ね30分)				岩間 正典	
2	栄養素のはたらき 栄養素の消化と吸収				消化器系と消化酵素について予習しておくこと。(概ね30分)				岩間 正典	
3	日本人の食事摂取基準				教科書第5章にある「日本人の食事摂取基準」が示す5つの指標について、事前にその意味を理解しておくこと。(概ね30分) 授業の最初に理解度を確認するテストを行います。				岩間 正典	
4	ライフステージと栄養学(1)妊娠・授乳期、乳幼児期				授業内容を復習すること。(概ね30分)				高泉 佳苗	
5	ライフステージと栄養学(2)学童期、思春期、成人期、高齢期				授業内容を復習すること。(概ね30分)				高泉 佳苗	
6	健康づくりと食生活				授業内で提示する課題に取り組み、次回提出すること。(概ね30分)				高泉 佳苗	
7	臨床栄養(1)栄養状態の評価方法、栄養管理				教科書の第1章にある「栄養サポートチーム(NST)」と第9章にある「チームで取り組む栄養管理」を予習しておくこと。(概ね30分)				高泉 佳苗	
8	臨床栄養(2)食事療法				教科書の第9章にある「病院食」を予習しておくこと。(概ね30分)				高泉 佳苗	
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学』小野章史他著、医学書院									
参考文献										
備考	第3回は一部反転授業とし、理解度確認テスト後、解説を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb01				
			●							
科目名	病理学				単位認定者	齋木 由利子		評価の方法	試験(筆記)	85 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内 課題等	15 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>8 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数		8 回	
授業の概要	疾病の要因とその発生機序について、細胞障害と生体障害を中心に学修する。細胞障害では、細胞の萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス、創傷と治癒等について学ぶ。生体障害では、循環障害、臓器不全、炎症、損傷、免疫異常、アレルギー、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常、腫瘍、中毒等について学修する。									
到達目標	病気が発生するメカニズムを理解する。									
学修者への期待等	単に教科書の内容を覚えるだけでなく、病気がどのようなメカニズムで発症するのかを考えながら修学し、将来の仕事に活かしてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	病理学とは・細胞の異常、小テスト					【事前】教科書で細胞の構造を確認しておく(30分程度)				
2	循環障害、小テスト					【事前】教科書で心・血管の構造を理解する(30分程度)				
3	炎症、小テスト					【事前】教科書で炎症にかかわる細胞について理解しておく(30分程度)				
4	免疫と免疫異常、小テスト					【事前】教科書で血球細胞について理解しておく(30分程度)				
5	感染症、小テスト					【事前】教科書で病原体について理解しておく(30分程度)				
6	代謝異常・先天異常、小テスト					【事前】教科書でDNA、遺伝について理解しておく(30分程度)				
7	腫瘍、老化、小テスト					【事前】教科書で癌の特徴について理解しておく(30分程度)				
8	グループワーク(重要なトピックにつき、グループでまとめ、発表する)					【事前】7回の授業全体の復習(30分程度)				
教科書	『なるほどなっとく病理学plus』小林正伸著、南山堂									
参考文献										
備考	小テストは授業でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb02					
			●								
科目名	病態治療学Ⅰ					単位 認定者			評価の 方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位				
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
							授業回数	15 回			
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、疾患の診断に必要な臨床検査方法と造血機能障害、免疫機能障害の病態と診断・治療を学ぶ。また、廃用症候群予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法など、リハビリテーションについても理解を深め、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。										
到達目標	1. 基本的な臨床検査値の評価と疾病の診断に必要な検査方法について説明できる。 2. 放射線診断・治療、手術療法、リハビリテーション、理学療法、作業療法の概要を説明できる。 3. 造血機能障害（血液・造血器の疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。 4. 免疫機能障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫低下に関連する疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。										
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、今後の看護実践に適応できるよう教科書を読んで予習・復習をしてください。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	臨床検査①：検体検査①の実際（臨床検査の基礎、血液学検査、化学検査、免疫血清学検査、尿検査、微生物学的検査）					臨床検査の基礎と検体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）				千葉 美紀子	
2	臨床検査②：検体検査②と生体検査の実際（臨床検査の基礎、輸血検査、病理学的検査、生体機能検査）					臨床検査の基礎と生体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）				千葉 美紀子	
3	放射線医学①：放射線診断（X線撮影、CT、MRI）					講義資料をUNIPAで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（60分程度）				小山 周樹	
4	放射線医学②：核医学診断・放射線治療					講義資料をUNIPAで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（60分程度）				小山 周樹	
5	手術療法：手術侵襲と生体反応、創傷の治癒過程等					手術療法について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）				柴田 近	
6	手術療法：麻酔					麻酔について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）				長屋 慶	
7	血液成分、血液の流動性					血液成分や血液の流動性について、教科書の該当するページを予習・復習してください（30分程度）				中川 國利	
8	出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍					出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍について、教科書の該当するページを予習・復習してください（30分程度）				中川 國利	
9	浮腫					第9回授業内容の30分間の予習、および前回授業の30分間の復習					
10	免疫の仕組みと花粉症、食物アレルギー					第10回授業内容の30分間の予習、および前回授業の30分間の復習					
11	自己免疫疾患、川崎病と老化					第11回授業内容の30分間の予習、および前回授業の30分間の復習					
12	リハビリテーション総論					リハビリテーションについて調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）				大橋 孝子	
13	リハビリテーション：理学療法					理学療法について調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）				大橋 孝子	
14	リハビリテーション：作業療法					作業療法について調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）				大橋 孝子	
15	リハビリテーション：言語療法					言語聴覚士の業務内容について、予習すること。（60分程度）				渡邊 弘人	
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』池上徹他編、医学書院 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』奈良信雄他編、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』岩田健太郎他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器』飯野京子他著、医学書院										
参考文献											
備考	第9～11回は講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果						科目ナンバリング					
						NSFb03					
						1	2	3	4	5	
						人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	
								●			
科目名		病態治療学Ⅱ				単位認定者	田林 暁一		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題		20 %	
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要		病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、循環障害、呼吸器障害、感覚器系機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標		循環器疾患、呼吸器疾患、高血圧・低血圧症、大動脈瘤、感覚器系疾患（視覚障害、鼻・咽頭・喉頭障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療について理解できる。									
学修者への期待等		各講義後1～2日目、1および2週間後に講義内容を30分間復習してください。循環器・呼吸器疾患、血圧疾患、および大動脈疾患では前・前々回の講義内容について復習小テストを実施します。									
回	授業計画					準備学修			担当		
1	先天性心疾患（単純心奇形）の病態と診断・治療					第1回講義資料の30分間の予習			渡辺 卓		
2	先天性心疾患（複雑心奇形）の病態と診断・治療					第2回講義資料の30分間の予習、第1回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
3	心臓弁膜症の病態と診断・治療					第3回講義資料の30分間の予習、第2回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
4	虚血性心疾患の病態と診断・治療					第4回講義資料の30分間の予習、第3回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
5	不整脈（上室性不整脈）の病態と診断・治療					第5回講義資料の30分間の予習、第4回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
6	不整脈（心室性不整脈）の病態と診断・治療					第6回講義資料の30分間の予習、第5回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
7	心不全の病態と診断・治療					第7回講義資料の30分間の予習、第6回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
8	高血圧症、および低血圧症の病態と診断・治療					第8回講義資料の30分間の予習、第7回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
9	大動脈瘤の病態と診断・治療					第9回講義資料の30分間の予習、第8回講義の30分間の復習			渡辺 卓		
10	肺疾患（肺感染症）の病態と診断・治療					第10回講義資料の30分間の予習、第9回講義の30分間の復習			田林 暁一		
11	肺疾患（閉塞性・拘束性障害）の病態と診断・治療					第11回講義資料の30分間の予習、第10回講義の30分間の復習			田林 暁一		
12	肺疾患（肺腫瘍）の病態と診断・治療					第12回講義資料の30分間の予習、第11回講義の30分間の復習			田林 暁一		
13	視覚障害（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症）の病態と診断・治療					視機能の障害（屈折等）と部位別疾患（白内障、緑内障、網膜疾患等）について、教科書の該当ページを予習してください。（30分程度）			布施 昇男		
14	鼻・咽頭・喉頭障害（鼻出血、扁桃炎、副鼻腔炎、腫瘍）、耳・聴覚の障害（中耳炎）の病態と診断・治療					耳（聴覚含む）、鼻、咽頭、喉頭について教科書の該当ページを予習してください。（30分程度）			橋本 省		
15	皮膚障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、腫瘍）病態と診断・治療					第15回講義の30分間の復習			高橋 隼也		
教科書	『系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論』丸光惠著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器』川村雅文著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器』吉田俊子著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚』多田弥生著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼』大鹿哲郎著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉』小島博己著、医学書院										
参考文献	『標準外科学』北島政樹監、医学書院										
備考	第1回～12回は講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。 授業内課題は適宜フィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

						科目ナンバリング				
						NSFb04				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
			●							
科目名	病態治療学Ⅲ				単位 認定者	湯田 健太郎		評価の方法	試験(筆記)	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害、内部環境調節機能障害、排泄機能障害、男性生殖器の機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 口腔の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 上部消化管・下部消化管の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 3. 肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 4. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 5. 内分泌系・代謝異常・体液調節の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 6. 泌尿器系・男性生殖器の疾患の病態と診断・治療について説明できる。									
学修者への期待等	範囲としては広く、覚える事項も多いですが、現場に出た時に出くわすことの多い重要な分野です。よく復習しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	口腔疾患、上部消化管疾患（炎症系疾患、潰瘍性疾患）					各回、配布資料を復習してください。 (30分程度)			湯田 健太郎	
2	上部消化管疾患（腫瘍）、下部消化管疾患（炎症性疾患、イレウス）								湯田 健太郎	
3	下部消化管疾患（腫瘍）								湯田 健太郎	
4	肝臓疾患（炎症性疾患、脂肪肝、アルコール性肝炎）								湯田 健太郎	
5	肝臓疾患（肝硬変、腫瘍）								湯田 健太郎	
6	胆道系疾患（炎症性疾患、腫瘍、胆石症）								湯田 健太郎	
7	膵臓疾患（炎症性疾患、腫瘍）								湯田 健太郎	
8	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患（腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆）								湯田 健太郎	
9	内分泌系疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎、腫瘍）								田子 竜也	
10	内分泌系疾患（副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍）								田子 竜也	
11	代謝異常の疾患（糖尿病、脂質異常症）								田子 竜也	
12	体液調節の疾患（水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常）								田子 竜也	
13	泌尿器系疾患（腫瘍、腎・尿路結石、過活動膀胱）								田子 竜也	
14	泌尿器系疾患（腎不全）								田子 竜也	
15	男性生殖器系疾患（前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌）								田子 竜也	
教科書	『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器』南川雅子他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝』吉岡成人他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器』大東貴志他著、医学書院									
参考文献	『病気がみえる Vol.1 消化器』武藤学他監、メディックメディア 『病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』森野勝太郎他監、メディックメディア 『病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器』池森（上條）敦子他監、メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb06				
			●							
科目名	看護薬理学				単位認定者	木村 勝彦		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	疾病に対する薬物療法、主要な薬物の作用機序とその管理等の知識を学び、薬物の生体内動態、有効性、安全性等、薬理学的知識とその活用を学修する。また、薬の種類及び効果、副作用、与薬方法、管理方法について学び、看護に必要な薬物療法の基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 疾病に対する薬物療法について看護学生らしく説明できる。 2. 主な薬物の作用機序・治療機序と副作用について説明できる。 3. 薬物の管理について説明できる。									
学修者への期待等	教科書を必ず読んで受講してください。薬の作用機序は講義を聞かないとなかなか理解できません。わかりやすく説明しますので、まず、薬理学に親しみを持ち、好きな教科となるよう期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	第1章総論 薬の作用点、薬の生体内運命について説明する。					【事前】授業計画に合わせて教科書を読んで講義に臨んでください。 (概ね30分以上) 【事後】授業ごとに配布した参考プリントを活用し、授業内容の理解を高めてください。(概ね30分以上)				
2	第10章抗炎症薬・鎮痛薬									
3	第11章免疫・アレルギー系疾患治療薬									
4	第15章中枢神経系疾患治療薬 ①統合失調症治療薬、抗うつ薬									
5	第15章中枢神経系疾患治療薬 ②抗てんかん薬、抗パキンソン病薬									
6	第2章自律神経に作用する薬 ①交感神経系									
7	第2章自律神経に作用する薬 ②副交感神経系									
8	第3章心臓血管系治療薬									
9	第4章血液・造血器疾患治療薬									
10	第5章消化器系疾患治療薬									
11	第6章呼吸器系疾患治療薬、 第7章腎臓・尿路・生殖器疾患治療薬									
12	第8章ホルモンと関連薬									
13	第9章代謝系疾患治療薬、 第12章骨・関節系疾患									
14	第13章抗感染症薬									
15	第14章抗がん薬									
教科書	『看護学テキストNICE 薬理学』萩田喜代一他編、南江堂									
参考文献	『はじめる!つかえる!看護のための薬理学』時政孝行著、南山堂 『薬がみえる vol.1、2、3』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa01					
	●		●								
科目名	看護学概論				単位認定者	木下 美佐子		評価の方法	試験（筆記）	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	50	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数				
授業の概要	看護専門職の基盤となる、看護に関する基本的概念、主要な看護理論と歴史の変遷、看護の対象である人間と健康、生活・環境、看護活動の場やその仕組み、看護に関連する法規などを学ぶ。さらに、現代の保健・医療・福祉のシステムを学修する。										
到達目標	1. 看護の定義や概念、看護に関連する法規について説明できる。 2. 看護の対象である人間の成長発達、健康や生活・環境と看護の関連性について説明できる。 3. 看護の歴史の変遷と看護実践における主要な理論について説明できる。 4. 保健・医療・福祉における看護の特徴と役割について説明できる。										
学修者への期待等	看護学概論は看護学の導入として専門領域を学ぶ上での土台となる科目です。ポートフォリオや授業内での課題を作成し、主体的学習態度を身につけ、看護の基盤となる思考が深まることを期待します。										
回	授業計画					準備学修					
1	授業ガイダンス：看護を学ぶことについて					【事前】ポートフォリオ作成に向けた説明をする。看護に対する現在の考えをまとめて、授業に参加すること。（1時間程度）					
2	看護の誕生と発展					【事後】教科書①P43～P46, P48～P51を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
3	日本における看護の変遷					【事後】教科書①P46～P48、P51～P54で復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
4	看護の対象理解と倫理					【事後】教科書①P70～P94を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
5	ライフサイクルと健康					【事後】教科書①P96～P124を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
6	看護理論の理解(1)：ナイチンゲール					【事前】ナイチンゲールについて教科書③を用い事前学習（1時間程度）。理論解釈についてポートフォリオ作成。					
7	看護理論の理解(2)：ヘンダーソン					【事前】ヘンダーソンについて教科書③を用い事前学習（1時間程度）。理論解釈についてポートフォリオ作成。					
8	看護理論の理解(3)：ペプロウ					【事前】ペプロウについて教科書③を用い事前学習。（1時間程度）理論解釈についてポートフォリオ作成。					
9	看護理論の理解(4)：オレム					【事前】オレムについて教科書③を用い事前学習（1時間程度）。理論解釈についてポートフォリオ作成。					
10	看護理論の理解(5)：トラベルビー					【事前】トラベルビーについて教科書③を用い事前学習（1時間程度）。理論解釈についてポートフォリオ作成。					
11	看護ケアの基本的役割					【事後】教科書①P184～P204を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
12	看護に関連する法規					【事後】教科書①P206～P234を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
13	専門職としての看護と教育					【事後】教科書①P20～P43、P55～p65、P322～324を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
14	保健・医療・福祉のシステムと看護					【事後】教科書①P236～P274を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
15	国際看護や災害看護とこれからの看護					【事後】教科書①P276～P324を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（1時間程度）					
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学①：看護学概論』志自岐康子他編、メディカ出版 ②『看護職の基本的責務2025年版』手島恵監、日本看護協会出版会 ③『新訂版 実践に生かす看護理論19』城ヶ端初子編、サイオ出版										
参考文献	『看護覚え書—看護であること看護でないこと』ナイチンゲール著、現代社 『看護の基本となるもの』V. ヘンダーソン著、日本看護協会出版会										
備考	第6～10回はグループワークを行う。 科目ポートフォリオを作成し、筆記試験終了時に提出を求めます。 授業内課題は、ポートフォリオ(10%)、授業時に指示する課題(40%)で評価し、適宜フィードバックします。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護に関する基本的概念、看護実践における主要な看護理論についての理解を深められるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa02				
	●		●							
科目名	看護倫理				単位認定者	木下 美佐子		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	看護倫理は、質の高い看護を提供するための指針であり、患者を中心とした、看護における理想的な考え方である。本科目では、看護実践の場で必要な倫理的判断の基盤となる倫理原則や、看護倫理に関する重要な用語等を学ぶ。また、医療現場で生ずる倫理的諸問題についての知識とその解決方法を、具体的事例の検討を通して学修する。									
到達目標	1. 倫理とは何か、価値とはなにかについて説明できる。 2. 倫理原則の意義および問題点について説明できる。 3. 看護倫理に関係する用語について理解する。 4. 看護における倫理の重要性について説明できる。									
学修者への期待等	看護倫理は、看護師のアイデンティティを確認する拠り所となるものです。多様化する社会の中にある倫理的な問題に関心に向け、基礎的な知識が身につくための自発的な学修態度を期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	倫理の基礎：倫理とは、価値とは何か					【事後】教科書①P2～P16について復習、課題作成し期限内に提出すること。（1時間程度）				
2	倫理原則の意義と問題点とケアの倫理					【事後】教科書①P35～P47について復習、課題作成し期限内に提出すること。（1時間程度）				
3	看護倫理に関係する用語：尊厳、権利、アドボカシー、インフォームド・コンセント、プライバシーと守秘義務等					【事後】教科書①P49～P127について復習、課題作成し期限内に提出すること。（1時間程度）				
4	倫理的意思決定のステップとさまざまな視点による事例検討					【事後】教科書①P135～P142について復習、課題作成し、期限内に提出すること。（1時間程度）				
5	さまざまな看護活動と倫理①：人生の最後を生きる人々への看護と倫理					【事後】教科書①P145～P153について復習、課題作成し、期限内に提出すること。（1時間程度）				
6	さまざまな看護活動と倫理②：社会的配慮者（認知症・難病・障害者等）への看護と倫理					【事後】教科書①P199～P220について復習、課題作成し、期限内に提出すること。（1時間程度）				
7	さまざまな看護活動と倫理③：小児看護と倫理、地域看護と倫理					【事後】教科書①P155～P167について復習、課題作成し期限内に提出すること。（1時間程度）				
8	看護活動と倫理：看護師の倫理綱領、看護研究における倫理					【事後】教科書①P223～P247について復習、課題作成し、期限内に提出すること。（1時間程度）				
教科書	①『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』小西恵美子編、南江堂 ②『看護職の基本的責務 2025年版』手島恵編、日本看護協会出版会									
参考文献	『ナースング・グラフィカ 基礎看護学①：看護学概論』志自岐康子他著、MCメディカ出版									
備考	第5回～7回の授業はディスカッションを行います。 授業内課題は授業時に指示する課題で評価し、講義の復習として毎回提出を求め、フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、医療現場での倫理的諸問題を提示しながら、倫理的判断に必要なとなる基礎的知識について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa03				
			●	●	●					
科目名	看護過程論				単位認定者	木下 美佐子		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	適切な看護実践のためには、看護を受ける対象のニーズや強みについて、系統的に収集した情報を批判的思考を用いて理解し、実践につなげていくことが重要である。本科目では、基本的欲求に基づくアセスメントから、看護問題を明確にし、看護計画を立案、実施、評価の過程をたどることで、看護実践に用いられる看護過程の意義と方法について学修する。									
到達目標	1. 対象理解と看護実践の基礎となる看護過程について、V.ヘンダーソンの理論を活用し説明できる。 2. 看護過程の展開に必要な系統的思考プロセスを理解する。 3. 紙上事例の看護問題を明確にすることができる。 4. 看護問題から看護計画を考えることができる。									
学修者への期待等	看護実践に欠かせない、看護の展開に必要な知識と技術の習得を目指します。看護理論や基礎看護技術と結び付け、看護の対象理解と援助ができる基盤としての思考過程が身につくことを期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	看護過程の構成要素、クリティカルシンキング・ポートフォリオの使用について				【事後】教科書①P18～P35について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
2	V.ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」と看護過程				【事後】教科書①P36～P67について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
3	アセスメント（情報収集、情報の分類、整理）				【事後】教科書①P70～P83について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
4	アセスメント（情報の分析、解釈）				【事後】教科書①P84～P103について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
5	看護上の問題点（看護問題の明確化・全体像と関連図）				【事後】教科書①P112～P115について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
6	看護上の問題点（看護問題の明確化・看護診断）				【事後】教科書①P116～P129について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
7	事例展開（情報収集～看護上の問題点まで）				【事後】事例を用いた看護過程展開の内容について、個別に整理する課題に取り組む（1時間程度）				木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
8	看護計画（優先順位・目標の設定）				【事後】教科書①P130～P137について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
9	看護計画（具体的援助方法）				【事後】教科書①P138～P149について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
10	事例展開（目標の設定・看護計画の立案）				【事後】事例を用いた看護過程展開の内容について、個別に整理する課題に取り組む（1時間程度）				木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
11	看護介入の実施、評価				【事後】教科書①P150～P166について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
12	看護過程と看護記録（SOAP）				【事後】教科書②P98～P102について復習、課題作成すること（1時間程度）				木下 美佐子	
13	事例展開（アセスメント）				【事前】事例展開に必要な事前学修すること（1時間程度）				木下 美佐子	
14	事例展開（看護計画の立案）				【事前】事例展開に必要な事前学修すること（1時間程度）				木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
15	看護過程のまとめ				【事前】展開した事例のプレゼンテーションのための発表の準備（1時間程度）				木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
教科書	①『看護がみえる 4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯横ます他訳、日本看護協会出版会									
備考	第7、10、13～14回の授業は事例を用いたグループワーク、15回はプレゼンテーションを行う。科目ポートフォリオを作成し筆記試験終了時に提出。授業内課題は復習として行い提出を求め、フィードバックする。 授業内課題は、ポートフォリオ10%、課題30%で評価する。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa04				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅰ				単位 認定者	竹田 理恵 二口 尚美		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数			
授業の概要	看護実践に必要な共通的看護技術の修得を目指す。具体的には、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 看護技術に共通する考え方について説明できる。 2. 看護における関係形成・対人技法の基本を理解して、良好なコミュニケーションを図る方法を説明できる。 3. 感染予防のための基本について理解し、演習を通して正しい方法で実施できる。 4. 医療における安全確保の技術を理解し、説明できる。 5. 看護における学習支援について説明できる。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み振り返りができる。									
学修者への期待等	教科書の該当箇所を必ず予習すること。「看護技術とは何か」「看護とは何か」「なぜそうするのか／なぜそうしてはいけないのか（根拠）」など常に考えながら、講義・演習に臨んで欲しい。特に演習では、学内の「医療施設」に入る気持ちで臨んでほしい。さらに、確実に理解・習得して次に学ぶ技術と統合して実践できるよう心掛けてほしい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	看護技術を学ぶ（看護技術とは何か、看護技術の根拠をなすものとは何か）					【事前】教科書① 序章を読む（30分）			木下 美佐子	
2	看護におけるコミュニケーション					【事前】教科書① 第1部、教科書② 第1部2章3を読む（30分）			竹田 理恵	
3	感染防止の技術Ⅰ（基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、感染管理）					【事前】教科書② 第1部4章を読み配布課題レポートに取り組む（30分）			二口 尚美	
4	感染防止の技術の基礎（スタンダードプリコーションの実際）					【事後】課題に取り組み提出する（30分）			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
5	感染防止の技術Ⅱ（洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い）					【事前】教科書② 第1部4章を読み配布課題レポートに取り組む（30分） 【事後】確認テストに取り組む（30分）			二口 尚美	
6	感染防止の技術の実践（無菌操作・感染性廃棄物の取り扱いの実際）					【事後】課題レポートに取り組み提出する（30分）			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
7	安全確保の技術（医療事故防止、針刺し防止策）					【事前】教科書② 第1部3章を読む（30分）			竹田 理恵	
8	看護における学習支援					【事前】教科書① 第1部1章5と6を読む（30分）			竹田 理恵	
教科書	①『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	必要時授業内で提示する									
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、江口美知子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第4,6回） *授業内課題は、レポート（10%）、学習カード（10%）、確認テスト（10%）等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		試験(実技)	20 %
						授業時間数	60 時間		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。									
到達目標	1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。 2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとおして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム（必要時）等が必要です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	環境調整：援助の基礎知識				教科書② 第1部1章・2章を読む（1時間）			佐藤 由記子		
2	環境調整：援助の方法 （ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備）							佐藤 由記子		
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖		
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク									
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク									
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）					
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク									
8	活動・休息：基本的活動の援助				教科書② 第2部7章を読む（1時間）			佐藤 清湖		
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				教科書② 第2部8章を読む（1時間）			佐藤 清湖		
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子		
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク									
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識				教科書② 第2部9章を読む（1時間）			竹田 理恵		
13	清潔・衣生活：援助の方法 （手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄）							竹田 理恵		
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）			竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖		
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助				教科書② 第2部9章を読む（30分）			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法（入浴 シャワー浴 全身清拭）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモンストレーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清拭の実施方法」：グループワーク		
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモンストレーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施方法」：グループワーク		
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助		佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の方法（おむつによる排泄援助）		竹田 理恵
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄援助」：グループワーク		
教科書	①『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、他1名 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 14, 16, 19, 20, 22, 23, 26, 29, 30回） *授業内課題は、演習レポート課題（25%）、確認テスト（5%）で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者			評価の 方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（技術）	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	フィジカルイグザミネーションには五感を活用する。人体の構造と機能の知識をもとに正確・安全・安楽に実施できる技術を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	ヘルスアセスメント				【事前】「事前課題」を作成する。教科書①「第2部」を読む（30分）					
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				教科書①「第3部」を読む（30分）					
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
7	計測の実際：グループワーク				【事前】教科書②「身体計測」を読む（30分）					
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				佐藤 清湖	
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				佐藤 清湖	
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク				【事前】教科書②「頭頸部のアセスメント」、「腹部のアセスメント」、「乳房と腋窩のアセスメント」、「直腸・肛門・生殖器のアセスメント」、「脳・神経系のアセスメント」、「筋・骨格系のアセスメント」、を読む（60分）、動画視聴（10分）				佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子	
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク				【事前】：教科書②「呼吸器系のアセスメント」、「循環器系アセスメント」を読む（30分）、動画視聴（10分）				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
14	心理・社会状態のアセスメント				【事前】教科書①「第2部」、教科書②「フィジカルアセスメント総論」を読む（30分）				佐藤 清湖	
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク				【事前】第1回から第14回までの教科書①②、参考書および動画視聴内容を復習する（30分）				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂 『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹著、メジカルフレンド社									
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、ほか1名 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 13, 15回） *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート（10%）、確認テスト（10%）、学習カード（10%）で評価し、授業の中でフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	
				授業回数		30 回				
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術（採血・検体検査）を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置（一時的導尿・持続的導尿）」				教科書② 第2部6章を読む（1時間）				竹田 理恵	
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置（浣腸・摘便・ストーマケア）」								竹田 理恵	
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（処置）」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）				竹田 理恵 二口 尚美	
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（患者の観察）」：グループワーク								佐藤 由記子 佐藤 清湖	
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、電法、末梢循環促進ケア」				教科書② 第3部11章を読む（30分）				佐藤 清湖	
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」				教科書② 第3部10章を読む（30分）				佐藤 清湖	
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）				佐藤 清湖 二口 尚美	
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」								佐藤 由記子	
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」				教科書② 第4部12章を読む（1時間）				佐藤 由記子	
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）				佐藤 由記子 二口 尚美	
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」：グループワーク								竹田 理恵 佐藤 清湖	
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」				教科書② 第4部13章を読む（1時間）				佐藤 由記子	
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」								佐藤 由記子	
14	与薬の技術 「注射の基礎知識／針刺し防止策」				教科書② 第4部13章を読む（30分）				佐藤 清湖	

回	授業計画	準備学修	担当
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク		
17	与薬の技術 「注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
19	筋肉内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		
20	与薬の技術 「静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 清湖
22	点滴静脈内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）」	教科書② 第4部14章を読む（30分）	
25	静脈血採血の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
26	静脈血採血の実際（検体の取り扱い、患者の観察）：グループワーク		
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）」	教科書② 第4部14章を読む（1時間）	
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」		
29	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1：グループワーク、ディスカッション	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（1時間）	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵
30	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション		
教科書	①『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、江口美知子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回） *授業内課題は、確認テスト（15%）、演習レポート課題（25%）で評価し、次回授業時等にフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSMc01				
	●		●							
科目名	成人看護学概論				単位 認定者	佐藤 富美子		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護学における成人期は、心身が成熟した時から老いが始まるまでの期間であり、人生の中で最も長い時期として過ごすことになる。本科目では、成人看護学の理念、成人期の発達段階の特徴、成人の生活を理解し、成人における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について学修し、成人看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 成人看護学の理念及び成人期の発達段階の特徴、成人の生活と健康について説明できる。 2. 成人期における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について説明できる。 3. 成人看護学に活用できる理論について説明できる。									
学修者への期待等	今後、成人看護学に関する授業を学ぶ上での基礎となる科目です。毎回の授業内容をあらかじめ定めているので、授業に臨む前に必ず教科書を読んでおくこと。グループワーク前の課題にはしっかり取り組み、自分の考えを積極的に発言すること。授業後には、授業であげたトピックに関する文献を検索、読み込んで理解を深めること。									
回						準備学修				
1	成人看護学の理念					教科書①第1章を予習すること（1時間程度）				
2	成人期にある人の成長・発達① 発達における文化と統合 成人期の特徴					教科書①第1章を予習すること（1時間30分程度）				
3	成人期にある人の成長・発達② 青年期の身体的・心理社会的特徴					青年期の身体的・心理社会的特徴についてレポートし、グループワークの準備をすること（1時間程度）				
4	成人期にある人の成長・発達③ 壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴					壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴についてレポートし、グループワークの準備をすること（2時間程度）				
5	成人の生活と健康① 生活と健康 成人各期の健康課題と健康な生活の目標					教科書①第2章、教科書②（死因・有病率など）を予習すること（1時間程度）				
6	成人の生活と健康② 生活習慣病の動向と対策					教科書①第2章、教科書②（健康日本21など）を予習すること（1時間程度）				
7	成人保健の動向と健康問題の予防および保健対策					教科書①第3章、教科書②（健康日本21など）を予習すること（1時間程度）				
8	成人看護学に活用できる理論 ストレス理論 危機理論 健康信念モデル 変化のステージモデルなど					基礎看護学の「看護学概論」で学修した中範囲理論について、成人看護学の活用について復習・予習すること（1時間程度）				
教科書	①『成人看護学』黒田裕子編、医学書院、 ②『国民衛生の動向 2025/2026』厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会									
参考文献										
備考	・授業内課題は「成人期の身体的・心理社会的特徴」についてレポートで評価し、各自にコメントしてフィードバックする。なお、この授業内課題は第3、4回の授業やグループワークに活かすための事前準備でもあり、授業・グループワークの内容も含めて提出してもらう。 ・授業に関する質問は主に各授業終了時に提出するミニットペーパーで確認し、次回授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMi05				
	●	●		●						
科目名	スタートアップセミナー				単位認定者	桑田 恵美子		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	初年次教育科目として、大学における学修に必要な基礎の修得を目指す。大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にする。自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを学修する。また、グループワーク等の演習を通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性の伸長も目指す。									
到達目標	1. 大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にできる。 2. 自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション、資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを理解できる。 3. グループワークを通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性を高める態度を養う。 4. 自分自身の未来に向けてキャリアを積んでいく態度を養う。									
学修者への期待等	大学での学びは、高校までの学びと異なり、一定の知識を獲得するだけではなく、あなたの未来に向けて、自ら学び方を学び、新しい知識を吸収し、疑問を持ち、自分の力でその問題を解き明かす。そして、他者からの批判を受け入れ、自分の考え方を磨いていくプロセスです。自分自身の未来に向けてキャリアを積んでいく学び方の基礎を身につけましょう。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	大学で学ぶとは 教育理念・目標 カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー								桑田 恵美子	
2	- スタディ・スキル1 - 教養科目・専門基礎科目・専門科目 カリキュラムツリー								二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
3	- スタディ・スキル2 - PCを使用する大学の講義・遠隔授業				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)					
4	- スタディ・スキル3 - 図書館の利用法、文献・資料収集、Web検索方法				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)					
5	- スチューデント・スキル1 - 学生生活、学生支援体制				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)					
6	- スチューデント・スキル2 - 健康管理				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)					
7	- スチューデント・スキル3 - こころの健康・ストレス対処スキル				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)				真覚 健	
8	- スチューデント・スキル4 - 対人関係スキル・伝える・聴く・関わる				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)				真覚 健	
9	- スタディ・スキル4 - 効果的な学習の方法				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
10	- スタディ・スキル5 - プレゼンテーションスキル									
11	- スタディ・スキル6 - 仲間と学ぶ、チームの一員としての役割 (グループワーク)				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)					
12	- スタディ・スキル7 - ディスカッション・スキル				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)					
13	看護のキャリアとキャリア・デザイン				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)				桑田 恵美子	
14	将来の職業生活・進路選択				【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)				桑田 恵美子	
15	目指す看護師像・多職種連携における看護職の役割				【事前】レポート課題 「理想の看護職像と今後のキャリアデザイン」 (5時間程度) 【事後】授業内の学びの提出 (30分程度)				桑田 恵美子	
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	『看護学生のためのよくわかる大学での学び』前原澄子他著、金芳堂									
備考	* 第12回目は入学前教育課題「読書感想文」をもとにディスカッションする。 * 授業内課題は、各回の「授業内の学び」で評価し、次回授業時にフィードバックする。 * レポート課題「理想の看護職像と今後のキャリアデザイン」									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習Ⅰ				単位 認定者	木下 美佐子		評価の方法	認知領域 (知識)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		精神運動領域 (技術)	20 %
						授業時間数	40 時間		情意領域 (態度)	30 %
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	病院や地域における看護実践活動を見学し、看護の対象としての人間と看護の場、看護の役割や機能の実際について理解を深める。また、各健康段階にある生活者とコミュニケーションをとり、看護の対象としての人について身体的・心理的・社会的・文化的側面を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。									
到達目標	1. 健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。 2. 利用者・患者の思いに関心を向け、対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。 3. 看護実践活動を見学し、看護がどのように実践されているのかがわかる。 4. 看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。									
学修者への期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にし、学修意欲つながることを期待する。									
授業計画							準備学修			
Ⅰ. 実習期間 1週間 Ⅱ. 実習施設 病院 老人福祉センター Ⅲ. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を行う。 2. 病院 1) 患者1名を受け持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。 2) 看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. 老人福祉センター 1) 利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。 2) 活動の場の環境を知ることができる。 4. 実習のまとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。							【事前】 ・実習の事前学習では、実習上で必要な基礎的な看護技術としての手指衛生、標準予防策に基づく個人防護具の着脱、コミュニケーション技術、環境整備、ベッドメイキング、配膳について授業内容を復習してから実習に臨むこと。（1～3時間程度） ・学生オリエンテーション、実習記録の配布時間を別途開講するので必ず参加し、実習準備を整えること。			
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア その他オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	＊ルーブリック評価表を用いて、認知、精神運動、情意領域を評価する。 担当：木下美佐子、阿部春美、岡崎優子、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、伊藤茉莉子、佐藤由記子、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、泉田さとみ、佐藤清湖、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手4名 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj02				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位 認定者	木下 美佐子		評価の方法	認知領域 (知識)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		精神運動領域 (技術)	20 %
						授業時間数	80 時間		情意領域 (態度)	20 %
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	患者の療養環境を理解し、健康問題を持つ対象理解に向けた情報を収集した上で、日常生活における問題を論理的に捉え援助することを学ぶ。また、対象者のニーズを捉え、情報の持つ意味を考えた看護計画を立案し、適切な看護が実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。									
到達目標	1. 受け持ち患者の情報を収集・把握してアセスメントができる。 2. 受け持ち患者の看護計画が立案できる。 3. 受け持ち患者の看護計画に沿って、援助できる。 4. 看護過程の重要性が理解できる。 5. 看護学生として責任ある態度で行動できる。									
学修者への期待等	学内で学んだ看護学概論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護過程および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、患者理解が深まる積極的な姿勢で、実習に臨むことを期待する。									
授業計画						準備学修				
Ⅰ. 実習期間 2週間 Ⅱ. 実習施設 病院 Ⅲ. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握する。 2) 事前学修、技術の再確認を行う。 3) 受け持ち患者の看護過程に関するカンファレンスを行う。 4) 実習の振り返りを行う。 2. 病院 1) 患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 看護過程の展開を通し、適切な援助方法を学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通し、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. まとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」についての自分の考えを深める。 2) 実習に臨む態度を振り返り、今後の課題を明確にする。						【事前】 ・実習の事前学習では、実習要項にある「学生が実施できる看護技術」に記載のある基礎的な看護技術について授業内容を復習してから実習に臨むこと。（3時間程度） ・受け持ち患者に対して初めて看護過程を展開するので、展開に必要な既習の専門基礎科目、専門科目についても復習しておくこと。（3時間程度） ・学生オリエンテーション、実習記録の配布時間を別途開講するので必ず参加し、実習準備を整えること。				
教科書	①『看護がみえる4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 その他、オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	＊ルーブリック評価表を用いて、認知、精神運動、情意領域を評価する。 担当：木下美佐子、高橋由美、桑田恵美子、阿部幹佳、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、佐藤由記子、岡崎草代夏、坂村佐知、東海林美幸、佐藤清湖、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手5名									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護学部 看護学科 2年生

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 看護学科2年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2	オリエンテーション	3	(入学式)	4	1	5	
	6		7	1	8	1	9	健康診断 1	10	1	11	2	12	
	13		14	2	15	2	16	2	17	2	18	3	19	
	20		21	3	22	3	23	3	24	3	25	4	26	
	27		28	4	29		30	4	1	4	2	5	3	
5月	4		5		6		7	5	8	5	9	6	10	
	11		12	5	13	4	14	6	15	6	16	7	17	
	18		19	6	20	5	21	7	22	7	23	8	24	
	25		26	7	27	6	28	8	29	8	30	9	31	
6月	1		2	8	3	7	4	9	5	9	6	10	7	
	8		9	9	10	8	11	10	12	10	13	11	14	
	15		16	10	17	9	18	11	19	11	20	12	21	
	22		23	11	24	10	25	12	26	12	27	13	28	
	29		30	12	1	11	2	12	3	13	4	14	5	
7月	6		7	13	8	12	9	13	10	14	11	15	12	
	13		14	14	15	13	16	14	17	15	18	火14	19	
	20		21		22	定期試験	23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験	26	
	27		28	定期試験	29		30		31		1	不合格者発表	2	
8月	3		4		5		6	再試験	7	再試験	8	再試験	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	領域横断看護実習	19	領域横断看護実習	20	領域横断看護実習	21	領域横断看護実習	22	領域横断看護実習	23	
	24		25	領域横断看護実習	26	領域横断看護実習	27	領域横断看護実習	28	領域横断看護実習	29	領域横断看護実習	30	
	31		1	領域横断看護実習	2	領域横断看護実習	3	領域横断看護実習	4	領域横断看護実習	5	領域横断看護実習	6	
9月	7		8	領域横断看護実習	9	領域横断看護実習	10	領域横断看護実習	11	領域横断看護実習	12	領域横断看護実習	13	
	14		15		16	領域横断看護実習	17	領域横断看護実習	18	領域横断看護実習	19	領域横断看護実習	20	領域横断看護実習
	21		22		23		24		25	オリエンテーション	26	1	27	
	28		29	地域・在宅看護学実習Ⅰ	30	地域・在宅看護学実習Ⅰ								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 看護学科2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1 地域・在宅看護学実習Ⅰ	2 地域・在宅看護学実習Ⅰ	3 地域・在宅看護学実習Ⅰ	4
	5	6 1	7 1	8 1	9 1	10 2	11 (保護者会)
	12	13	14 2	15 2	16 2	17 3	18
	19	20 2	21 3	22 3	23 3	24 4 せいやう祭準備	25 せいやう祭
	26	27 3	28 4	29 4	30 4	31 5	1
11月	2	3	4 5	5 5	6 5	7 6	8
	9	10 4	11 6	12 6	13 6	14 7	15
	16	17 5	18 7	19 7	20 7	21 8	22
	23	24	25 8	26 8	27 8	28 9	29
	30	1 6	2 9	3 9	4 9	5 10	6
12月	7	8 7	9 10	10 10	11 10	12 11	13
	14	15 8	16 11	17 11	18 11	19 12	20
	21	22 9	23 12	24 12	25 12	26 13	27
	28	29	30	31	1	2	3
1月	4	5 10	6 13	7 13	8 13	9 14	10
	11	12	13 14	14 14	15 14	16 15	17
	18	19 11	20 15	21 15	22 15	23 月12	24
	25	26 13	27 月14	28 月15	29 予備日	30 定期試験	31
2月	1	2 定期試験	3 定期試験	4 定期試験	5 定期試験	6	7
	8	9	10	11	12	13 不合格者発表	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24 再試験	25 再試験	26 再試験	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 (卒業式)	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa07				
	●			●						
科目名	ICT活用技術				単位 認定者	菅原 文彦		評価 の方法	授業内 課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数			15 回			
授業の概要	情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。 ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。									
到達目標	1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な用語の説明が出来る。 2. 医療機関における個人情報保護のための対策・対応がとれる。 3. 情報セキュリティにまつわる危険を回避できる。 4. 医療機関で利用する情報システムの意義や役割について説明できる。 5. ICTの医療福祉分野への活用について自分の言葉で説明ができる。									
学修者への期待等	1. 電子カルテを中心とした病院情報システムの操作と理解 2. 医療データの記録、活用、分析、および情報セキュリティの基本的な考え方 3. ICTの基礎的能力の修得と、患者ケアに関する情報やエビデンスの 検索・収集・整理・分析能力の向上									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス 医療福祉分野におけるICT活用とは					講義内容の復習（概ね30分）				
2	コンピュータの基礎 （ハードウェアとソフトウェア）									
3	ネットワークの基礎									
4	情報倫理（個人情報の取り扱い）					教科書の該当ページを予習・復習すること。該当ページは前回授業時に指示する（概ね30分）				
5	情報セキュリティ（セキュリティ技術）									
6	情報セキュリティ（マルウェアによる被害と対策）									
7	日本の情報化政策と医療福祉分野のICT化の状況 （電子化・標準化の意義）									
8	医療情報システム（病院情報システム）									
9	医療情報システム（電子カルテ）									
10	医療情報システム（健康診断システム）									
11	医療情報システムと安全管理									
12	グループワーク（アイデア出し） 「理想の医療情報システムとは」					「理想の医療システムとは」についてアイデアソンを行います。 課題に対してアイデア出しを行いグループでプレゼン資料を作成して発表する				
13	グループワーク（プレゼンテーション準備） 「理想の医療情報システムとは」									
14	グループワーク（プレゼンテーション） 「理想の医療情報システムとは」									
15	医療福祉分野におけるICT技術の展望									
教科書	『医療情報システム入門2023』一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会編、社会保険研究所									
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。									
備考	・授業内課題等（70％）は提出物で評価し、授業内、UNIPAでフィードバックする。 ・提出物は指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc01				
	●									
科目名	法学入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価の 方法	授業内課題等	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活上で必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への 期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	法律の意義と学ぶ意味									
2	憲法（１）基本的人権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
3	憲法（２）統治機構					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
4	民法（１）総則、物権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
5	民法（２）債権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
6	民法（３）親族・相続					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
7	刑法（１）総論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
8	刑法（２）各論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
教科書	特に指定しない。									
参考文献	必要に応じて講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進捗に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc03				
	●									
科目名	経済と政策				単位認定者	岩 渕 修		評価の方法	試験(レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。									
到達目標	マクロ経済学とマクロ経済政策についての基本的知識を理解すること。その上で、日本経済の長期停滞、デフレ、人口減少、少子高齢化といった厳しい現実の下で、「政策」がどのような可能性を秘めているかを自分で考える。									
学修者への期待等	日常のニュースに関心を持ち、日本の戦後の経済史や時事問題、経済データに興味を持つこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	「経済」と「経済学」の関係、ストックとフローや国民所得概念					日本や世界各国の経済データを調べる。 (概ね15分)				
2	ケインズ経済学の単純なモデルである45度線分析					経済学説上でのケインズについて調べる。 (概ね15分)				
3	IS-LM分析モデルと経済政策の効果					基本的な財政政策と金融政策について調べる。 (概ね15分)				
4	AD-AS分析モデルと物価					現在のデフレと失業率について調べる。 (概ね15分)				
5	戦後日本経済史とバブル					バブル時代の日本の状況について調べる。 (概ね15分)				
6	バブルの崩壊と日本の長期停滞					「失われた30年」の経済成長率とデフレについて調べる。(概ね15分)				
7	伝統的金融政策と異次元の金融政策					異次元の金融政策について調べる。(概ね15分)				
8	財政政策と日本の累積国債残高					現在の日本の財政状況を調べる。(概ね15分)				
教科書	なし									
参考文献	『ケインズ』伊東光晴著、岩波新書 『マクロ経済学』斎藤誠他著、有斐閣									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd03				
	●				●					
科目名	自然環境と災害				単位認定者	江川 新一		評価の方法	試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		事前課題	30 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となつて新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。									
到達目標	さまざまなハザードにより起きる災害において、災害リスクと、その低減（＝防災）について述べることができる。わが国をとりまく自然環境との共生についてアイデアを述べることができる。									
学修者への期待等	災害リスク低減の一翼を担える保健医療人材として防災に関わり続けてほしい。とくに、リハビリテーションや看護を必要とする人々の個別防災計画立案や災害ケースマネジメントに関わるできるように地域と連携しながら活動できる人材になってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	災害医学の基礎知識					教科書35章を読んでくること。（30分程度） 授業終了時に概要レポートを提出すること。				
2	東日本大震災とは何だったのか？					学籍番号下1桁と同じ下1桁の章（xx7番なら17章、27章、37章、47章のいずれか）から感じたことをスライド1枚で提出。（1時間程度）				
3	避難所運営ゲーム(HUG)（参加型カード演習）					避難所のあり方について予習してくること。（30分程度）				
4	気候変動					気候変動による災害について各自1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）				
5	災害リスクと仙台防災枠組					思いつくハザード1つについて、ハザードと曝露、脆弱性、対応能力の関係について1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）				
6	Psychological First Aid（ロールプレイ）					災害におけるメンタルヘルスの問題について予習してくること。（30分程度）				
7	災害と向き合ってきた歴史と伝承					さまざまな災害をどう伝承するか、思いつく好事例について1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）				
8	学修成果発表会					保健医療従事者として災害にどのように対応し、事前に防災への貢献ができるかをスライド5枚以内でまとめてくること。（1時間程度）				
教科書	『東日本大震災からのスタート～災害を考える51のアプローチ～』 東北大学災害科学国際研究所編、東北大学出版会									
参考文献	・サイコロジカル・ファーストエイド：PFA(https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf) ・未来へつなごう私たちのBOSAI 2020(https://sendai-resilience.jp/media/pdf/bosai2020.pdf)									
備考	提出したスライドはいくつか授業中に匿名で提示し、Slideなどを用いた匿名性の双方向性議論の対象にします。また、個別にもフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSLd04				
	●			●						
科目名	統計学入門				単位 認定者	菅原 由美		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。									
到達目標	1. 統計データの種類とグラフについて理解し、データや目的に合わせた選択をすることができる。 2. 平均値、中央値、最頻値、標準偏差、分散、箱ひげ図の概念を理解する。 3. 正規分布を理解し、これをもとにカイ2乗分布、t分布の違いとそれぞれが適応可能な実例が区別できる。 4. 検定の基本的な考え方が理解できた上で、母集団の平均値や分散の検定を行うことができる。									
学修者への期待等	今後、看護研究を行う上で基礎となる科目です。事前に教科書を読んで授業に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	統計データの種類とグラフ・データの代表値（平均値・中央値・最頻値）					教科書の第7章「1. 統計データの種類とグラフ」および「2. データの代表値」を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
2	データの散布度（標準偏差と分散）					教科書の第7章「3. データの散布度」を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
3	正規分布の定義と特徴					教科書の第7章「4. 正規分布の特徴」を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
4	基準値と偏差値					教科書の第7章「5. 基準値と偏差値」の章を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
5	相関係数と回帰係数					教科書の第7章「6. 相関係数と回帰係数」の章を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
6	統計的仮説検定と推定					教科書の第7章「7. 推定の考え方」および「8. 検定の考え方」を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
7	χ^2 （カイ2乗）検定と t 検定					教科書の第7章「9. χ^2 （カイ2乗）検定」および「10. t検定」を読んで授業に臨んでください。（30分程度）				
8	統計学入門まとめ					1～7回の授業内容を復習して、授業に臨んでください。（30分程度）				
教科書	『楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計』浅野嘉延著、南山堂									
参考文献	『基本からわかる看護統計学入門』大木秀一著、医歯薬出版									
備考	授業内課題は、小テストで評価し、次回の授業でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSLd05				
	●									
科目名	健康スポーツ I				単位 認定者	菅原 一昭		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅠでは、健康を維持するために必要な食生活と運動（スポーツ）の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。									
到達目標	日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	日頃から体調管理に努め、欠席・遅刻のないよう万全の態勢で授業に臨むことを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	生活習慣病と健康Ⅰ （生活習慣病・健康寿命・食事）					農林水産省・厚生労働省ホームページを事前に関連し、新しい食生活指針について学修すること（概ね30分）				
2	生活習慣病と健康Ⅱ（運動・喫煙・飲酒）					日常的に実施している健康法について自分の考えをまとめること（概ね30分）				
3	スポーツの概念と歴史					スポーツの起源について事前に学修すること（概ね30分）				
4	文化としてのスポーツ					フェアプレーについて自分の考えをまとめること（概ね30分）				
5	体力の概念（行動体力・防衛体力）					行動体力、防衛体力について事前に学修すること（概ね30分）				
6	トレーニングの進め方 （トレーニングの原理・原則種類）					運動を実施する上で、各自のウォーミングアップ方法を考え、まとめること（概ね30分）				
7	文部科学省（スポーツ庁）施策 主なスポーツ関係府省庁及び施策					スポーツ庁ホームページを事前に関連し、様々な施策について学修すること（概ね30分）				
8	総括、試験対策									
教科書	授業時に資料を配布する。									
参考文献										
備考	第8回は第1回～第7回までの資料を持参すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd06				
	●									
科目名	健康スポーツⅡ				単位 認定者	菅原 一昭		評価の方法	試験(実技)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
					授業形態	実技	授業時間数		30 時間	
				授業回数			15 回			
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動（スポーツ）の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。									
到達目標	日常生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	チームの一員としてチームプレーを心掛けると共に、ルールを守ることの大切さを理解し、公正なプレーを心掛けること。実技の上手い、下手での評価ではなく、個々の取り組み姿勢、審判・準備・片付け等を積極的に行うことを評価対象とする。									
回	授業計画					準備学修				
1	体育館での授業についての説明。アンケート					【事前】 競技種目の歴史やルールを事前に調べておく。 常日頃からウォーキング、ジョギング、ストレッチを心掛け、運動不足や怪我防止に努める。（各回30分程度） 【事後】 体育館での実技後、体調管理に気をつける。 翌日の疲労を和らげるために、帰宅後のストレッチや入浴等のアフターケアを実施する。（各回30分程度）				
2	体育館 準備運動（ペアストレッチⅠ）									
3	①ドッジビー ②ソフトバレーボール									
4	体育館 準備運動（ペアストレッチⅡ）									
5	①タスポニーバレー ②インディアカ									
6	体育館 準備運動（ペアボールランニング）									
7	①ユニホック ②バドミントン									
8	体育館 準備運動（スポーツ競技ストレッチ）									
9	①ゴールボール（視覚体験） ②シッティングバレーボール（障害者スポーツ体験）									
10	体育館 準備運動（ランニングドリル）									
11	①卓球 ②バレーボール									
12	体育館 準備運動									
13	①ボッチャ ②フットサル									
14	体育館 準備運動（各自）									
15	①実技試験（ハンマー投げ） ②バスケットボール									
教科書	なし。									
参考文献	授業時に資料を配布する。									
備考	・第1回目には出席しないとバスの乗車時間・場所等が分からなくなりますので必ず出席すること。 ・第2回目以降は体育館にて実施。（上下運動着、上靴持参、タオル持参）。 ・土足厳禁。バス内での飲食禁止。事前に着替えてくること。 ・授業内課題は適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb05				
			●							
科目名	病態治療学Ⅳ				単位認定者	平山 和美 佐野 徳久		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>		授業回数		15 回	
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、運動機能障害、神経機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 2. 末神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 3. 骨・関節の疾患の病態と診断・治療について説明できる 4. 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療について説明できる									
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	中枢神経解剖の総復習・脳画像の見方				事前に資料を配布するので、読んでおくこと(30分程度)。				平山 和美	
2	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (脳血管障害:脳内出血、クモ膜下出血、脳梗塞)				成人看護学[7] 第5章: B① 一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
3	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (頭蓋内圧亢進症、頭部外傷)				成人看護学[7] 第3章: B⑥、第5章: B③一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
4	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (腫瘍、てんかん)				成人看護学[7] 第5章: B②、I 一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
5	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (感染症: 髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、真菌、細菌、ウイルス、プリオンによる感染、)				成人看護学[7] 第5章: J 一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
6	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (変性疾患: パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脱髄疾患: 多発性硬化症)				成人看護学[7] 第5章: G 一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
7	末神経系の疾患の病態と診断・治療 (ギラン・バレー症候群、圧迫性神経障害、顔面神経麻痺)				成人看護学[7] 第5章: E 一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
8	筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療 (筋ジストロフィー、重症筋無力症)				成人看護学[7] 第5章: F 一読しておいて下さい(30分程度)				平山 和美	
9	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (骨粗鬆症、骨折)				成人看護学[10] 第5章: ⅠA・ⅡD、第2章: A、第4章: C (関連事項) 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
10	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (脱臼、捻挫)				成人看護学[10] 第5章: ⅠBC、第2章: B・D、第4章: C (関連事項) 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
11	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (変形性関節症)				成人看護学[10] 第5章: ⅡB③・ⅡA②、第2章: B 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
12	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (腫瘍: 骨肉腫、軟部組織腫瘍)				成人看護学[10] 第5章: ⅡC 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
13	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (腰痛症: 椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症)				成人看護学[10] 第5章: ⅡH、第2章: C、第3章: D、第4章: C (関連事項) 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
14	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (炎症性疾患: 骨炎、骨髄炎、関節炎)				成人看護学[10] 第5章: ⅡB①② 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
15	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (脊髄損傷)				成人看護学[10] 第5章: ⅠD・ⅠA②-17・ⅠB②-7、第2章: C①、第3章: D 一読しておいて下さい(30分程度)				佐野 徳久	
教科書	『系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経』井手隆文他著、医学書院 『系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器』田中栄他著、医学書院									
参考文献										
備考	第9～15回の授業は遠隔(オンデマンド)で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSFc01				
		●	●		●					
科目名	公衆衛生学				単位 認定者	山本 玲子		評価の 方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	疫学調査等の知見に基づく予防医学的視点を理解する。具体的には、疾病の予防・早期発見・早期治療やリハビリテーションも含む予防活動や、国・地方自治体などの行政や市民組織といった集団・組織的努力により実施する公衆衛生活動について学ぶ。また、関連法規や施策とその運用として地域保健、母子保健、精神保健、学校保健、産業保健等の保健活動について学び、実際の公衆衛生活動に対応できる基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 健康問題を把握し、問題解決に必要な疫学的手法や公衆衛生活動の方法論、健康行動変容理論などの基礎を説明できる。 2. 健康事象を人間集団の特性(性・年齢・職業・教育など)と環境(地域・所属社会・自然環境など)との関わりから説明できる。 3. 関連法規や施策とその運用について実際の公衆衛生活動に活用・対応できる基礎知識を修得する。									
学修者への期待等	教科書の授業該当章節のPointに目を通し、詳細は教科書で確認して授業に臨むこと。事後には、授業でのキーワードについて教科書・授業内資料・図書館・信頼できるweb検索情報源などを用い、理解を確かなものにし、知識やデータを読み解き構成する力をつけること。									
回	授業計画					準備学修				
1	公衆衛生学とは - 概念・目的・活動理論と健康問題(国内外の歴史と現状)					教科書「第1章公衆衛生学序論」を予習(1時間)。配布資料も含め復習し、次回授業内質問事項など整理(2時間)				
2	法律と地域保健活動 - 地域住民の健康と行政の役割					教科書「第2章地域保健-地域住民の健康と行政の役割」を予習(1時間)。復習し、質問事項を整理(2時間)				
3	環境と健康 - 生活環境・地域環境・地球環境と健康問題					教科書「第3章環境と健康-環境保健」を予習(1時間)。授業後復習し、次回授業での質問事項を整理(2時間)				
4	保健統計 - 健康・疾病・行動に関わる統計資料					教科書「第4章保健統計」を予習(1時間)。復習し、次回授業での質問事項を整理(2時間)				
5	疫学 - 健康状態・疾病の測定と評価/倫理					教科書「第5章疫学-健康状態・疾病の測定と評価」を予習・復習し、次回授業での質問事項を整理(2時間)				
6	健康管理・主要疾患の疫学と予防 - 生活習慣病(非感染性疾患NCD)・感染症・精神保健の現状と対策					教科書「第6章疾病予防と健康管理-生活習慣の現状と対策」「第7章主要疾患の疫学と予防」を予習・復習(2時間)				
7	保健・医療・福祉の制度 - 社会保障・医療・福祉・介護					教科書「第8章保健・医療・福祉の制度1社会保障概念2医療制度3福祉制度5高齢者保健・介護」を予習・復習(2時間)				
8	ライフステージと健康 - 母子保健・学校保健・産業保健・成人保健の現状と対策					教科書「第8章保健・医療・福祉の制度4母子保健5成人保健6産業保健7学校保健」を予習(1時間)・復習(2時間)				
教科書	『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、アイ・ケイコーポレーション									
参考文献	『国民衛生の動向2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
備考	授業内課題については授業内質問、確認テストなどで評価し、適宜フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc02				
			●		●					
科目名	疫学				単位認定者	中塚 晴夫		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
		＊保健師選択制 必修				授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人間の集団で起きている健康に関する様々な出来事の頻度や分布を測定し、それに関わる要因を推測し、疾病の予防・健康の増進に応用する疫学的な考え方の基礎を学ぶ。集団を対象とした健康や病気に 関する情報と統計的な調査を正しく理解する力を養い、健康課題を解決するために、地域をアセスメン トして疾病予防・健康増進対策を立案して結果を評価する能力に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 公衆衛生看護の根拠となる疫学の考え方を理解する。 2. 疫学で使用される数値の算出方法とその意義を学ぶ。 3. 疫学で示される結果の活用方法を学ぶ。									
学修者への 期待等	復習を講義当日に行い、自分の言葉で内容を理解し説明できるようにする。知識の羅列と暗記で終わる 分野ではないので、板書の単語を写すノートではなく、自分自身の教科書を作るつもりで復習をする。									
回	授業計画					準備学修				
1	疫学とは何か。基本概念、疫学の方法・種類を学 び、病因と疾患の関連（モデル）を理解する。					集団対象の考えを理解し、自分の言葉で理解する 復習をする。以下全て当日中に行う。（1時間程 度）				
2	集団を対象として疾病の頻度を表す指標・数値の種 類、算出方法とその性質と使用目的を学ぶ。					数式を、公式の暗記ではなく、式の成り立ち、算 出結果は何を示すかを理解する復習。（2時間程 度）				
3	特に罹患をもたらす要因（曝露）の効果・危険の程 度を示す指標について。					式の構造、結果の意味をよく理解するための復 習。当日中に行う。（1時間程度）				
4	疫学調査法の概要。対象集団の選定、調査のデザイ ン（コホート・症例対照研究等）。					異なる調査方法の特徴を、理解して、自分の言葉 で理解し表現する復習。（1時間程度）				
5	誤差の種類、要因、防止方法。交絡、年齢調整。					多くの用語の個別の意味、使い分けを、理解した うえで自分の言葉に直す復習する。（1時間程度）				
6	スクリーニング法。目的。集団の性質の把握する必 要性、予防における意義、個人への還元の意味。					集団の調査の目的と、裏付けとなる原理を理解し て、自分の言葉で記録する復習。（1時間程度）				
7	スクリーニング結果を示す数値、特に陽性、陰性の 精度。					各数値が何を意味し、何に利用するのかを理解し て、他人に説明できる言葉にする。（1時間程度）				
8	スクリーニングの結果の評価、最適な方法の決定 法。疫学の実績例の紹介。					第8回の授業内容を確実に理解し、自分の言葉での 説明を作る。上記全過程の内容を総復習する。（1 時間程度）				
教科書	使用しない									
参考文献	『シンプル衛生公衆衛生学』小山洋他、南江堂 『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、アイ・ケイコーポレーション									
備考	授業内課題は、次の授業で評価、添削し返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc03				
			●		●					
科目名	保健情報論				単位認定者	真覚 健 中塚 晴夫		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
		＊保健師選択制 必修				授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義		授業回数		15 回	
授業の概要	根拠に基づく看護を実践するため、患者や地域のデータを集め整理し、統計学的に分析して、根拠にできる資料作成の立案から結論に至るまでを修得する。さらに、社会の状況を掴む能力を得るため、人口統計、主要な健康指標、保健統計調査について理解し、健康に関する統計情報を正しく読み取り、活用するための知識を学修する。									
到達目標	1. 健康に関するデータを収集し、統計的に処理・分析して、判断の根拠とできる。 2. 健康に関する統計情報を正しく読み取り、公衆衛生活動に活用できる。 3. 人口統計、健康指標、保健統計調査結果の意味を理解し、理解・説明・活用できる。									
学修者への期待等	“数”を扱うことになるが、苦手意識を持たずに取り組んでください。 事前学修として教科書・資料を熟読して授業に参加してください。 事後学修として授業で学修した内容について当日中に復習をして身につけてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	データ・情報の種類と性質および処理方法				当日中に復習し、自分の言葉で書き留める。（1時間程度）				中塚 晴夫	
2	調査の企画立案				調査票作成方法の資料を配布するので、熟読する。（1時間程度）				中塚 晴夫	
3	調査票の作成・実施方法				講義内容を上の資料と照合し、理解しノートを整理。（1時間程度）				中塚 晴夫	
4	数値データの集計法				多数の項目を、記憶が明確なうちに自分の言葉に直す。（1時間程度）				中塚 晴夫	
5	文字データ、自由回答項目の集計法				内容を自分の言葉にする努力をする。（1時間程度）				中塚 晴夫	
6	多次元（クロス）集計法				内容が複雑なので、自分の言葉にする復習をする。（1時間程度）				中塚 晴夫	
7	結果の表示法、数値、比率、比率の標準化				講義後すぐに内容を復習して、自分の言葉で書き留める。（1時間程度）				中塚 晴夫	
8	結果の表示法、数表とグラフの使い方				当日中に内容を理解し、自分の言葉で書き留める。（1時間程度）				中塚 晴夫	
9	健康に関する統計解析の理解				1～8回までの内容について理解しておくこと。（1時間程度）				真覚 健	
10	データの一次集計の理解				ペア学修を行うので、配布資料について熟読すること（1時間程度）。				真覚 健	
11	データによる推測				ペア学修を行うので、配布資料について熟読すること。（1時間程度）				真覚 健	
12	データの二次集計の理解① （パラメトリック検定）				授業内で例題を解くので、配付資料を熟読すること。（1時間程度）				真覚 健	
13	データの二次集計の理解② （ノンパラメトリック検定）				授業内で例題を解くので、配付資料を熟読すること。（1時間程度）				真覚 健	
14	多変量データの統計解析による結果の理解				ペア学修を行うので、配布資料について熟読すること。（1時間程度）				真覚 健	
15	保健情報論まとめ				1～14回までの内容の理解について確認しておくこと。（2時間程度）				真覚 健	
教科書	使用しない									
参考文献	『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、アイ・ケイコーポレーション 『国民衛生の動向2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は、毎回のレスポンスシートへの回答により評価し、適宜フィードバックする。 （中塚担当分20%、真覚担当分20%）									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

						科目ナンバリング				
						NSFc04				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
		●	●		●					
科目名	保健医療福祉行政論				単位認定者	末永 カツ子		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	保健・医療・介護・福祉施策の企画及び評価について、人々の生活を支える保健医療福祉サービスの 変遷、保健医療福祉制度の概要を学ぶ。また、人々の健康に影響する社会問題を解決するために、健康 と生活環境との関連に係る疫学調査等の知見に基づき、政策を形成する過程について学修する。									
到達目標	1. 保健・医療・介護・福祉に関連する主要な制度と規制法について説明できる。 2. 保健医療福祉における行政・財政のしくみの概要について説明できる。 3. 保健医療福祉制度・政策が形成される基本的なプロセスを説明できる。									
学修者への 期待等	・看護の視点や問題意識を持って、保健・医療・介護・福祉制度の全体像を理解する。 ・地域の健康課題に取り組む保健医療福祉専門職の実践事例から看護職の役割を理解する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	保健医療福祉行政の歴史と変遷				教科書p19-55を読む。(30分)			末永 カツ子		
2	保健医療福祉行政の法的基盤としくみ				教科書p2-18.72-75を読む。(30分)			末永 カツ子		
3	社会保障制度の理念としくみ				教科書p75-80を読む。(30分)			末永 カツ子		
4	医療制度（診療報酬制度）の概要と実際				教科書p56-63を読む。(30分)			佐藤 英仁		
5	医療保険制度の概要と実際				教科書p56-63を読み、授業資料を予 習する。(30分)			佐藤 英仁		
6	介護保険制度のしくみと課題				教科書p63-71を読み、授業資料を予 習する。(30分)			佐藤 英仁		
7	公共性の高い医療と行政機関の責任				授業資料を予習する。(30分)			佐藤 英仁		
8	地域保健と社会福祉制度の概要				教科書p81-91を読む。(30分)			末永 カツ子		
9	保健医療福祉の計画のプロセス・実施・評価				教科書p93-105を読む。(30分)			末永 カツ子		
10	保健医療福祉政策形成のプロセスと方法				教科書p140-195を読む。(30分)			末永 カツ子		
11	さまざまな指標でみる医療・福祉の現状と課題				授業資料を予習する。(30分)			佐藤 英仁		
12	保健医療福祉行政の専門職に期待される役割と課題				授業資料を予習する。(30分)			佐藤 英仁		
13	保健・医療・福祉の関係者と地域住民との連携				授業資料を予習する。(30分)			佐藤 英仁		
14	保健医療福祉行政における個別支援の事例検討				教科書p218-228を読む。(30分)			末永 カツ子		
15	保健医療福祉行政における施策化の事例検討				教科書p241-269を読む。(30分)			末永 カツ子		
教科書	『これからの保健医療福祉行政論 法・制度としくみ／施策化・政策形成／地域づくり』 星旦二他編、日本看護協会出版会									
参考文献	『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障[3] 社会保障・社会福祉』 福田素生著、医学書院									
備考	講義では、グループ・ペアワークやプレゼンテーション、クイズや小テスト等を取り入れる。 事例検討では、講義内容の理解を深めるために保健医療福祉の現場で活動している専門職(GS)による講 義を行う。 授業評価は、授業内課題を提示し（小テスト50%、授業後の感想50%）、その結果で評価する。 授業内課題は適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc05				
		●	●		●					
科目名	チームアプローチ入門				単位認定者	高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	各種医療専門職の協働により患者中心の医療を提供する、チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割、職種間の相互理解の必要性などを学ぶ。特に、看護師、理学療法士、作業療法士の業務や役割と、チーム医療の重要性についての理解を深める。患者中心の医療提供のための、多職種連携の実践につながる基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. チーム医療とは何かを説明できる 2. チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる 3. 自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する									
学修者への期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	チーム医療・患者中心の医療とは				チーム医療について事前に調べてくること（30分）				外里 富佐江	
2	チーム医療におけるコミュニケーション				事前資料を学修してくること（30分）				外里 富佐江	
3	理学療法士の役割・専門性について				理学療法士の資格取得者数、就職先、業務等について整理する（30分）				金谷 さとみ	
4	作業療法士の役割・専門性について				事前資料を学修してくること（30分）				外里 富佐江	
5	看護師の役割・専門性について				教科書3章A～Fについて予習する（30分）				高橋 由美	
6	チーム医療の実際①：看護師からの視点				【事後】授業を復習して理解を深める（30分）学修カード提出（授業後感想）				高橋 由美	
7	チーム医療の実際②：理学療法士からの視点				医療・介護場面における理学療法士の役割について調べる（30分）				金谷 さとみ	
8	チーム医療の実際③：作業療法士からの視点				事前資料を学修してくること（30分）				外里 富佐江	
9	チーム医療の実際④：病院				病院におけるチーム医療（NST、RST等）の種類を予め調べておく（30分）				金谷 さとみ	
10	チーム医療の実際⑤：在宅、地域医療				事前資料を学修してくること（30分）				外里 富佐江	
11	事例検討 [1] 事例提示				これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む（30分）				高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江	
12	事例検討 [2] グループワーク								高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江	
13	事例検討 [3] 発表準備								高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江	
14	事例検討 [4] 発表1								高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江	
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ				【事後】グループワーク・発表からの学びについてレポート提出				高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江	
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂									
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベーシック コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版									
備考	・授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 ・第1～4回、第7～10回は長町キャンパス、第5、6回、第11～15回は五橋キャンパスで実施する予定です。 ・本科目はリハビリテーション学科と合同で実施します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSMb01				
	●		●							
科目名	地域・在宅看護学概論Ⅰ				単位 認定者	小林 淳子		評価の 方法	試験（筆記）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	60 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	地域看護活動の理念、目的と地域アセスメントについて学び、地域の特性と健康との関連、地域で生活する人々と家族の健康について理解を深める。地域住民の健康を支える保健医療福祉の主要な法制度及び看護が提供される多様な場における地域看護活動について学び、地域・在宅看護学の基盤となる基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 地域看護活動の理念・目的を説明できる。 2. 地域の特性と健康との関連、地域で生活する個人と家族の健康について説明できる。 3. 地域住民の健康に関する主要な法と制度について説明できる。 4. 地域における多様な場の特性に応じた看護について説明できる。									
学修者への期待等	本科目は、人々の健康と看護職の役割について、地域における暮らしと社会とのつながりの中で理解することが求められます。そのため、自分自身の生活や社会情勢の変化、関連する諸制度等に関心を持つよう期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	地域看護活動の理念・目的・倫理					教科書第2章1・2、第3章3を読み地域・在宅看護の目的・対象・背景、地域・在宅看護の倫理について予習する。（約30分）				
2	地域アセスメントのモデル 地域の特性と健康との関連					教科書第1章1・2・3を読み地域における生活・健康並びに地域アセスメントについて予習する。（約30分）				
3	地域で生活する個人と家族の健康					教科書第4章を読み地域・在宅看護における対象者と家族への看護について予習する。（約30分）				
4	地域保健に関わる法と制度					教科書第7章1・2・4・5・7・8を読み地域・在宅看護に関わる制度と活用について予習する。（約30分）				
5	地域住民の権利保障に関わる法と制度					教科書第4章3・6・9・10を読み地域・在宅看護における権利保障に関する制度について予習する。（約30分）				
6	地域の多様な場における看護活動①（行政）					教科書第2章3、第3章4を読み地域・在宅看護における活動の場と多職種連携について予習する。（約30分）				
7	地域の多様な場における看護活動②（産業、学校、在宅）					教科書第5章を読み地域・在宅看護における活動の場と多職種連携について予習する。（約30分）				
8	まとめ 地域看護学、在宅看護学と地域・在宅看護学					教科書第3章1、第9章を読み第7回までの授業内容を復習し地域・在宅看護の意義を考察する。（約30分）				
教科書	『ナースィング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版									
参考文献	『系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1』川原加代子他著、医学書院									
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、適宜フィードバックする。 第2回の地域アセスメントはグループワークにより学ぶ。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師として自治体での地域看護活動の実務経験を活かし、学生が地域療養を支える看護について理解を深めらるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb02				
	●	●	●							
科目名	地域・在宅看護学概論Ⅱ				単位 認定者	高橋 由美		評価の方法	試験（筆記）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	60 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	在宅療養を支える看護と、多職種との協働における看護の役割を学ぶ。在宅療養者と家族の様々なケアニーズに対応するため、家族を単位として地域での療養を支える看護の目的、役割・機能、倫理的視点、保健医療福祉等の主要な法制度など、地域・在宅看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 在宅療養を支える看護の目的、対象、役割・機能を説明できる 2. 在宅療養を支える看護の基本となる理念、倫理的視点を理解できる 3. 地域で療養する様々な対象のケアニーズや必要な看護について理解できる 4. 在宅看護における家族看護の必要性や役割について理解できる 5. 在宅療養を支える諸制度や社会資源について理解し、多職種との協働における看護の役割を説明できる 6. 在宅看護における地域アセスメントの必要性について説明できる									
学修者への期待等	地域・在宅看護学概論Ⅰに引き続き、在宅療養を支える看護活動の基礎的知識を学びます。さらに、地域・在宅看護学実習Ⅰに関連する科目になりますので、十分に準備学修を行い、主体的に臨みましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	在宅療養を支える看護 ①目的・役割機能・基本理念					【事前】教科書第3章1. 2. 3について 予習する（30分） 【事後】学修カードに学びをまとめ提出する				
2	在宅療養を支える看護 ②あらゆる背景を持つ様々な対象のニーズ					【事前】教科書第4章1. 2について 予習する（30分） 【事後】学修カードに学びをまとめ提出する				
3	在宅療養を支える看護 ③家族支援					【事前】教科書第4章3. 4について 予習する（30分） 【事後】学修カードに学びをまとめ提出する				
4	在宅療養を支える諸制度と社会資源 ～地域包括ケアシステムにおける多職種連携と地域共生社会～					【事前】概論Ⅰ4・5回目授業内容を 復習する（30分） 【事後】学修カードに学びをまとめ提出する				
5	在宅看護に必要な地域アセスメント ①対象の地域生活を把握する「地区視診」の概要					【事前】概論Ⅰ2回目授業内容を 復習する（30分） 地域アセスメントはフィールドワークにより学ぶ 【事後】授業内課題レポートを提出する （1時間程度）				
6	在宅看護に必要な地域アセスメント ②「地区視診」の実際									
7	在宅看護に必要な地域アセスメント ③地域特性が対象の健康ニーズに与える影響									
8	これからの地域・在宅看護の展望					【事前】7回目までの授業内容を復習する（30分） 【事後】学修カードに学びをまとめ提出する				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版									
参考文献	『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス									
備考	授業内課題は、課題レポート（40％）学修カード（20％）により評価し、適宜フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師として、地域・在宅看護（訪問看護・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、具体例を提示しながら学生の理解を深められるような授業を展開する。

						科目ナンバリング	
						NSMc02	
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力		
			●		●		
科目名	成人看護学援助論				単位 認定者	佐藤 富美子	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位
						授業時間数	30 時間
				授業形態	講義	授業回数	15 回
						評価の方法	
授業の概要	慢性的な健康障害を持つ人の看護、急性期・生命危機状態にある人の看護について理解を深める。呼吸機能等の障害により生活習慣の調整が必要な人、体液・電解質等のコントロールを必要とする人の看護、がん患者の看護について学ぶ。また、高度集中治療と倫理、手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護について学び、成人期の健康課題を有する人を援助するために必要な基礎的知識を学修する。						
到達目標	1. 呼吸機能等の障害により生活習慣の調整が必要な人の看護について説明できる。 2. 体液・電解質等のコントロールを必要とする人の看護について説明できる。 3. がん患者の看護について説明できる。 4. 急性期・生命危機状態にある人の看護について説明できる。 5. 手術療法によって身体の機能・形態に変化が生じた人の看護について説明できる。						
学修者への期待等	関連科目である既習の専門基礎科目「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「看護学概論」、「成人看護学概論」および毎回の授業テーマについて教科書で予習し、授業に臨むこと。グループワーク前の課題にはしっかり取り組み、自分の考えを積極的に発言すること。授業後には、授業であげたトピックに関する文献を検索、読み込んで理解を深めること。						
回	授業計画				準備学修		
1	慢性的な健康障害をもつ人の看護 呼吸機能障害により生活習慣の調整が必要な人の看護				教科書①第6章、第9章を予習すること(1時間30分)		
2	体液・電解質のコントロールを必要とする人の看護				教科書①第19章を予習すること(1時間)		
3	血圧のコントロールを必要とする人の看護 循環機能障害により生活習慣の調整が必要な人の看護				教科書①第10章を予習すること(1時間30分)		
4	血糖のコントロールを必要とする人の看護 体重のコントロールが必要とする人の看護				教科書①第13章を予習すること(1時間)		
5	肝機能障害により生活習慣の調整が必要な人の看護 感染により生活習慣の調整が必要な人の看護				教科書①第12章、第8章を予習すること(1時間30分)		
6	がん患者の看護　がん化学療法を受ける患者の看護				教科書①第7章を予習すること(1時間)		
7	がん放射線療法を受ける患者の看護 ケアとしての代替療法(リラクセーション演習含む)				教科書①第7章を予習すること(1時間)		
8	急性期・生命危機状態にある人の特徴と看護の役割 高度集中治療と倫理				教科書①第4章を予習すること(1時間)		
9	生命危機状態にある人の看護				教科書①第4章を予習すること(1時間)		
10	意識障害・循環障害・呼吸障害・栄養障害がある人の看護				教科書①第4章を予習すること(1時間)		
11	紙上事例検討　グループワーク　急性心筋梗塞事例 くも膜下出血事例				各事例のアセスメント、看護についてレポートし、　グループワークの準備をすること(3時間)		
12	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護　呼吸機能障害・コミュニケーション障害				教科書③第1章、第5章を予習すること(1時間)		
13	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護　ボディイメージの変化				教科書③第5章を予習すること(1時間)		
14	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護　栄養摂取・消化吸収障害				教科書③第3章を予習すること(1時間)		
15	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護　運動機能障害、性機能障害				教科書①第18章、第20章を予習すること(1時間)		
教科書	①『成人看護学』黒田裕子編、医学書院 ②『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 ③『系統看護講座 別巻 臨床外科看護各論』北島政樹他編、医学書院						
参考文献	授業内で随時紹介する						
備考	授業内課題は生命危機状態にある患者の2事例のアセスメントおよび看護についてレポートで評価し、各自にコメントしてフィードバックする。授業に関する質問は主にミニットペーパーで確認し、次回授業内でフィードバックする。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMc03				
			●		●					
科目名	成人看護学援助方法				単位認定者	阿部 春美 岡崎 優子		評価の方法	試験（筆記）	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	70 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	成人看護学援助論の学修を踏まえ、本科目では急性期に必要な医療機器を装着している人の看護、主要病態に対する応急処置と看護技術、自己検脈、血糖自己測定、ペースメーカーの管理、透析内シャントの管理、インスリン自己注射手技等のセルフケアを促進する技術について、演習を通して学ぶ。成人期の健康課題を有する人を援助する基礎的な実践能力を身につける。									
到達目標	1. 急性期に必要な医療機器を装着している人の看護が説明できる 2. 周術期に必要な看護技術について実践できる 3. 救急・集中治療時に必要な看護技術について実践できる 4. 急性疾患を持つ患者の看護過程展開ができる 5. 慢性疾患を有する患者のセルフモニタリング技術について理解し、実践できる 6. 慢性疾患を有する患者のセルフケア技術について理解し、実践できる 7. 慢性疾患を持つ患者の看護過程展開ができる 8. 病態に合わせた患者指導・退院指導の指導過程を理解し、事例による患者指導が実践できる									
学修者への期待等	成人看護学援助方法は看護を実践する力、看護問題を適切に解決する力を目標としており、関連科目の学びを積み重ねた学修が必要となります。シュミレータや看護モデルを有効に活用し、主体的に学修しましょう。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	急性期に必要な医療機器を装着している人の看護					【事後】授業後学び（30分）			阿部 春美	
2	周術期の看護技術① 術後患者の観察・アセスメント					A・B・Cの3グループに分け実施 【事前】課題レポート 周手術期看護論「第2・4・5回」の授業を復習、教科書②第Ⅳ章を予習して臨む（90分） 【事後】課題レポート（30分）			阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ	
3	周術期の看護技術② 創管理、ドレーン管理					【事前】小テスト 基礎看護技術Ⅳ「第8・10回」の授業を復習、教科書①第Ⅰ章3.D.創管理、E.ドレーン管理を予習して臨む（1時間） 【事後】小テストの復習（30分）				
4	周術期の看護技術③ 身体保清と寝衣交換					【事前】教科書②第2部 第Ⅳ章 11. 日常生活の援助と心理的援助の予習（30分） 【事後】課題レポート（30分）				
5	周術期の看護技術④ 早期離床、離床促進のための配慮					A・Bの2グループに分け実施 【事前】課題レポート 教科書①第Ⅱ章3術後の看護技術Gを予習して臨む（1時間） 【事後】課題レポート（1時間）				
6	周術期の看護技術⑤ ストーマケア、リンパ浮腫のケア					【事前】小テスト 病態治療学Ⅲ「第3回」の授業を復習、教科書①第Ⅰ章3.F.排泄ケア、I.リンパ浮腫のケアを予習して臨む（1時間） 【事後】小テストの復習（30分）				
7	救急・集中治療時の看護技術① 心肺蘇生法					【事前】教科書③Ⅸ章、（救命救急処置）教科書①Ⅲ章の1.2（BLS, ALS）を予習する。ナースィングスキル心肺蘇生を視聴する。トレーニングボトルで胸骨圧迫を練習する（1時間） 【事後】課題レポート（30分）				
8	救急・集中治療時の看護技術② 気管吸引、止血・異物除去法、熱中症の対応					【事前】教科書③第2部 第ⅩⅦ章 8. 体温異常, 9. 外傷の予習（30分） 【事後】課題レポート（30分）				
9	急性期疾患を持つ患者の看護展開① ガイダンス					【事前】看護過程論、看護過程展開方法の授業の復習をして臨むこと 【事後】事例の病態・治療を記入（1時間）				
10	急性期疾患を持つ患者の看護展開② アセスメント					【事前】看護歴を記載（1時間） 【事後】看護歴を完成（1時間）				
11	急性期疾患を持つ患者の看護展開③ 全体像					【事前】全体像を記載（1時間） 【事後】全体像を完成（1時間）				

回	授業計画	準備学修	担当
12	急性期疾患を持つ患者の看護展開④ 看護診断	【事前】看護問題を記載（1時間） 【事後】看護問題リストを完成（1時間）	阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ
13	急性期疾患を持つ患者の看護展開⑤ 看護計画	【事前】看護計画を記載（1時間） 【事後】看護計画を完成（1時間）	
14	慢性疾患を持つ患者のセルフモニタリング技術① 自己検脈、自己血圧測定、ピークフローモニタリング	【事前】教科書①IV章1（患者教育が必要なセルフモニタリング技術）、教科書④IV章3（ペースメーカーを装着している患者の援助）を予習する（30分） 【事後】課題レポート（30分）	
15	慢性疾患を持つ患者のセルフモニタリング技術② 血糖自己測定	【事後】授業後学び（30分）	
16	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術① 呼吸・排痰法、吸入・在宅酸素療法（HOT）	【事前】小テスト 教科書①第IV章2-1.呼吸管理に関する技術を予習して臨む（1時間） 【事後】小テストの復習（30分）	
17	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術② ペースメーカー植え込み術後の管理	【事前】教科書①第I章1-2.循環機能検査の予習（30分） 【事後】課題レポート（30分）	
18	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術③ 透析内シャント管理、腹膜透析	【事前】病態治療学Ⅲ「泌尿・生殖器」、周術期看護論を復習（30分） 【事後】課題レポート作成（30分）	
19	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術④ インスリン自己注射	【事後】授業後学び（30分）	
20	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術⑤ フットケア	【事後】授業後学び（30分）	
21	慢性疾患を持つ患者の看護展開① アセスメント	【事前】看護歴を記載（1時間） 【事後】看護歴を完成（1時間）	
22	慢性疾患を持つ患者の看護展開② 全体像	【事前】全体像を記載（1時間） 【事後】全体像を完成（1時間）	
23	慢性疾患を持つ患者の看護展開③ 看護診断	【事前】看護問題を記載（1時間） 【事後】看護問題リストを完成（1時間）	
24	慢性疾患を持つ患者の看護展開④ 看護計画	【事前】看護計画を記載（1時間） 【事後】看護計画を完成（1時間）	
25	病態に合わせた患者指導・退院指導の指導過程	【事後】授業後学び（30分）	岡崎 優子
26	事例にみる患者指導の実際① 病態から見た看護の必要性	【事後】授業後学び（30分）	阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ
27	事例にみる患者指導の実際② 指導計画	【事前・事後】指導計画の具体的な方法について検討する	
28	事例にみる患者指導の実際③ グループワーク	【事前・事後】指導計画の具体的な方法について検討する	
29	事例にみる患者指導の実際④ 患者指導発表準備	【事前】発表準備	
30	事例にみる患者指導の実際⑤ 患者指導の発表	【事後】授業後学び（30分）	
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂 ②『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護』林直子他編、南江堂 ③『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱクリティカルケア』佐藤まゆみ他編、南江堂 ④『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護』鈴木久美他編、南江堂 ⑤『看護データブック』神田清子他編、医学書院		
参考文献			
備考	・授業内課題は次回の授業時またはUNIPA上でフィードバックします。 ・授業内課題は、レポート課題（60％）、授業後学び（10％）で評価します。 ・第1回・3回・6回・9回・25回・26回は、講義形式で行います。 ・第3回・6回・16回は、反転授業を行います。 ・第10～13回・21～24回・27回は、反転授業およびディスカッションを行います。 ・第2回・5回・15～20回は、実技・シミュレーションを行います。 ・第4回・5回・14回は、実技を行います。 ・第2回、5回、7回、8回、14回～19回は上記の担当教員に加え、以下の教員が担当します。 小倉真紀、非常勤助手：大石慶子、松田郷子		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						NSMd01				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●		●							
科目名	老年看護学概論				単位 認定者	齋藤 美華		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	人生100年時代を迎えつつある現代、高齢者は地域や社会の中で多様な価値観を持ち、一人一人異なるライフスタイルで生活している。本科目では、高齢者の生活と加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、保健・医療・福祉制度、老年看護の変遷について学修する。さらに、老年看護の特徴と倫理、関係法規など老年看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化を説明できる 2. 老いの意味と老年期の多様性を理解し、高齢者に関心を持つことができる 3. 高齢者の様々な社会的な問題について多角的に捉え、支援の在り方を考察できる 4. 老年看護に関する保健医療福祉制度に関わる関係法規を説明できる 5. 老年看護の特徴と倫理、健康的な生活を支える看護の役割を説明できる									
学修者への期待等	既習の解剖生理学を復習確認して臨んでください。また、高齢者の理解を深めるために身近な高齢者へのライフヒストリーインタビューを実施し、グループワークを行います。積極的に発表してください。									
回	授業計画					準備学修				
1	高齢者の理解－老年期の発達・変化、高齢者人口の推移、健康の指標					【事前】既習の解剖生理学を復習確認して臨む（30分程度） 【事後】ライフヒストリーインタビューの実施（30分程度）				
2	高齢者の理解－生活の視点、エンド・オブ・ライフの視点、生活質保障、家族					【事前】第1回講義資料の復習（30分程度） 【事後】ライフヒストリーインタビューの実施（30分程度）				
3	加齢に伴う身体機能の生理的变化					【事前】既習の解剖生理学を復習確認して臨む（30分程度） 第2回講義資料の30分間の復習（30分程度）				
4	加齢に伴う認知機能、精神的・社会的機能変化					【事前】第3回講義資料の復習（30分程度） 【事後】ライフヒストリーインタビューの実施（30分程度）				
5	高齢者の健康と生活					【事前】第4回講義資料の復習（30分程度） 【事後】ライフヒストリーインタビューレポート作成（30分程度）				
6	高齢者を支える保健・医療・福祉の制度と変遷					【事前】第5回講義資料の復習（30分程度） 【事後】ライフヒストリーインタビューレポート作成（30分程度）				
7	老年看護の倫理					【事前】第6回講義資料の復習（30分程度） 【事後】ライフヒストリーグループワーク資料確認（30分程度）				
8	老年看護の特徴					【事前】ライフヒストリーグループワーク資料確認（30分程度） 【事後】グループワーク後の学びの提出				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①：高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版 『国民衛生の動向2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
参考文献	『高齢社会白書』内閣府編、内閣府									
備考	第8回は演習形式（グループワーク）で授業を行う。 授業内課題はライフヒストリーインタビューを実施してのレポート（30%）、グループワーク後の学び（10%）で評価し、授業内で適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMd02				
			●		●					
科目名	老年看護学援助論				単位認定者	齋藤 美華 桑田 恵美子		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	加齢に伴う変化と生活機能への影響を踏まえ、住み慣れた地域で、高齢者が生き生きと生活するための援助方法を学修する。高齢者の生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、さらに受療状況に応じた看護を学ぶ。高齢者に提供する多様な生活支援・介護予防サービスや看護と介護の協働、多職種連携等の老年看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 高齢者の生活機能の評価と健康維持と介護予防について説明できる。 2. 高齢者の加齢に伴う変化とそれに伴う生活機能への影響について説明できる。 3. 高齢者の健康段階に応じた看護を説明できる。 4. 多様な生活の場における高齢者の健康を支える看護について説明できる。 5. 認知症について理解を深め、当事者、家族をサポートするための看護師の役割について説明できる。									
学修者への期待等	・老年看護に関する既習の知識を確認して臨んでください。事前に教科書を読んでくること。 ・老年期の看護過程の展開を通して高齢な対象の健康問題を査定し看護計画立案に必要な基礎的知識を身につけることを期待します。特にアセスメント能力はしっかり身につけましょう。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	高齢者の生活―生活機能と評価と高齢者の健康生活の維持と支援					【事前】老年看護学概論の講義の復習 【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
2	高齢者の健康段階に応じた看護―健康維持・増進と介護予防					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
3	高齢者の健康段階に応じた看護―受療状況に応じた看護					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
4	高齢者の健康段階に応じた看護―急性期、回復期					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
5	高齢者の健康段階に応じた看護―慢性期、薬物療法					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
6	高齢者の健康段階に応じた看護―End-of-life Care					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
7	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護―在宅・介護保険施設・多職種連携 等					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			桑田 恵美子	
8	地域で暮らす高齢者の生活を支援する地域包括支援センターの役割					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			桑田 恵美子	
9	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援―認知症当事者と家族、認知症当事者と家族の会から学ぶ―					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
10	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援方法					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
11	高齢者の生活機能を整える看護援助の意義―高齢者のもてる力をアセスメントする視点 健康と生活への影響					【事後】講義後の学びの提出（15分程度）			齋藤 美華	
12	老年期の看護過程―分析（問題の原因・援助の必要性・解決の方向性）					【事後】課題事例を読み、自己学習する（2時間程度）			桑田 恵美子	
13	生活機能障害のある高齢者の看護―老年期の看護過程-事例のアセスメント					【事前】課題事例を読み、アセスメントする（2時間程度） 【事後】グループワークで得た学びをもとに加筆・修正する（1時間程度）			桑田 恵美子	
14	生活機能障害のある高齢者の看護―看護問題の抽出					【事前】看護問題の抽出をする（2時間程度） 【事後】グループワークで得た学びをもとに加筆・修正する（1時間程度）			桑田 恵美子	
15	生活機能障害のある高齢者の看護―老年期の看護過程の視点-看護計画の立案・まとめ					【事前】看護問題の優先度、短期目標の設定をする（2時間程度） 【事後】グループワークで得た学びをもとに看護計画の立案する（2時間程度）			桑田 恵美子	
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①：高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版 『国民衛生の動向2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
参考文献	『高齢社会白書』内閣府編、内閣府									
備考	・授業内課題は、授業後の学び(10%)、看護過程の完成度(30%)で評価する。 ・授業内課題は次回の授業でフィードバックする。 ・第8回はゲストスピーカー（高橋秀仁先生）を招き、講義を展開する。 ・第13、14、15回はグループワーク形式で授業を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMd03				
			●		●					
科目名	老年看護学援助方法				単位認定者	桑田 恵美子 菅原 尚美		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	高齢者に特有な症状・疾患・障害として、廃用症候群・脱水症、低栄養・フレイル、転倒・転落、せん妄等がある。本科目では老年看護学援助論の学修を踏まえ、これらの高齢者特有の症状等に応じた看護の方法を学修する。事例や状況設定等の演習を通して老年看護の基礎的な実践能力を身につける。									
到達目標	1. 高齢者に特有な症状・疾患・障害（廃用症候群・脱水症、低栄養・フレイル、転倒・転落、せん妄等）の病態と要因、日常生活への影響、アセスメント、看護について説明できる。 2. 演習により生活機能障害のある高齢者の強みを活用した支援方法を実施し看護師の役割を説明できる。									
学修者への期待等	高齢者の看護において、高齢者に特有な症状・疾患・障害が生活にどのように影響しているか理解して支援することは重要である。高齢者自身の強みを活用した支援や、高齢者がセルフケア能力を取り戻すための支援について学修していきましょう。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	授業ガイダンス／ 高齢者の生活機能を整える看護援助の意義				【事前】「老年看護学援助論」の講義資料を復習してくること（1時間程度）				齋藤 美華	
2	高齢者の食生活を支える看護 ：食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養、フレイル				【事後】小テスト（15分程度）				桑田 恵美子	
3	摂食嚥下障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション				【事前】課題事例を読み、摂食嚥下障害のある高齢者の自己学習（2時間） 【事後】グループワークで得た学びをもとに加筆・修正、提出（1時間程度）				齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美	
4	高齢者の排泄を支える看護 ：排泄、尿失禁、排便障害（便秘・下痢・便失禁）				【事後】小テスト（15分程度）				桑田 恵美子	
5	排便障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション				【事前】課題事例を読み、排便障害のある高齢者の自己学習（2時間程度） 【事後】グループワークで得た学びをもとに加筆・修正、提出（1時間程度）				齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美	
6	高齢者の清潔・衣生活を支える看護 ：掻痒、痛み・しびれ、感染症				【事後】小テスト（15分程度）				桑田 恵美子	
7	皮膚掻痒感のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション				【事前】課題事例を読み、皮膚掻痒感のある高齢者の自己学習（2時間程度） 【事後】グループワークで得た学びをもとに加筆・修正、提出（1時間程度）				齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美	
8	高齢者の活動と休息を支える看護 ：活動と休息、視覚・聴覚の障害、睡眠障害、せん妄				【事後】小テスト（15分程度）				桑田 恵美子	
9	視覚・聴覚障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション				【事前】課題事例を読み、視覚・聴覚障害のある高齢者の自己学習（2時間程度） 【事後】グループワークで得た学びをもとに加筆・修正、提出（1時間程度）				齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美	
10	高齢者の歩行・移動を支える看護 ：歩行・移動、骨粗鬆症、廃用症候群、転倒・転落				【事前】教科書「第1部 [5] 歩行・移動を支える看護」を予習する（1時間程度） 【事後】小テストを行う（10分程度）				菅原 尚美	
11	歩行・移動に障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション				【事前】グループワークの準備をする（1時間程度） 【事後】レポート課題を提出する（30分程度）				齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美	

回	授業計画	準備学修	担当
12	高齢者の呼吸・循環機能障害を支える看護 ：肺炎、COPD、高血圧	【事前】教科書「第2部〔9〕呼吸・循環機能障害と看護－肺炎・COPD・高血圧－」を予習する（1時間程度） 【事後】小テストを行う（10分程度）	菅原 尚美
13	高齢者の呼吸・循環機能障害を支える看護 ：脳卒中、不整脈、心不全	【事前】教科書「第2部〔9〕呼吸・循環機能障害と看護－脳卒中、不整脈、心不全－」を予習する（1時間程度） 【事後】小テストを行う（10分程度）	菅原 尚美
14	生活機能障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション	【事前】グループワークの準備をする（2時間程度）	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
15	生活機能障害のある高齢者の看護の実際 グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション	【事前】プレゼンテーションの準備をする（2時間程度） 【事後】レポート課題を提出する（30分程度）	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
教科書	『ナースিং・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナースিং・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版		
参考文献	『看護学テキストNiCE 老年看護学技術』正木治恵他編、南江堂 『手技と事例で学ぶ 実践！高齢者のフィジカルアセスメントー老化を理解して、異常を見逃さない！』角濱春美著、メディカ出版 『カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術』大塚真理子著、医歯薬出版		
備考	・第1、2、4、6、8、10、12、13回の授業は講義形式で行う。 ・授業内課題は、小テスト（10％）、レポート課題（40％）で評価する。 ・授業内課題の小テスト、レポート課題については次回授業時にフィードバックする。 ・第3、5、7、9、11、14、15回の授業はA・Bクラスに分けて授業をする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング NSMe01				
	●		●							
科目名	小児看護学概論				単位 認定者	佐藤 幸子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	小児看護の特徴と課題、小児各期の発達段階の特徴について学修する。また、小児の健康と周囲の環境との関係性、子どもの権利条約、小児やその家族の人権擁護者としての倫理的判断・行動の根拠を学び、小児看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 小児看護の特徴と課題が説明できる 2. 小児各期の発達段階の特徴を説明できる 3. 小児の健康と環境との関連性について説明できる 4. 子どもの権利条約を基に、看護者としての倫理的判断や行動について説明できる									
学修者への期待等	小児看護学の目的論および対象論を学ぶ科目です。小児看護学援助論や小児看護学援助方法を学ぶ際に必要となる基礎的な知識となります。事前に教科書等を熟読して授業に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	小児看護学の理念と目標 (小児看護の対象である子どもと家族の特徴)					【事前】教科書[1] 総論 第1章A・B・Cを 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
2	小児看護の特徴と課題					【事前】教科書[1] 総論 第1章 Eを 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
3	子どもの権利擁護					【事前】教科書[1] 総論 第1章 Dを 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
4	子どもの成長と発達 乳児期にある子どもの成長発達の特徴					【事前】教科書[1] 総論 第2・3章を 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
5	幼児期にある子どもの成長発達の特徴					【事前】教科書[1] 総論 第4章 Aを 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
6	学童期にある子どもの成長発達の特徴					【事前】教科書[1] 総論 第4章 Bを 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
7	思春・青年期にある子どもの成長発達の特徴					【事前】教科書[1] 総論 第5章を 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
8	子どもを取り巻く社会と制度					【事前】教科書[1] 総論 第7章を 予習して臨む（30分以上） 【事後】UNIPAによる小テスト				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』 奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』 丸光恵著、医学書院									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 小児看護学①：小児の発達と看護』中野綾美他、メディカ出版									
備考	授業内課題は、小テスト（20%）、授業后感想（10%）で評価する。 小テストについては、次回授業時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師、保健師としての実務経験を活かし、小児の発達段階の特徴・看護との関連性について教授する。また、小児看護に関する看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMe02				
			●		●					
科目名	小児看護学援助論				単位認定者	武田 美奈子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、小児看護の実践に必要な知識を学修する。小児特有の疾患の病態・検査・治療に関する基礎的知識と、主な疾患についての基本的な看護を学修する。また、小児患者家族への理解を深めながら、小児患者を持つ家族への看護方法について学修する。									
到達目標	1. 子どもの代表的疾患について、病態・検査・治療が理解できる。 2. 1の知識を基に、子どもによくみられる症状や子どもの特徴に合わせた看護が説明できる。 3. 講義を基に小児特有の援助技術をモデル人形等を使って実施できる。									
学修者への期待等	この科目は小児看護学概論で修得した知識を基に、健康障がいを持つ子どもへの援助に必要な基礎的知識を学ぶ科目です。事前に教科書などを熟読して授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	小児科とは				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解し、小児医学の特徴を把握すること。（30分以上）			飯沼 一字		
2	先天異常・遺伝病 新生児疾患の病態・検査・治療				【事前】胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態を理解すること。（30分以上）			飯沼 一字		
3	免疫・アレルギー疾患の病態・検査・治療				【事前】基礎医学で学んだ免疫応答の仕組みを十分に理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
4	感染症の病態・検査・治療				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
5	呼吸器・循環器疾患の病態・検査・治療				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
6	消化器・内分泌疾患の病態・検査・治療				【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
7	血液・腫瘍疾患の病態・検査・治療				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
8	腎・泌尿器疾患の病態・検査・治療				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
9	神経・筋・運動器疾患の病態・検査・治療				【事前】中枢・末梢神経および筋に至る構造と機能を理解しておく。（30分以上）			飯沼 一字		
10	精神疾患・心身症・虐待の病態・検査・治療				【事前】こころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（30分以上）			飯沼 一字		
11	子どもによく見られる症状のアセスメントとケア①（呼吸・循環：発熱・呼吸困難・ショック・脱水）				【事前】教科書[1] 総論 第5章④⑥⑨⑬を予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子		
12	子どもによく見られる症状のアセスメントとケア②（食・排泄：嘔吐・下痢・便秘）				【事前】教科書[1] 総論 第5章⑩⑪⑫を予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子		
13	子どもによく見られる症状のアセスメントとケア③（神経・運動器：痙攣・痛み）				【事前】教科書[1] 総論 第5章③⑧を予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子		
14	子どものフィジカルアセスメント（バイタルサイン測定・身体計測他）				【事前】教科書[1] 総論 第4章を予習して臨む（30分以上）			岡崎 草代夏		
15	検査・処置を受ける子どもの看護（与薬・輸液管理・抑制・検体採取他）				【事前】教科書[1] 総論 第6章を予習して臨む（30分以上）			岡崎 草代夏		
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』丸光恵著、医学書院									
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『写真でわかる小児看護技術アドバンス』山元恵子監、インターメディカ									
備考	授業内課題は、小テスト（20％）、授業後感想（10％）で評価します。 小テストについては、次回授業時にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMe03				
			●		●					
科目名	小児看護学援助方法				単位認定者	武田 美奈子 岡崎 草代夏		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	小児の健康障害の種類と段階に応じた援助方法を学修する。また、特殊な状況でのアセスメントの視点やブレパレーションの意義と目的について学ぶ。小児看護学援助論の学修を踏まえ、小児特有の援助技術の方法を学び、演習を通して小児看護の基礎的な実践能力を身につける。									
到達目標	1. 小児の健康障害の種類と段階に応じた経過、特殊な状況によって生じる問題を理解し、その援助方法が説明できる。 2. 知識を統合として事例をもとにアセスメントを行い、子どもとその家族に対しての看護が考えられる。									
学修者への期待等	この科目は看護を実践するための方法論を学ぶ科目です。小児看護学概論・小児看護学援助論の知識が関連してくるため、事前学習とともに復習も含め準備して臨んで下さい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	子どもの入院と看護、外来における看護					【事前】教科書[1] 総論 第1章・第2章 を予習して臨む（30分以上）			佐藤 幸子	
2	慢性期にある子どもとその家族への看護 （呼吸器、アレルギー、内分泌疾患、腎疾患のある子どもと家族の看護）					【事前】教科書[1] 総論 第3章 Aを予習して臨む（30分以上）			佐藤 幸子	
3	急性期にある子どもとその家族への看護 （肺炎、髄膜炎、急性腹症の子どもと家族の看護、一次救急含む）					【事前】教科書[1] 総論 第3章 Bを予習して臨む（30分以上）			佐藤 幸子	
4	周手術期にある子どもと家族の看護（総論）					【事前】教科書[1] 総論 第3章 Cを予習して臨む（30分以上）			岡崎 草代夏	
5	周手術期にある子どもと家族の看護 （先天性心疾患、消化器疾患、ヘルニアの子どもと家族の看護）					【事前】教科書[1] 総論 第3章 Cを予習して臨む（30分以上）			岡崎 草代夏	
6	終末期にある子どもと家族の看護 （小児がんの子どもと家族の看護）					【事前】教科書[1] 総論 第3章 Dを予習して臨む（30分以上）			岡崎 草代夏	
7	ハイリスク新生児と看護 （先天異常・遺伝病 新生児疾患の子どもと家族の看護）					【事前】教科書[2] 第1・2章 を予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子	
8	在宅における子どもと家族の看護 （神経筋疾患、染色体異常の子どもと家族の看護）					【事前】教科書[1] 総論 第2章 C、第7章を予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子	
9	子どもへの感染症と看護					【事前】教科書[2] 第6章を予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子	
10	災害を受けた子どものケア （ASD、PTSD等メンタルケアを含む）					【事前】教科書[1] 総論 第2章 Dを予習して臨む（30分以上）			武田 美奈子	
11	子どもへのブレパレーションの実施 （グループワーク・演習）					【事前】教科書[1] 動画一覧 M①を視聴して臨む（30分程度）			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
12	看護過程の展開① セルフケア理論の理解					【事前】1年次看護過程論で学習した内容を復習して臨む（30分以上）			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
13	看護過程の展開② 事例展開の方法					【事後】授業内課題に取り組む（90分以上）			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
14	看護過程の展開実技① 事例を使ってグループワーク （患児のアセスメント）					【事前】授業内課題に取り組む（90分以上）			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
15	看護過程の展開実技② グループワーク内容の発表 （患児のアセスメント） 看護過程の展開のまとめ					【事後】グループワーク・解説を聴き自己のレポートに補足を加える（60分以上）			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院 『ナースング・グラフィカ 小児看護学①：小児の発達と看護』中野綾美編、メディカ出版 『ナースング・グラフィカ 小児看護学②：小児看護技術』中野綾美編、メディカ出版									
備考	第1～10回、12,13回は、講義形式で行う。 授業内課題は、レポート課題（30％）、授業後感想（10％）で評価し、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

- ・看護師としての実務経験を活かし、子どもの病棟・外来における看護、慢性期・急性期にある子どもとその家族への看護の実践方法について教授する（佐藤）。
- ・看護師として病院や療育センターで培った実務経験を活かし、ハイリスク新生児、在宅、感染症、災害を受けた子どものケア等、小児看護の実践方法について教授する（武田）。
- ・看護師としての実務経験を活かし、子どもと家族の看護を実践するために必要な知識・技術・態度について教授する（岡崎）。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMf01				
	●		●							
科目名	母性看護学概論				単位認定者	田辺圭子		評価の方法	試験（筆記）	50%
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1単位		授業内課題	50%
						授業時間数	15時間			
				授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>8回</td> <td></td> <td></td>	授業回数	8回			
授業の概要	母性看護の基盤であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、母性看護の意義・特性等、母性看護学に関する基礎的知識を学修する。母性看護の現状と動向、女性のライフステージにおける性と生殖に関する健康の在り方や、家族を含めた女性の生涯にわたる健康支援について基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を中心に、現状と動向、関連する法や施策について理解できる。 2. 女性のライフサイクル各期の特徴とその支援について理解できる。 3. ウィメンズヘルスに関する健康課題を理解できる。 4. 対象となる個人や家族を支援するために必要な概念や方法を知り、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する自己の考えを深めることができる。									
学修者への期待等	母性看護にかかわる社会的な事象に興味や関心を持ち、セクシャルリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、母性看護の対象となる人々の健康について考えることができるようになることを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	母性看護の基盤となる概念Ⅰ （母性とは・母子関係と家族発達・母性看護のあり方）					【事前】教科書の第1章のA・B・F・Gを読んで授業に臨む（30分程度）				
2	母性看護の基盤となる概念Ⅱ （セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ）					【事前】教科書の第1章のC・D・Eを読んで授業に臨む（30分程度） 【事後】リプロダクティブヘルス/ライツの概念を復習する（30分程度）				
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状					【事前】教科書の第2章のA-①②・Bを読んで授業に臨む（30分程度）				
4	母性看護の対象理解 （女性のライフサイクルと家族・母性の発達・成熟・継承）					【事前】教科書の第3章のBを読んで授業に臨む（30分程度）				
5	女性のライフステージ各期における看護 （思春期・成熟期・更年期・老年期）					【事前】教科書の第5章を読んで授業に臨む（1時間程度）				
6	リプロダクティブヘルスケア （性感染症・家族計画・予期せぬ妊娠）					【事前】教科書の第6章のA・B・Cを読んで授業に臨む（30分程度）				
7	リプロダクティブヘルスケア （性暴力・児童虐待）					【事前】教科書の第6章のF・Gを読んで授業に臨む（30分程度）				
8	母子保健に関する法律と施策・母子保健統計					【事前】教科書の第2章のA-③④、付録の関係法規の抄録を読んで授業に臨む（1時間程度）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美著、医学書院									
参考文献	『母子保健の主なる統計 令和7年刊行』母子衛生研究会編、母子衛生研究会									
備考	・授業はすべて講義形式であるが、事象に対する考えや意見をワークとして取り入れる。 ・授業内課題は小テスト（関連する国家試験問題40%）と授業後の学びや感想（10%）で評価する。 ・授業内課題は講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMf02				
			●		●					
科目名	母性看護学援助論				単位認定者	田辺 圭子		評価の方法	試験（筆記）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	時代の変遷とともに、生涯を通じての性と生殖に関する健康をまもるという観点から、母性看護の対象や母性看護の役割が拡大している。本科目では、母性看護の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から広範囲にとらえアセスメントする能力を学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心として、各期の特徴や健康問題に対する看護援助方法を含め、母性看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 妊娠期の母体の変化、心理・社会的特性、マイナートラブルやをハイリスク妊娠および異常を理解する。 2. 分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク分娩および異常を理解する。 3. 褥婦の身体的、心理・社会的変化と母乳栄養、乳汁分泌のメカニズムおよび異常を理解する。 4. 胎児の成長発達、新生児の生理的特徴と母体外生活適応過程および異常を理解する。 5. ハイリスク・異常妊産褥婦や異常新生児に対する看護を理解する。									
学修者への期待等	妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期を中心とした母子の健康問題や発達課題と看護について、人体構造と機能Ⅲや母性看護学概論で学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えることができるようになることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化				【事前】教科書 [1] の第3章のAと教科書 [2] の第2章Cを読んで授業に臨む（30分程度）			田辺 圭子		
2	妊娠期の看護①：妊娠期の身体的特性				【事前】教科書 [2] の第3章のAを読んで授業に臨む（30分程度） 【事後】母体の生理的变化について復習する（30分程度）			田辺 圭子		
3	妊娠期の看護②：妊娠期の心理的・社会的特性				【事前】教科書 [2] の第3章のB・C・Dを読んで授業に臨む（1時間程度）			田辺 圭子		
4	妊娠期の看護③：妊婦のアセスメントと看護の実践							田辺 圭子		
5	妊娠期の看護④：妊娠期の異常と看護				【事前】教科書 [2] の第7章のⅠを読んで授業に臨む（1時間程度）			田辺 圭子		
6	分娩期の看護①：分娩の要素、分娩の経過				【事前】教科書 [2] の第4章のA・B・Eを読んで授業に臨む（1時間程度） 【事後】分娩の4要素と正常な分娩経過について復習する（30分程度）			田辺 圭子		
7	分娩期の看護②：分娩が母児に及ぼす影響、産婦・胎児、家族のアセスメントと看護の実践				【事前】教科書 [2] の第4章のC・Dを読んで授業に臨む（1時間程度）			田辺 圭子		
8	分娩期の看護③：分娩期の異常と看護				【事前】教科書 [2] の第7章のⅡを読んで授業に臨む（1時間程度）			田辺 圭子		
9	産褥期の看護①：産褥期の母体の生理的变化、産褥経過と褥婦のアセスメントと看護の実践				【事前】教科書 [2] の第6章を読んで授業に臨む（1時間程度） 【事後】産褥期の退行性変化と進行性変化について復習する（30分程度）			佐藤 理恵		
10	産褥期の看護②：褥婦と家族、退院後の看護							佐藤 理恵		
11	産褥期の看護③：産褥期の異常と看護				【事前】教科書 [2] の第7章のⅣを読んで授業に臨む（1時間程度）			佐藤 理恵		
12	新生児期の看護①：胎児の発育とその生理、診断とアセスメント				【事前】教科書 [2] の第5章を読んで授業に臨む（1時間程度） 【事後】新生児の定義・分類、胎外生活への適応について復習する（30分程度）			坂村 佐知		
13	新生児期の看護②：新生児のアセスメント							坂村 佐知		
14	新生児期の看護③：新生児の異常と看護				【事前】教科書 [2] の第7章のⅢを読んで授業に臨む（1時間程度）			坂村 佐知		
15	特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援				【事前】教科書 [2] の第7章のⅠ－G、Ⅳ－G、Ⅴを読んで授業に臨む（1時間程度）			坂村 佐知		
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院									
参考文献	『病気がみえるvol.9 婦人科・乳腺外科』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『病気がみえるvol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
備考	授業内課題は学びや感想（10％）で評価し、講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMf03				
			●		●					
科目名	母性看護学援助方法				単位認定者	田辺 圭子		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活を送れるようウェルネスの視点から看護を展開した援助方法を学修する。また、母性看護における特有な援助技術の修得のため、演習を通じて妊娠・分娩・産褥・新生児期に必要な看護技術と実践的なケア、母子保健活動の方法を学び、母性看護の基礎的な実践能力を身につける。さらに次世代の健全育成を目指した実践科学としての母性看護活動を理解する。									
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的な変化及び特徴について、対象のヘルスアセスメントができる。 2. 紙上事例をとおして情報を分析し、ウェルネス診断に基づいて計画立案までの看護過程の展開ができる。 3. 技術演習により、母性看護に特有な看護技術を修得できる。									
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論で学んだ知識を統合し、母性看護学特有の看護技術に主体的に取り組むことで、具体的な援助技術を実践できるようになることを期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	母性看護に必要な技術：母性看護における看護過程				【事前】教科書 [1] の第4章のA・Bを読んで授業に臨む (30分程度)				田辺 圭子	
2	母性看護に必要な技術：情報収集・アセスメント技術				【事後】紙上事例を読み、アセスメント項目を挙げる				田辺 圭子	
3	事例による看護過程の展開 (事例の説明)、グループワーク① (妊娠期のアセスメント)				【事前】教科書 [2] の第3章のC、第5章のB、第6章のB、配布資料を読んで授業に臨む (1時間程度) 【事後】各期のアセスメントを完成する (各2～3時間程度)				田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
4	看護過程の展開 グループワーク② (産褥期のアセスメント)								田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
5	看護過程の展開 グループワーク③ (新生児期のアセスメント)								田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
6	妊産婦の看護に関わる技術と保健指導				【事前】教科書 [1] の第4章のCと [2] の第3章のD、第6章のDを読んで授業に臨む (1時間程度) それぞれの健康診査に関連する知識をまとめておくこと				田辺 圭子	
7	褥婦と新生児に関わる技術と保健指導								田辺 圭子	
8	看護過程の展開 グループワーク④ (看護診断)				【事後】事例の看護診断を挙げ、看護計画を立案する (1～2時間程度)				田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
9	母性看護技術演習・看護過程演習オリエンテーション				【事後】母性看護技術演習に関連する動画を視聴する				田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
10	妊産婦のケア：レオポルド触診法・児心音聴取・妊婦体験				【事前】教科書 [2] や配布資料を用い、該当する母性看護技術に関する知識をまとめる・該当する演習の動画を視聴し、事前課題を行い演習に臨む (1時間程度) 【事後】演習課題レポートを作成する (1時間程度)				田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
11	褥婦のケア：子宮復古の観察・悪露、浮腫の観察								田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
12	褥婦・新生児のケア：抱き方と更衣・授乳姿勢と排気法								田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
13	新生児のケア：新生児の観察と計測・清潔								田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	

回	授業計画	準備学修	担当
14	看護過程の展開　グループ発表（前半グループ）	【事後】看護過程の課題レポートを作成する（1時間程度）	田辺　圭子 佐藤　理恵 坂村　佐知
15	看護過程の展開　グループ発表（後半グループ・まとめ）		田辺　圭子 佐藤　理恵 坂村　佐知
教科書	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔1〕母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編、医学書院		
参考文献	『ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図』石村由利子他著、医学書院 『ウェルネスの視点にもとづく母性　看護過程』太田操他著、医歯薬出版株式会社 『病気がみえるVol.10　産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	第1回、2回、6回、7回は講義形式で授業を行う。 第6回・7回は実際に保健指導案作成を試みる。 第9回目は技術演習説明後に看護過程の展開　グループワーク⑤を実施する。 第10回、11回、12回、13回の技術演習はABの2クラス編成で行う（演習時には身だしなみをチェックする）。 演習の事前・事後課題は、指定された期日までに提出する（提出遅れは減点となる）。 授業内課題は、提出物（40％）と授業後の学びや感想（10％）で評価し、適宜フィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMg01				
	●		●							
科目名	精神看護学概論				単位認定者	小松 容子		評価の方法	試験(筆記)	76 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	16 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	8 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	メンタルヘルスの基本概念、精神保健医療福祉の変遷と看護、精神の健康とマネジメントなどの精神看護学に関する基礎を学ぶ。さらに、心のケアが必要な人々への看護を行う上で、看護者自身がメンタルヘルスについて洞察し、倫理的判断と行動をとるための基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. こころの健康とは何かを理解し、こころの発達過程について説明できる。 2. こころの健康に影響を及ぼす要因と対処法について説明できる。 3. 現代家族の特徴、核家族の機能と役割について説明できる。 4. 障害者の生活と社会参加についてノーマライゼーションの視点から考えることができる。 5. 精神医療の歴史と課題について理解できる。									
学修者への期待等	各回の授業テーマの該当部分について、事前にテキストを熟読してくること。									
回	授業計画					準備学修				
1	精神医療の歴史と看護／精神保健医療福祉の法制度					教科書（p148-179）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
2	精神の健康と普及啓発					教科書（p 14-27）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
3	心の機能と発達／危機介入					教科書（p 30-50）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
4	ライフサイクルとメンタルヘルス					教科書（p 54-77）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
5	心身相関と健康／ホリスティックケア					教科書（p 80-101）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
6	家族とその支援					教科書（p 104-121）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
7	精神保健福祉法／看護の倫理と人権擁護					教科書（p 134-143, p180-186）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
8	専門職間の連携／看護専門職の健康					教科書（p 190-199）を予習し、授業内での内容を復習しまとめる。（30分程度）				
教科書	『ナースンググラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、メディカ出版									
参考文献										
備考	・全8回で講義中にディスカッション時間を設ける。 ・全8回でリアルタイムアンケートを用い授業内にフィードバックを行う。 ・授業内課題は上記アクティブラーニングへの参加で評価する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMg02				
			●		●					
科目名	精神看護学援助論				単位認定者	阿部 幹佳		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	精神的な健康問題を持つ人が抱える問題、精神疾患の病態と検査・治療について学ぶ。また、精神看護の展開として、援助関係の基本、患者－看護師関係における看護師の治療的な役割、社会においての精神患者への支援等、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 精神的健康問題を持つ人の病態、治療の知識を得、対象者の状態を解釈できるようになる。 2. 精神科疾患を有する人の援助方法について知識を得、状況に応じた援助方法を選択できるようになる。									
学修者への期待等	精神障害（疾患）とそのケアについて学修します。こころの病気は誰でもかかるものです。日頃からこころの病気に関心を持ち、身近な病気だということを授業を通して理解していきましょう。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	精神障害の原因と分類				教科書①「精神医学とは、精神障害における症状」p. 1-22を読む（1時間程度）				村上 佑美	
2	症状性を含む器質性精神障害				教科書①「症状性を含む器質性精神障害」 p. 37-51を読む（1時間程度）				村上 佑美	
3	精神作用物質使用による精神および行動の障害				教科書①「精神作用物質使用による精神および行動の障害」p. 59-74を読む（1時間程度）				村上 佑美	
4	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害				教科書①「統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害」p. 74-88を読む（1時間程度）				村上 佑美	
5	気分（感情）障害				教科書①「気分（感情）障害」p. 88-98を読む（1時間程度）				村上 佑美	
6	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現障害				教科書①「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現障害」p. 74-98を読む（1時間程度）				村上 佑美	
7	生理的障害および身体的要因に関した行動障害				教科書①「生理的障害および身体的要因に関した行動障害」p. 107-112を読む（1時間程度）				村上 佑美	
8	成人のパーソナリティおよび行動の障害／てんかん				教科書①「成人のパーソナリティおよび行動の障害」 p. 112-118、「てんかん」p. 54-59を読む（1時間程度）				村上 佑美	
9	知的障害／心理発達の障害／小児期及び青年期に発症する行動および情緒の障害				教科書①「児童・青年期の精神障害」p. 118-130を読む（1時間程度）				村上 佑美	
10	精神科における検査・治療について				教科書①「精神科包括治療」 p. 145-172を読む（1時間程度）				村上 佑美	
11	精神障害（症状）と看護				教科書④「精神科看護学の技術と技法」p. 11-23を読む（1時間程度）				阿部 幹佳	
12	薬物療法と看護				教科書②「薬物療法」「服薬治療に関わる援助」p. 137-150, 200-209を読む（2時間程度）				加藤 真理子	
13	精神科病棟の環境とリスクマネジメント				教科書②「入院環境と治療的アプローチ」 p. 212-223を読む（1時間程度）				加藤 真理子	
14	自殺未遂・企図の理解と対応				教科書②「救急医療現場における患者支援と精神的関わり」p. 291-299を読む（1時間程度）				阿部 幹佳	
15	セルフケア看護理論（オレム/アンダーウッド、ドロセア・オレム、ジョイス・トラベルビー）				教科書③「精神科看護における対象の理解」p. 163-175、教科書④「セルフケアの援助」p. 39-23を読む（1時間程度）				阿部 幹佳	
教科書	①『学生のための精神医学』太田保之他編、医歯薬出版 ②『ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、メディカ出版 ③『ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版 ④『精神看護学～学生-患者のストーリーで綴る実習展開～』田中美恵子著、医歯薬出版									
参考文献	『看護のための精神医学』中井久夫他著、医学書院									
備考	・質問等は適宜全体にフィードバックする。 ・授業内課題は、UNIPA内小テストへの取り組み（10%）、第11-15回（除12回）のリアルタイムアンケート、ディスカッションのへ参加（10%）で評価し、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMg03						
			●		●							
科目名	精神看護学援助方法					単位認定者	阿部 幹佳 加藤 真理子		評価の方法	試験(筆記)	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題		40	%	
						授業時間数	30 時間					
				授業形態	演習	授業回数	15 回					
授業の概要	精神疾患を持つ患者の看護と入院形態、病棟環境の整備と行動制限等の治療的環境について学修する。また、プロセスレコードの記述を通して自己洞察していくことの重要性、精神科内での多職種連携の必要性について学ぶ。精神看護学援助論の学修を踏まえ、演習を通して、精神看護における実践能力を身につける。											
到達目標	1. 精神疾患の特徴や看護支援の概要について説明出来る。 2. 精神疾患の具体的事例について、個人やグループで情報収集・アセスメント・かかわり方を検討し、記載できる。											
学修者への期待等	精神看護の実践では、患者-看護師関係の成立とアセスメント能力が必須です。講義の復習を継続し、看護対象者を身体・心理・社会的側面から捉えた看護過程が展開できることを期待します。											
回	授業計画					準備学修				担当		
1	精神科看護の実践の特徴 ・精神科看護ケアの方法 ・セルフケアレベルの把握 ・患者-看護師関係の成立（4つのプロセス）					教科書②「精神科看護における対象の理解・ケアの方法」 p.163-190を読む（1時間程度）				阿部 幹佳		
2	治療の場としての精神科病棟 ・入院する精神障害者の特徴、治療的環境（環境整備、行動制限）とは					【事前】教科書②「入院環境と治療的アプローチ」 p.211-229を読む（30分程度） 【事後】授業での学びをUNIPAに記載する（30分程度）				阿部 幹佳		
3	プロセスレコードの意義と実際① ・プロセスレコードとは何か ・プロセスレコードをどう書くのか ・自分の感情を手掛かりにすることの意味					【事前】教科書②「臨地実習から学ぶ」 p.339-362を読む（30分程度） 【事後】実習での患者とのコミュニケーション場面を想起しUNIPAに記載する（30分程度）				阿部 幹佳 加藤 真理子		
4	プロセスレコードの意義と実際② 実習記録用紙を用いて、ロールプレイにおける実際の場面を記録する ・プロセスレコードを記録する ・プロセスレコードのアセスメント、考察を行ってみる					【事前】教科書③「精神科看護の技術と技法」 p.10-38を読む（30分程度） 【事後】プロセスレコードに関する検討内容を整理しUNIPAに記載する（30分程度）				阿部 幹佳 加藤 真理子		
5	疾患別看護① ・統合失調症の症状、治療と看護					教科書②「統合失調症スペクトラム障害およびほかの精神病性障害」 p.39-44を読む（30分程度）				加藤 真理子		
6	疾患別看護② ・気分障害の症状、治療と看護 ・抑うつ障害と双極性障害					教科書②「抑うつ障害と双極性障害」 p.45-53を読む（1時間程度）				加藤 真理子		
7	疾患別看護③ 統合失調症とその近縁の疾患を持つ人の看護 ・パーソナリティ障害					教科書②「パーソナリティ障害」 p.105-107を読む（15分程度）				加藤 真理子		
8	疾患別看護④ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害をもつ人の治療と看護 ・アルコール使用障害、強迫性障害、摂食障害					教科書②「不安障害、強迫性障害、ストレス因関連障害、解離性障害、身体症状症および関連症群」 p.54-76を読む（2時間程度）				加藤 真理子		
9	疾患別看護⑤ ・神経発達症の症状、治療と看護 自閉スペクトラム障害（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習障害（SLD）					教科書②「神経発達症：成人期の自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症」 p.29-38を読む（1時間程度）				加藤 真理子		

回	授業計画	準備学修	担当
10	治療を受ける人への看護 ・多職種によるチーム医療 ・さまざまな精神療法（認知行動療法） ・さまざまな生活療法（生活指導、作業療法、SST療法、レクリエーション療法） ・電気けいれん療法と看護	【事前】教科書②「精神科における治療の特徴」「地域生活（移行）支援の実践」p. 131-137, p. 263-274を読む（30分程度） 【事後】授業での学びをUNIPAに記載する（30分程度）	阿部 幹佳
11	看護過程の展開 ・看護過程演習についてのオリエンテーション ・事例紹介と具体的な展開方法 ・事例情報の整理とアセスメント（グループワーク）	教科書③「本書における精神看護学のとらえ方-精神看護QOLモデル」 p. 2-8を読む（30分程度）	阿部 幹佳 加藤 真理子
12	（グループワーク）看護過程の展開 ・セルフケアのアセスメント	統合失調症を持つ人への看護について復習する（30分程度）	阿部 幹佳 加藤 真理子
13	（グループワーク）看護過程の展開 ・看護計画の立案	気分障害（うつ病）を持つ人への看護について復習する（30分時間程度）	阿部 幹佳 加藤 真理子
14	看護過程の演習：発表会（学びの共有）	グループ発表の準備をする（2時間程度）	阿部 幹佳 加藤 真理子
15	看護過程の演習：発表会（学びの共有・まとめ）	看護過程を修正・加筆し、提出できるように準備する	阿部 幹佳 加藤 真理子
教科書	①『ナースング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版 ③『精神看護学～学生・患者のストーリーで綴る実習展開～』田中美恵子著、医歯薬出版		
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美著、日総研		
備考	・第1、3、5～9回は講義形式とする。質問等は適宜全体にフィードバックする。 ・第1、3回はリアルタイムアンケートを行う。 ・第2回はゲストスピーカー（足立健一先生）を招き、ディベートを取り入れた講義を展開する。 ・第4、12～13回はグループディスカッションを行う。 ・第10回はゲストスピーカー（西田有吾先生）を招き、グループディスカッションを取り入れた講義を展開する。 ・授業内課題はUNIPA内小テストへの取り組み（10%）、リアルタイムアンケートへの参加、事後課題の内容、看護過程の内容、演習への参加で評価（30%）し、適宜フィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
・看護師としての実務経験を活かし、精神看護の実践の特徴、多職種連携の必要性について教授し、演習を通して、精神看護における実践能力を身につけられるような授業を展開する（阿部）。 ・看護師として精神看護の臨床現場で培った実務経験を活かし、精神疾患を持つ患者への看護について、学生が具体的にイメージして考察を深められるよう、疾患別の看護実践について教授する（加藤）。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh01				
			●	●	●					
科目名	看護過程展開方法				単位認定者	木下 美佐子 桑田 恵美子		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	看護過程論で学修した看護過程の基礎に加え、演習を通して実践判断につなげる看護過程の展開方法を深めていく科目である。看護過程のアセスメントとして各看護理論に応用できる代表的な枠組みを紹介し、紙上事例に対し目的をもったアセスメントを行い、看護実践につなげていく展開方法を個人ワーク及びグループワークを通して身につける。									
到達目標	1. 看護過程のプロセスについて説明できる。 2. 看護過程の展開にゴードンの11の機能的健康パターンを用いることができる。 3. 演習を通して、看護過程を展開する具体的な方法を考え、実施することができる。 4. 演習を通して臨床判断に結びつく、論理的、批判的思考を身につけることができる。									
学修者への期待等	1年生で学んだ「看護過程論」を土台として、複雑な背景をもつ対象に対し、演習を通してスムーズな臨床判断に結び付く思考過程を身に付けてほしいと思います。また、グループワークの演習で、課題達成に向けた役割が果たせるよう期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	看護過程論の振り返りとゴードンの11の機能的健康パターンについて				【事前】教科書①P56～P67を用いて、ゴードンのアセスメントガイドを復習して、授業に臨むこと。（1時間程度）				木下 美佐子	
2	アセスメント（データ収集）				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				木下 美佐子	
3	アセスメント（人間の反応の理解）				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				木下 美佐子	
4	アセスメント（人間の反応の解釈・分析）				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				木下 美佐子	
5	アセスメント（人間の反応の判断・関連性の把握）				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				木下 美佐子	
6	看護上の問題点の明確化				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				桑田 恵美子	
7	看護診断について				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				桑田 恵美子	
8	看護目標・成果指標の設定				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				桑田 恵美子	
9	看護計画の立案				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				桑田 恵美子	
10	看護の介入、評価				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				桑田 恵美子	
11	紙上事例を用いた看護過程の展開（アセスメント）				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）				阿部 幹佳 菅原 尚美 伊藤 茉莉子 岡崎 草代夏 坂村 佐知 東海林 美幸	
12	紙上事例を用いた看護上の問題点の明確化				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）					
13	紙上事例を用いた看護目標・成果指標の設定				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）					
14	紙上事例を用いた看護計画の立案、介入、評価				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）					
15	看護過程展開方法のまとめ				【事前】事例展開するための事前学習（1時間程度）					
教科書	①『看護がみえるvol.4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	『看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン』マジョリー・ゴードン著、照林社									
備考	1回は講義、2回～15回まではグループワークを行います。 授業内課題は、各回の提出物（70%）、事例展開（30%）で評価し、適宜フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh02				
	●		●							
科目名	家族支援論				単位認定者	畠山　とも子		評価の方法	試験 （レポート）	70　％
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　％
						授業時間数	15　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			
授業の概要	家族には一人の個人と同様に、誕生し、成長しながら様々な課題に取り組み、老いて終結するライフコースがある。その上で、家族課題等様々な状態にある家族を支援する看護について学ぶ。家族支援を行う際の家族と支援者との関係づくり、相互作用を理解し、様々な健康レベルや発達段階にある多様な家族の問題に対応できるための家族支援に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 家族も援助の対象であることを理解し、家族を支援する看護の役割を学習する。 2. 患者・家族と看護師の相互作用について学修する。 3. 自らの家族を知ることによって多様な家族の在り方に気づく。									
学修者への期待等	家族看護を学ぶとより看護の質が高くなります。楽しい看護が実践できるようともに学びましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	看護の対象である家族について： 家族看護とは何か					【事後】 各回、授業内容（配布資料）を復習してください。（各30分程度）				
2	ジェノグラム・価値観① 私のジェノグラムと価値観									
3	家族支援① ベッドサイドでの関係づくり									
4	家族支援② 個人面接での関係づくり									
5	家族支援③ 複数面接での関係づくり									
6	地域・在宅における家族支援									
7	ジェノグラム・価値観② 家族支援でのインタビューからの学び									
8	家族支援論のまとめ									
教科書	資料を配布します。									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh05					
	●		●		●						
科目名	周術期看護論				単位 認定者	吉田 詩織		評価の方法	試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間		
				授業回数		15 回					
授業の概要	周術期看護とは、患者、家族が手術を決定したときから、手術を終えて、手術侵襲から回復するまでのプロセスに関わる看護である。手術や麻酔による侵襲のある患者を全人的に理解し、術前から術後を通して合併症予防、苦痛の緩和を行う方法を学ぶ。また、早期回復を促す援助や家族を含めた退院後の生活への適応を促す援助も含め、周術期にある患者・家族に対する基礎的知識を学修する。										
到達目標	1. 周術期の経過と看護の特徴について説明できる。 2. 手術侵襲とそれによっておこる生体反応が説明できる。 3. 術後合併症とその予防方法を説明することができる。 4. 周術期患者の看護展開を通し、術式による特徴的な看護について説明できる。 5. 基礎疾患がもたらす回復過程への影響を説明できる。 6. 手術療法を受ける高齢者、こどもと家族、精神疾患・障がい者、帝王切開術を受ける妊婦及び家族の看護援助について、説明できる。										
学修者への期待等	事前にテキストを熟読してきてください。 講義では学修者にケアに関する考えを聞くことがありますので、積極的な発言を期待します。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	周術期看護の概要と看護師の役割 周術期にある患者・家族の特徴					【事前】教科書①第2部第1章「周手術期看護とは」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
2	手術や麻酔による侵襲と生体反応					【事前】教科書①第1部2「急性の状態にある患者の身体的・心理的反応」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
3	術前の患者・家族の看護					【事前】教科書①第2部第Ⅱ章「手術前期の看護」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
4	術中の患者・家族の看護					【事前】教科書①第2部第Ⅲ章「手術期の看護」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
5	術後合併症の予防と発症時の援助、苦痛の緩和					【事前】教科書①第2部第Ⅳ章「手術後期の看護」を読んで授業に臨む（40分程度）			吉田 詩織		
6	開腹術を受ける患者の看護					【事前】教科書①第2部第Ⅶ章5「摂取機能さの再確立②-胃切除術」6「消化機能の再確立①-肝切除術」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
7	開胸・開心術を受ける患者の看護					【事前】教科書①第2部第Ⅶ章2「呼吸機能の再確立-胸腔鏡下肺葉切除術」3「循環機能の再確立①-冠動脈バイパス術」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
8	開頭術、運動器系の手術を受ける患者の看護					【事前】教科書①第2部第Ⅶ章1「統制機能（脳神経機能）の再確立-開頭腫瘍摘出術」8「消化機能の再確立-人工股関節全置換術」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		
9	内視鏡下手術を受ける患者の看護					【事前】教科書①第Ⅵ章「内視鏡治療・鏡視下手術の術前・術後の看護」摂取機能さの再確率②-胃切除術」を読んで授業に臨む（30分程度）			吉田 詩織		

回	授業計画	準備学修	担当
10	基礎疾患のある患者の周術期看護	【事前】第2～5回の授業の復習して臨む。(1時間程度)	岡崎 優子
11	高齢者と手術	【事前】教科書②の第3部 2. 手術療法を予習して臨む (1時間程度)	菅原 尚美
12	子どもとその家族と手術	小児看護学概論で学んだ子供の特徴について復習して臨む (30分程度)	佐藤 幸子
13	帝王切開を受ける産婦の看護	【事前】教科書③第7章のIの帝王切開とKの帝王切開術を受ける産婦の看護を読んで授業に臨む (30分程度)	田辺 圭子
14	精神疾患・障がい者と手術	【事前】教科書④「身体疾患と精神症状」p. 108-115を読んで授業に臨む (1時間程度)	阿部 幹佳
15	術後の継続看護、周術期看護のまとめ	【事前】教科書①第V章「退院に向けた指導・支援」を読む、及びこれまでの講義を復習して臨む (60分程度)	吉田 詩織
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護』林直子他編、南江堂 ②『ナースンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版 ③『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 ④『ナースング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版		
参考文献	『これならわかる！術前・術後の看護ケア～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～』中島恵美子他監、ナツメ社		
備考	授業内課題については第10～第14回の授業で担当教員より詳細を指示し、各回8% (計40%) で評価する。また適宜フィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh07				
	●		●		●					
科目名	緩和ケア論				単位認定者	佐藤 富美子		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOL（生活の質）の向上を目指すアプローチである。患者とその家族が抱える痛みや様々な問題を早期に見出し、的確に評価・対応することで、苦痛を予防し和らげることを目指し、その人らしい人生・生活を支える緩和ケアのあり方について理解を深める。患者とその家族が直面する身体的問題、心理社会的特徴と、求められる看護を理解し、緩和ケアに関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 「緩和ケアとは」について説明できる 2. 緩和ケアを必要とする対象の身体的問題、心理・社会的特徴とスピリチュアルケアについて説明できる 3. 緩和ケアを必要とする対象と家族に対する看護援助が説明できる 4. 緩和ケアにおいて直面する倫理的課題について、自分の考えを表現し意見交換できる									
学修者への期待等	授業前後に緩和ケアをとりまく社会の状況、緩和ケアを担う看護師に求められる役割や医療体制について考察できる資料を教科書、著書、新聞などで収集し、各授業内容の理解が深められるように準備すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	緩和ケア概論（定義・歴史・看護の役割）					教科書第Ⅰ章を予習すること（1時間）				
2	身体機能の低下に伴う問題：がん性疼痛のマネジメント					教科書第Ⅲ章（1-1）を予習すること（1時間）				
3	身体機能の低下に伴う問題：がん性疼痛以外の症状マネジメント					教科書第Ⅲ章（1-2～1-7）を予習すること（1時間30分）				
4	緩和ケアを必要とする患者の心理的・社会的特徴とスピリチュアルケア					教科書第Ⅰ章、第Ⅲ（2～4）を予習すること（1時間）				
5	家族への支援、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の進め方					教科書第Ⅱ章（5～6）を予習すること（1時間）				
6	在宅緩和ケア					教科書第Ⅰ章（5）を予習すること（1時間）				
7	看取りのケア、グリーフケア					教科書第Ⅱ章（7）、第Ⅴ章を予習すること（1時間30分）				
8	緩和ケアにおける倫理的課題					緩和ケアにおいて直面する倫理的課題についてレポート（2時間）し、グループワークの準備をすること。				
教科書	『看護学テキストNiCE 緩和ケア』梅田恵他監、南江堂									
参考文献	授業内で随時紹介する									
備考	授業内課題は「緩和ケアにおいて直面する倫理的課題」についてレポートで評価し、各自にコメントでフィードバックする。授業に関する質問は主にミニットペーパーで確認し、次回授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMi06				
				●						
科目名	キャリアデザインセミナー				単位認定者	阿部 春美		評価の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	1年次の学修を踏まえ、興味関心のある領域は何か、どのような看護師になりたいか、どのような社会人になりたいか等、卒業後の人生を具体的に描きながら、自身のキャリアについて考察する。将来を具体的にイメージしながら、自身の人生を切り拓いていくための土台作りをし、学修目的の更なる明確化と学修意欲向上を図る。									
到達目標	1. 看護専門職としての責務と倫理、あり方について説明できる。 2. 活躍する看護専門職者について理解を深める。 3. 看護専門職に求められる社会のニーズと現状から看護の専門性について考える。 4. 現時点での自分で考える看護専門職像としてキャリアデザインについて述べることができる。									
学修者への期待等	「スタートアップセミナー」での学びを基盤として、看護専門職像としてキャリアデザインを考え、将来のために『大学生活をどうマネジメントし、自らをどう育てるのか』を一緒に考えていきましょう。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	キャリアデザイン、看護専門職の概念と生涯学習の意義について					【事前】大学卒業後にどのような資格が取得でき、どのような進路が考えられるのか調べておくこと (30分)			木下 美佐子	
2	看護専門職としてのキャリアデザイン：現任教育の目的と方法について					【事後】授業内の学び (30分)			阿部 春美	
3	看護専門職としてのキャリアデザイン：大学院教育の目的と意義について					【事前】自分が関心のある看護系大学院を一つ選び、ウェブサイトを閲覧する (30分)			佐藤 幸子	
4	看護専門職としてのキャリアデザイン：看護専門職としてのキャリア					【事後】授業内の学び (30分)			木下 美佐子	
5	看護専門職として活躍する人が歩んできたキャリアについて (保健師他)					【事後】授業内の学び (30分)			末永 カツ子	
6	看護専門職として活躍する人が歩んできたキャリアについて (専門看護師他)					【事後】授業内の学び (30分)			阿部 春美	
7	自らのキャリアデザインについての考察					【事前】キャリアプランシートの作成 (2時間) 【事後】キャリアプランシートの完成 (1時間)			阿部 春美	
8	看護専門職とキャリアデザインについてのまとめ					【事後】レポート課題の作成 (4時間)			阿部 春美	
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	『看護師のキャリア論』勝原裕美子著、照林社									
備考	※第7回はグループディスカッションを行う。 ※授業内課題「授業内の学び：20%」、「キャリアプランシート：20%」で評価し、次回の授業でフィードバックする。 ※試験（レポート）：「看護専門職像としてキャリアデザイン」（60%）									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング	
学修成果	1	2	3	4	5	NSMj03	
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力		
	●	●	●	●	●		
科目名	地域・在宅看護学実習Ⅰ				単位認定者	高橋 由美	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位
						授業時間数	40 時間
					授業形態	実習	授業回数
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、地域で暮らす人々と家族の生活環境と健康との関連をアセスメントし、対象者のニーズを把握する地区踏査・地区視診の実際を学ぶ。また、母子・成人・高齢者を対象とする保健・福祉の場における地域の人々の生活を理解し、健康状態について把握する実習を通して地域・在宅看護の基礎的な実践能力を修得する。						
到達目標	1. 地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状と課題を理解することができる 2. 地域に暮らす様々な対象の活用可能な社会資源を理解することができる 3. 看護職を目指す学生として倫理観と責任を認識した行動ができる						
学修者への期待等	地域で暮らす様々な対象の生活環境や健康との関連をアセスメントし、地域・在宅看護の基礎的な実践能力を身に付ける実習です。これまで積み上げてきた学修を振り返り、主体的に臨みましょう。						
授業計画						準備学修	
Ⅰ. 実習期間 1週間 Ⅱ. 実習施設 老人福祉センター 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター 母子支援施設 Ⅲ. 実習計画 1. 学内実習 1) オリエンテーションで実習全体を把握し、事前学修を充分行い実習に臨む。 2. 臨地実習 1) 老人福祉センターの役割機能を学び利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 2) 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センターの役割機能を学び、利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 3) 母子支援施設の役割機能を学び利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 3. まとめ 1) 学修成果を発表し学びを共有する。 2) 地域で暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状や課題をまとめ、活用可能な社会資源について考察する。						【事前】地域・在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱの授業内容を復習し、オリエンテーションで提示される課題に取り組む（2時間程度）	
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版						
参考文献	『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス						
備考	担当：高橋由美、小林淳子、真溪淳子、東海林美幸、手塚有希子						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj05				
	●	●	●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	桑田 恵美子		評価の方法	認知領域（知識）	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位		精神運動領域（技術）	50 %
						授業時間数	120 時間		情意領域（態度）	20 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる情報収集、目標設定、看護計画立案、実施、評価までの一連の看護過程の展開と看護の実践を学ぶ。特に長期的に経過する健康障害や機能障害の特性及び精神的、社会的な影響を理解することを通して、各発達段階や健康段階に応用できる基礎的な看護実践能力を修得する。									
到達目標	1. 対象の看護過程が展開できる。 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。									
学修者への期待等	長期的に経過する慢性的健康問題を持つ患者において、疾患そのものの治療のみではなく、規則正しい生活等、日常生活における自己管理について理解し、社会生活が送れるように支援することが求められる。領域横断実習を通して慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、看護役割を学ぶことを期待します。									
授業計画						準備学修				
I. 実習期間 3週間 II. 実習施設 病院 III. 実習計画 1. 学内 1) 実習オリエンテーション 2) 看護過程の展開と、受け持ち患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。 2. 病院 1) 学生1名で、主として成人期・老年期患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。 3. まとめ 1) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、理論的にまとめて発表することにより学生間で学びを共有し、看護について考えを深める。						【事前】 実習開始前に実習要項を十分読み、参加する。（1時間程度） 受け持ち患者・家族を理解するために必要な慢性疾患の病態・検査・治療・看護について学修する。（5時間程度） 受け持ち患者の看護に必要な看護技術を学修する。（3時間程度）				
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『成人看護学』黒田裕子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期の看護』鈴木久美他編集、南江堂 『ナースング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他編著、メディカ出版 『ナースング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版									
備考	担当：桑田恵美子、阿部春美、武田美奈子、阿部幹佳、岡崎優子、佐藤理恵、菅原尚美、伊藤茉莉子、岡崎草代夏、坂村佐知、遠藤美穂子、泉田さとみ、加藤真理子、小倉真紀、非常勤助手5名									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMk01				
	●		●		●					
科目名	公衆衛生看護学概論				単位 認定者	小林 淳子		評価の方法	試験（筆記）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	60 %
		＊保健師選択制 必修				授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義		授業回数		8 回	
授業の概要	公衆衛生看護は、公衆衛生の理念に基づき、公衆衛生学、看護学を基盤とした知識・技術を用いて、地域で生活するあらゆる人々の健康の保持・増進、疾病予防、生活の質の向上を目的とする。本科目では、個人・家族だけでなく、集団・組織、地域社会までを対象として、意図的・組織的に働きかける看護活動について学び、公衆衛生看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念、目標、対象について説明できる。 2. 公衆衛生看護の場と主要な公衆衛生看護活動について説明できる。 3. ヘルスケアシステムの必要性と保健師の役割について説明できる。									
学修者への期待等	本科目では、保健師としての実践能力の基盤となる内容を学修します。既修の「公衆衛生学」、「疫学」、「地域・在宅看護学概論Ⅰ」、同時進行の「保健情報論」、「保健医療福祉行政論」の学修と統合して学びが深まるよう期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	公衆衛生看護の理念と目標					教科書第1章ABCを読み、公衆衛生看護の理念・基盤となる概念について予習する。（約30分）				
2	公衆衛生看護の対象と機能					教科書第2章を読み、公衆衛生看護の対象としての個人・家族、集団・組織、地域について予習する。（約30分）				
3	公衆衛生看護の倫理					教科書第1章CDを読み、公衆衛生看護における倫理について予習する。（約30分）				
4	公衆衛生看護の場と活動の特徴					教科書第3章を読み、公衆衛生看護の活動の場について予習する。（約30分）				
5	公衆衛生看護の歴史					教科書第10章を読み、日本及び米英国の公衆衛生看護の歴史について予習する。（約30分）				
6	公衆衛生看護活動の方法とその特性①（ハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチ、業務担当制と地区担当制、総合的な地区活動）					教科書第5章ABを読み、地域看護活動の展開の基盤について予習する。（約30分）				
7	公衆衛生看護活動の方法とその特性②（個別・家族へのアプローチ、集団・組織へのアプローチ、地域へのアプローチ、施策化・事業化へのアプローチ）					教科書第5章Cを読み、地域看護活動の展開の基盤について予習する。（約30分）				
8	ヘルスケアシステムにおける公衆衛生看護					教科書第4章を読み、ヘルスケアシステムにつながる社会環境の変化と健康課題について予習する。（約30分）				
教科書	『標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論』標美奈子著、医学書院									
参考文献	『最新 公衆衛生看護学 総論』宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会 『国民衛生の動向2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、適宜フィードバックする。 第3回の授業では倫理的課題の事例をグループワークにより検討する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

看護学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号等を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

各授業科目には、以下の法則にて符号を付しています。

教育課程の体系性を理解し、主体的な学修を行うために、活用してください。

①学部学科等区分

学部学科等名称（英語名称）	符号
看護学部看護学科 (Faculty of Nursing, Department of Nursing)	NS

②科目区分（大区分）

科目区分名称（英語名称）	符号
教養教育科目（Liberal Arts subjects）	L
専門基礎科目（Foundations of Major subjects）	F
専門科目（Major subjects）	M

③科目区分（小区分）

科目区分に上から順にa,b,c…とアルファベット小文字を付し、符号とする。

④授業科目

科目区分ごとの授業科目に上から順に01, 02, 03…と数字を付し、符号とする。

【ナンバリング例】

看護学部看護学科「看護学概論」の場合、①NS②M③a④01

→ ナンバリングは「NSMa01」

ナンバリング一覧

看護学部看護学科 NS

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教 養 科 目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	NSLa01
		英語Ⅰ	NSLa02
		英語Ⅱ	NSLa03
		英語Ⅲ	NSLa04
		情報処理Ⅰ	NSLa05
		情報処理Ⅱ	NSLa06
		ICT活用技術	NSLa07
	人文科学系 b	哲学	NSLb01
		生命倫理学	NSLb02
		心理学	NSLb03
		教育心理学	NSLb04
		宗教と民族	NSLb05
		人間関係論	NSLb06
	社会科学系 c	法学入門	NSLc01
		日本国憲法	NSLc02
		経済と政策	NSLc03
		教育学概論	NSLc04
		社会学	NSLc05
	自然科学系 d	社会保障論	NSLc06
		物理学	NSLd01
		生物学	NSLd02
		自然環境と災害	NSLd03
		統計学入門	NSLd04
専 門 基 礎 科 目 F	人体の構造と機能 a	健康スポーツⅠ	NSLd05
		健康スポーツⅡ	NSLd06
		人体構造と機能Ⅰ	NSFa01
		人体構造と機能Ⅱ	NSFa02
		人体構造と機能Ⅲ	NSFa03
		生化学	NSFa04
	疾病の成り立ちと回復の促進 b	微生物学	NSFa05
		栄養学	NSFa06
		病理学	NSFb01
		病態治療学Ⅰ	NSFb02
		病態治療学Ⅱ	NSFb03
		病態治療学Ⅲ	NSFb04
	健康支援と社会保障制度 c	病態治療学Ⅳ	NSFb05
		看護薬理学	NSFb06
		公衆衛生学	NSFc01
		疫学	NSFc02
		保健情報論	NSFc03
		保健医療福祉行政論	NSFc04
		チームアプローチ入門	NSFc05

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
専 門 科 目 M	基礎看護学 a	看護学概論	NSMa01
		看護倫理	NSMa02
		看護過程論	NSMa03
		基礎看護技術Ⅰ	NSMa04
		基礎看護技術Ⅱ	NSMa05
		基礎看護技術Ⅲ	NSMa06
		基礎看護技術Ⅳ	NSMa07
	地域・在宅看護学 b	地域・在宅看護学概論Ⅰ	NSMb01
		地域・在宅看護学概論Ⅱ	NSMb02
		地域・在宅看護学援助論	NSMb03
		地域・在宅看護学援助方法	NSMb04
		地域包括ケア論	NSMb05
	成人看護学 c	成人看護学概論	NSMc01
		成人看護学援助論	NSMc02
		成人看護学援助方法	NSMc03
	老年看護学 d	成人看護学援助方法	NSMc03
		老年看護学概論	NSMd01
		老年看護学援助論	NSMd02
	小児看護学 e	老年看護学援助方法	NSMd03
		小児看護学概論	NSMe01
		小児看護学援助論	NSMe02
	母性看護学 f	小児看護学援助方法	NSMe03
		母性看護学概論	NSMf01
		母性看護学援助論	NSMf02
	精神看護学 g	母性看護学援助方法	NSMf03
		精神看護学概論	NSMg01
		精神看護学援助論	NSMg02
	看護の基盤と応用 h	精神看護学援助方法	NSMg03
		看護過程展開方法	NSMh01
		家族支援論	NSMh02
		救急救命学	NSMh03
		クリティカルケア看護学	NSMh04
		周術期看護論	NSMh05
		リハビリテーション論	NSMh06
	看護の統合と実践 i	緩和ケア論	NSMh07
		医療安全管理論	NSMi01
		災害看護論	NSMi02
		看護管理論	NSMi03
		国際看護論	NSMi04
		スタートアップセミナー	NSMi05
		キャリアデザインセミナー	NSMi06
		看護研究Ⅰ	NSMi07
		看護研究Ⅱ	NSMi08
	臨地実習 j	看護学総合講義	NSMi09
		基礎看護学実習Ⅰ	NSMj01
		基礎看護学実習Ⅱ	NSMj02
		地域・在宅看護学実習Ⅰ	NSMj03
		地域・在宅看護学実習Ⅱ	NSMj04
		領域横断看護実習	NSMj05
		成人看護学実習	NSMj06
		老年看護学実習	NSMj07
		小児看護学実習	NSMj08
		母性看護学実習	NSMj09
		精神看護学実習	NSMj10
	公衆衛生看護学 k	統合実習	NSMj11
		公衆衛生看護学概論	NSMk01
		公衆衛生看護学援助論Ⅰ	NSMk02
		公衆衛生看護学援助論Ⅱ	NSMk03
		公衆衛生看護学援助方法	NSMk04
		公衆衛生看護管理論	NSMk05
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	NSMk06
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	NSMk07

	氏名	E-mail
1	あべ はるみ 阿部 春美	h_abe@seiyogakuin.ac.jp
2	あべ みきか 阿部 幹佳	mk_abe@seiyogakuin.ac.jp
3	いずみだ さとみ 泉田 さとみ	s_izumida@seiyogakuin.ac.jp
4	いとう まりこ 伊藤 茉莉子	ma_itou@seiyogakuin.ac.jp
5	いわま まきのり 岩間 正典	m_iwama@seiyogakuin.ac.jp
6	えんどう みほこ 遠藤 美穂子	m_endou@seiyogakuin.ac.jp
7	おかざき そよか 岡崎 草代夏	s_okazaki@seiyogakuin.ac.jp
8	おかざき ゆうこ 岡崎 優子	y_okazaki@seiyogakuin.ac.jp
9	おぐら まき 小倉 真紀	m_ogura@seiyogakuin.ac.jp
10	かとう まりこ 加藤 真理子	m_kato@seiyogakuin.ac.jp
11	きのした みさ子 木下 美佐子	m_kinoshita@seiyogakuin.ac.jp
12	くわた えみこ 桑田 恵美子	e_kuwata@seiyogakuin.ac.jp
13	こばやし あつこ 小林 淳子	a_kobayashi@seiyogakuin.ac.jp
14	さいとう みか 齋藤 美華	m_saito@seiyogakuin.ac.jp
15	さかむら さち 坂村 佐知	s_sakamura@seiyogakuin.ac.jp
16	さとう きよこ 佐藤 清湖	k_satou@seiyogakuin.ac.jp
17	さとう ふみこ 佐藤 富美子	f_satou@seiyogakuin.ac.jp
18	さとう ゆきこ 佐藤 幸子	yu_sato@seiyogakuin.ac.jp
19	さとう ゆきこ 佐藤 由記子	yk_satou@seiyogakuin.ac.jp
20	さとう りえ 佐藤 理恵	r_satou@seiyogakuin.ac.jp
21	すえなが こ 末永 カツ子	k_suenaga@seiyogakuin.ac.jp
22	すがわら なおみ 菅原 尚美	n_sugawara@seiyogakuin.ac.jp
23	たかはし ゆみ 高橋 由美	y_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
24	たけだ みなこ 武田 美奈子	m_takeda@seiyogakuin.ac.jp
25	たけだ りえ 竹田 理恵	r_takeda@seiyogakuin.ac.jp
26	たなべ けいこ 田辺 圭子	k_tanabe@seiyogakuin.ac.jp
27	たばやし こういち 田林 暁一	k_tabayashi@seiyogakuin.ac.jp
28	てづか ゆきこ 手塚 有希子	y_teduka@seiyogakuin.ac.jp
29	とうかいりん みゆき 東海林 美幸	m_toukairin@seiyogakuin.ac.jp
30	ふたくち ひさみ 二口 尚美	h_futakuchi@seiyogakuin.ac.jp
31	まさめ けん 真覚 健	k_masame@seiyogakuin.ac.jp
32	またに じゅんこ 真溪 淳子	j_matani@seiyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【看護学部 看護学科】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
看護学概論	1	2	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護に関する基本的概念、看護実践における主要な看護理論についての理解を深められるような授業を展開する。
看護倫理	1	1	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、医療現場での倫理的諸問題を提示しながら、倫理的判断に必要なとなる基礎的知識について教授する。
地域・在宅看護学概論Ⅰ	2	1	小林 淳子	保健師として自治体での地域看護活動の実務経験を活かし、学生が地域療養を支える看護について理解を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学概論Ⅱ	2	1	高橋 由美	看護師として、地域・在宅看護（訪問看護・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、具体例を提示しながら学生の理解を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学援助論	3	2	高橋 由美	看護師として、地域・在宅看護（訪問看護・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、具体的事例を提示しながら多職種との連携、在宅ケアを支える制度等、地域・在宅看護の実践に必要な知識について教授する。
			東海林 美幸	病院看護師、訪問看護師、ケアマネジャーとしての実務経験を活かし、在宅療養を支える看護活動について教授する。
地域・在宅看護学援助方法	3	1	高橋 由美	看護師として、地域・在宅看護（訪問看護・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、多様な場や状況に応じた看護支援方法について理解を深められるような授業を展開する。
			東海林 美幸	病院看護師、訪問看護師、ケアマネジャーとしての実務経験を活かし、様々な疾患を抱えた療養者と家族への在宅看護の原則や援助方法について教授する。
小児看護学概論	2	1	佐藤 幸子	看護師、保健師としての実務経験を活かし、小児の発達段階の特徴・看護との関連性について教授する。また、小児看護に関する看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
小児看護学援助方法	2	1	佐藤 幸子	看護師としての実務経験を活かし、子どもの病棟・外来における看護、慢性期・急性期にある子どもとその家族への看護の実践方法について教授する。
			武田 美奈子	看護師として病院や療育センターで培った実務経験を活かし、ハイリスク新生児、在宅、感染症、災害を受けた子どものケア等、小児看護の実践方法について教授する。
			岡崎 草代夏	看護師としての実務経験を活かし、子どもと家族の看護を実践するために必要な知識・技術・態度について教授する。
精神看護学援助方法	2	1	阿部 幹佳	看護師としての実務経験を活かし、精神看護の実践の特徴、多職種連携の必要性について教授し、演習を通して、精神看護における実践能力を身につけられるような授業を展開する。
			加藤 真理子	看護師として精神看護の臨床現場で培った実務経験を活かし、精神疾患を持つ患者への看護について、学生が具体的にイメージして考察を深められるよう、疾患別の看護実践について教授する。
医療安全管理論	4	1	木下 美佐子	看護師、医療安全管理者、認定看護管理者としての実務経験を活かし、国の医療安全対策への理解と臨床現場における医療安全管理の基礎的知識への理解を深められるような授業を展開する。
看護管理論	4	1	阿部 春美	看護師、病院看護管理者、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護管理の基礎的知識を身につけられるような授業を展開する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

2025（令和7）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。